

中国での矢口先生。浙江省の新安江水庫にて釣りあげた黄尾魚（1ｍ20㎝，30㎏）。

ボクは、いつしか貝沼の青ブナをひとつのロマンとしてみつめていた。いずこかの湖沼で生まれたヘラブナが、水鳥の足について大空からはこばれてきたのではないだろうか。貝沼の外輪の深い緑と、青い澄みきった水につつまれて暮らしているうちに、身も心も青味をおびていったのではなかろうか。

（「あとがき」より）

（カバーデザイン　日本ヘリエールアートセンター）

KCSP 158

釣りキチ三平

第2集 フナ釣り編

矢口高雄

講談社

雑誌 45423-58
ISBN4-06-101158-8
C9979 ¥621E (3)

講談社 定価652円 本体621円

KCスペシャル
釣りキチ三平
1 アユ釣り編
2 フナ釣り編
3 イワナ釣り編
4 コイ釣り編
5 おもしろ釣り編
6 ヤマメ釣り編
7 謎の魚釣り編Ⅰ
8 謎の魚釣り編Ⅱ
9 イシダイ釣り編
10 コイ釣り編Ⅱ
11 ニジマス釣り編
12 ライギョ釣り編
13 イトウ釣り編Ⅰ
14 イトウ釣り編Ⅱ
15 イトウ釣り編Ⅲ
16 おもしろ釣り編Ⅱ
17 ムツゴロウ釣り編Ⅰ
18 ムツゴロウ釣り編Ⅱ
19 秘伝アユ漁編Ⅰ
20 秘伝アユ漁編Ⅱ
21 渓流釣り編
22 アカメ釣り編
23・24 フライフィッシング編Ⅰ・Ⅱ
25 怪魚釣り編
26・27・28 サーモン・ダービー編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
29・30 マス釣り編Ⅰ・Ⅱ
31・32・33 ブルーマーリン編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
34・35 キャスティング編Ⅰ・Ⅱ
36 ヘラブナ釣り編
37 アユ釣り編Ⅱ
大好評発売中！

釣りキチ三平



第2集　フナ釣り編

矢口高雄



釣りキチ三平〈第2集〉フナ釣り編

もくじ

カルデラの青鮒の巻…… 6
幽沼の羽衣鮒の巻…… 222
おっぽり沼の緋鮒の巻…… 261
焼沼の宇宙鮒の巻…… 301
あとがき…… 338

釣りキチ三平（さんぺい）



第2集　フナ釣り編

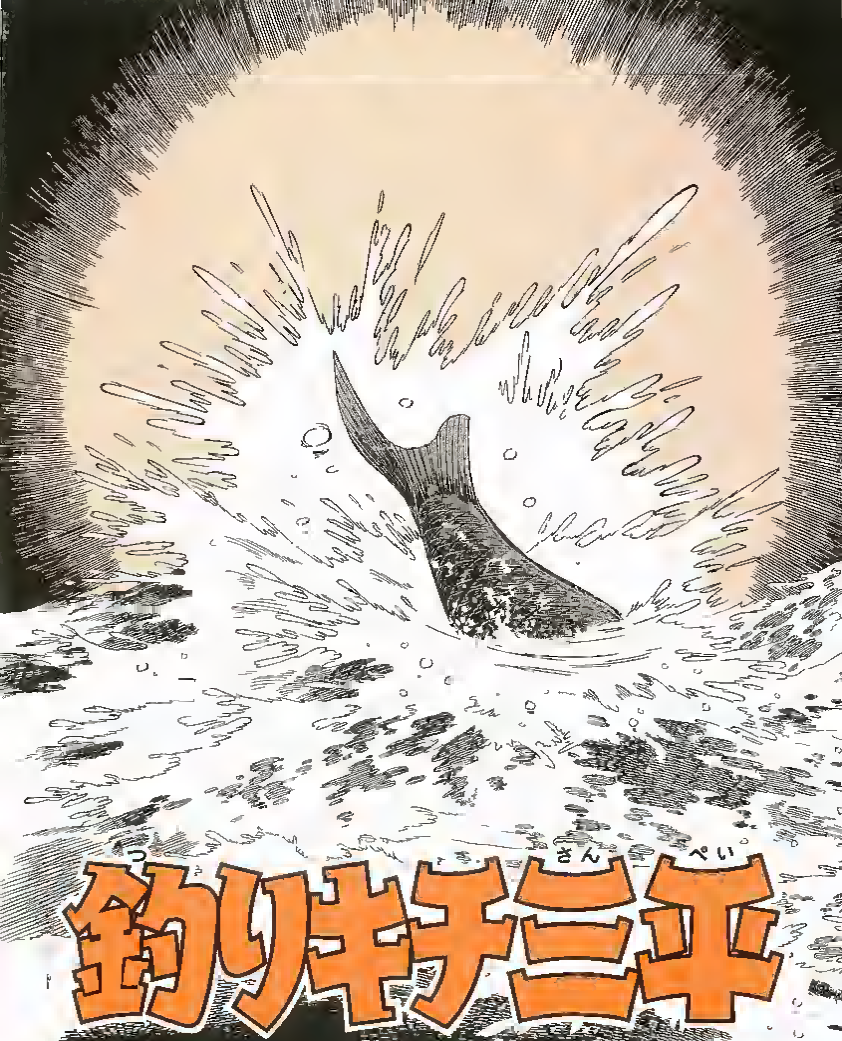
矢口高雄（やぐちたかお）


しかも
かだすをのんで
見守る浮子が
フッと消し込んだ
「ヒベラだっ!!」


M町より
約二十キロのところに
貝沼という
沼がある
この沼は
大むかしに
火山の爆発で
できた窪地に
水がたまったもので
小型のカルデラ湖
である

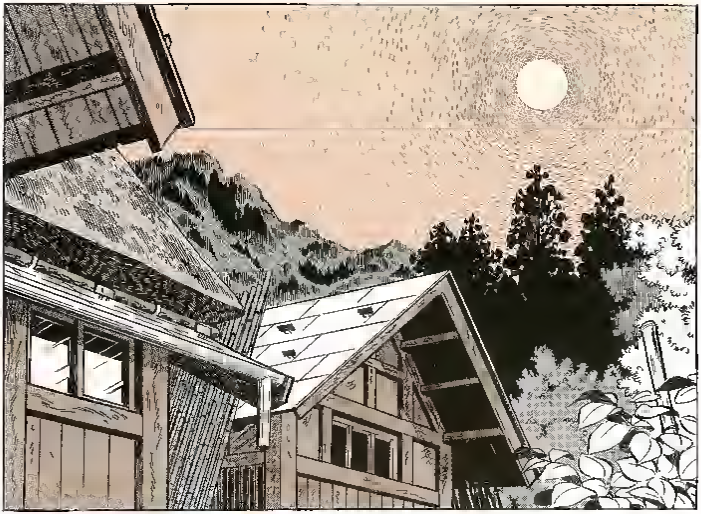

土地の人びとの話によるとこの沼には正体不明の鯖かすんでいるというか…
いまたに釣りあげた人もなくその正体は確認されていない
だが 体色が青味をおびていることから土地の人びとのあいだでは青鯖とよばれている……

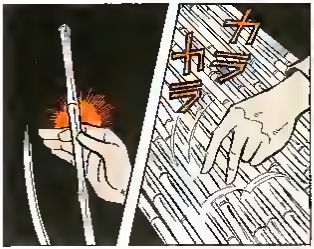


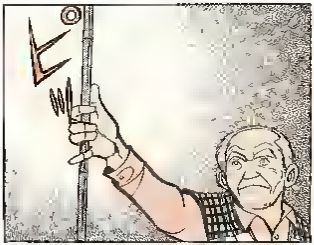


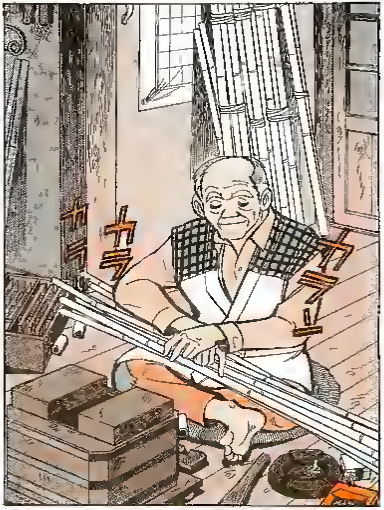
釣りキチ三平

カルデラの青鮒の巻

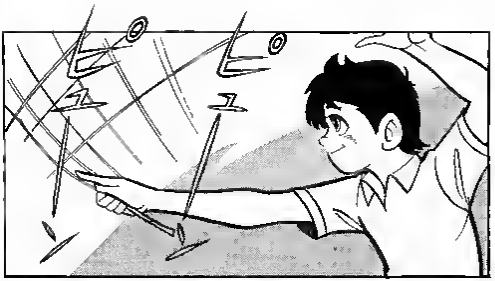



カラ
カラ

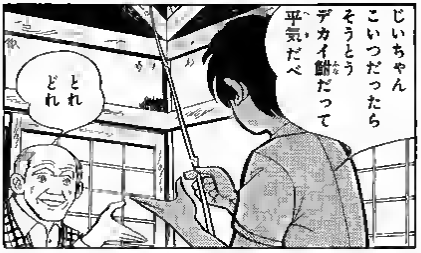



カラ
カラ
カラ


ウーン……
ピッタシだな……
三平(さんぺい)穂先(ほさき)はきまったか
ちょっと待っていまとびっきりいいやつをさがしてるから
エエト穂先(ほさき)のいいのは……と


ヒュ
ヒュ

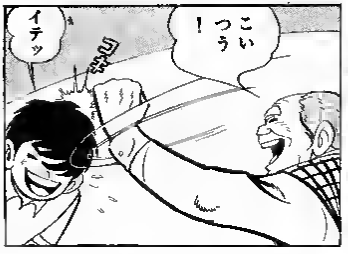

ウーン
こいつは
バツグンだな
強さといい
やわらかさといい


じいちゃん
こいつだったら
そうとう
デカイ鮒だって
平気だべ
とれ
とれ


おお!!
ピッタシ
だな
こいつあ
ネジレがな〜
まっすぐに
のびていて
いい穂先だ


おどろいたな三平
おめえには
竿づくりのことなんか
教えたことも
なかったが 一発で
こいつをえらびだす
なんざあ
てえしたもんだぞ

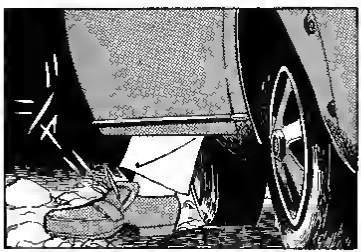

あたりめえだべ
じいちゃんの
つくるところを
毎日見てるん
だもん
おぼえねえ
ほうが
よっぽど
どうかしてるって

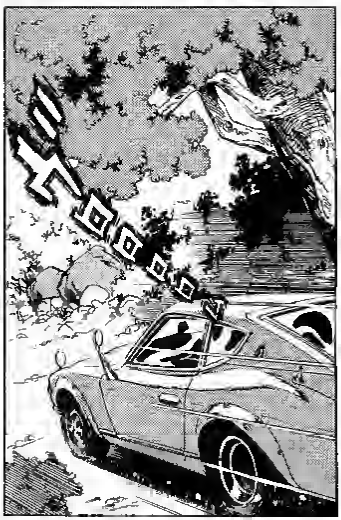

こいつう!
コツン
イテッ


ハハハハ
じょうだんは
ぺつとしても
こいつぁ
腕のふるいがいの
ある竹が
そろった
もんじやて
ほんと
かい
じい
ちゃん
ああ
いい竿が
できるぞ
うわ〜〜〜っ
そんじゃあ
はやく
あたらしい竿で
青鰭に挑戦
したいなあ
フフ
青鰭か・・・
まあ
そんなに
せくなて・・・
竿の
ことは
わしに
まかして
おけ
あれっ
じいちゃん
どこさ
いくだ
これじゃ
これ
いい竿を
つくるときにゃ
いっぱい
ひっかけて
心をしずめてから
かかることに
してるて ハハハ
あいかわらず
お酒がすき
だなあ








ブロロロ


？
ちょっと家をたずねたいが…
ハア
このへんに三平一平という和竿づくりの名人がいるということだが
知らんかね…
あらそれだば三ちゃんの家だべ
三ちゃんの家だば知るも知らねえもおらの家のとなりの家だ
つれてってやるからおらのあとついてこい
おめえ見なれねえ顔だな町からきたのけえ
カラン
コロ


……
一平じいちゃんに用事があるところをみると釣り竿をつくってもらいにきたのか
いちいちこうるせえガキだな
だから女ってのはすかん
そんなにピーチクさえずらねえでだまって案内だけしてくれりゃあいい
フンなにさ
おらただで案内してやってるだ大きな口をたたくでねえ
ホホウませたガキだなそれじゃ案内料をはらうぜ
すくねえがとっとけ
ギャー

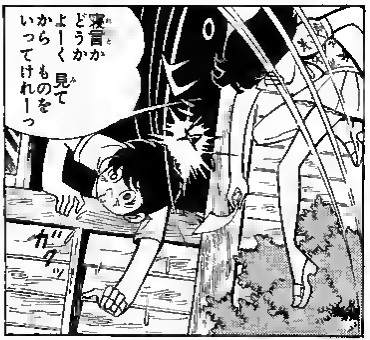

ン!?
ホントカ――っ
タハーッ
おれって
キザだなあ
千円札と
まちがって
一万円札を
やっちまったか
まあいいさ
しょせんは
金ですむこと
じゃねえか
ガハハハ


たたた…
たいへんよーっ!!
三ちゃんいるーっ


どうしただユリッペそんなにあわてたりして


た たいへんたいへん
おめぇのとこさ一万円札がたずねてくるだーっ


なーに寝言ふいてるだ一万円札があるいてくるわけあるめえてバーカ

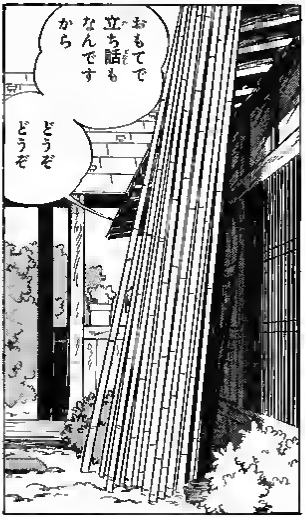

寝言かどうかよーくものを見てからいってけれーっ
ガッ


ヒラヒラ


ほ ほんとだ たまげた なーっ
カチ
ど どうだ 三ちゃん これでも おらが 寝言 ふいてる だか!?
ユユリッペ そりゃあ ホンモノかや 夢でねえか
カタ カタ
うっ
こ このにいちゃんが 一万円札 なんだよーっ
えっ
カタ
どうやら ガキには ふさわしく ねえ 紙きれの ようだな


ハロー
……
ぷ
こっちと交換しよう
スル
三平なんか話し声がするようだがだれかきたのかな
じいちゃん一万円札がきてるだ
一万円札じゃとなにねばけているだ三平
ムラッ
!!


三平一平さん
というのは
あんたかい


おもてで
立ち話も
なんですから
どうぞ
どうぞ


はズめまして・・・
おらが
三平一平じゃが

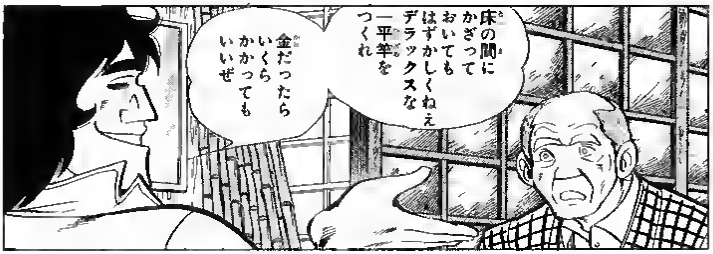

おれは
石崎努
県会議長の
むすこだと
いえば
わかって
もらえる
かな・・・


ホホウ
石崎
県会議長の
ご子息さま
だすか・・・
そんで
おらみてえな
もんに
なんの用ですか


おやじの話によると
へんぴな山村に
かくれ住む
年老いた和竿
づくりの名人が
いるという
釣りキチの
あいだで
有名な一平竿
の作者だとか・・・


ハハハ……
べつに世間から
かくれ住んでる
わけでもねえし
ましてや
名人でも
なんでも
ねえだが
たしかに
一平竿は
おらが
つくって
いるだ
フフ……
その名人竿師に
おりいって
たのみたい
ことがあって
きた
竿を
ひとふり
つくって
ほしい
時間が
ない
至急だ
ホホウ
これは
きゅうな
ことだな
また
いったい
なにを釣る
竿ですか
な？
鮒だ
それは
けっこう
ですな
ヘラブナを
釣るんですか
いや
ヘラブナか
どうかは
はっきり
しないが
とにかく鮒だ
鮒のつれる
竿を
つくってほしい
こまりましたな
一平竿は
釣る対象魚に
よって 種類が
ありますだ
ヘラブナ用竿
鮎竿
渓流ムキ
など……


そんなことはわかってるがとにかく鰤を釣る竿がほしいのだ
客の注文にゴタゴタ文句をならべねえですなおにつくったらどうだい
なんじゃと……


床の間にかざっておいてもはずかしくねえデラックスな一平竿をつくれ
金だったらいくらかかってもいいぜ


いいまなんといったんじゃ……
か金に糸目をつけねえかざりものの竿をつくれだと!!
そうだ たとえ百万かかろうが二百万かかろうがいい


どうせおやじが出す金だ


けえれっ!!
おめえのような小僧がつかう竿は一本もできねえ!!
人を見てものをいえ人を!!
やせてもかれてもこの三平一平は釣るための竿をつくっとるんじゃ
金に糸目をつけねえかざりものの竿なんぞ死んでもつくらん
おめえのような小僧っ子がつかうのはこれでじゅうぶんじゃい
こののべ竿でな…
これを持ってとっとけえれ!!


ク クソオ
オイボレめっ
おぼえてろよ


ううっ


いわねえでも
ようく おぼえて
おくべ…
そのチチくさい
ツラをな
…
親の金を
あてにしねえで
自分の力で
釣りを
たのしめるように
なったら
また こい


そんときは
金なんぞ
いらん
一平竿は
ただで
くれてやるて
わかった
か!!
クソオ


ククッ
あの
オイボレめっ
にいちゃん
うっ
だれだっ
へへへ
おめえは
ウウッ
おめえ
どうして
それを
にいちゃんが
釣ろうと
している
鮹ってやつは
もしかして
カルデラの
青鮹のこと
じゃねえのか


どうしてカルデラの青鮒のことを知ってるんだ
だれから聞いたんだ
そんただこと だれからだって いいべ・・・


それよか おらが青鮒と いっただけで そんなに びっくらこいた とこをみると ・・・
にいちゃんも青鮒を ねらってるな


クックック おもしれえ ことをいう ガキだな おめえの 名まえは なんていうんだい


おら 三平 ・・・ 三平三平って いうだ
にいちゃんは たしか 石崎努さん でしたね


み……
三平
三平
……
そ そうか
おめえが
三平三平か
……


ことしの
全県鮎釣り大会で
大のおとなを
しりぞけて
ゆうゆう優勝を
かっさらった子ども
がいたと聞いたが
それが
おめえだって
わけか


なーんだ
にいちゃん
おらのこと
知ってるで
ねえか


なあにね
サンペイサンペイ
なんて
人をくった
名まえだから
みょうに
頭のすみっこに
こびりついてた
だけさ
ことわって
おくが おれは
鮎釣りなんかにゃ
これっぽっちも
興味をもっちゃあ
いねえぜ


いまの おれの
頭の中にあるのは
カルデラ湖 貝沼の
底深くねむり
いまだ だれにも
釣られたことの
ねえといわれる
……
幻の
青鮎
だけよ!!


そいつを釣るには
強靭て腰が強い
一平竿を
どうしてもほしかったのだが…
クソオ
あのガンコじじいめ
ことわりおって
だからおらのじいちゃんが
なにを釣るんか
聞いたときに……
正直にこたえれば
よかったのに


バカな
そんなことを
もらしたら
青鮒の情報が
みんなバレちまう
じゃねぇか


じいちゃんは
そんな口の
かるい人でねえ


そんなに
じいちゃんの
つくった竿が
ほしいなら
おらがもう一度
たのんであげても
いいよ
ふざけたことを
いうなっ
あれほど
コケおどしされて
いまさら
オメオメと
いけるのかよう

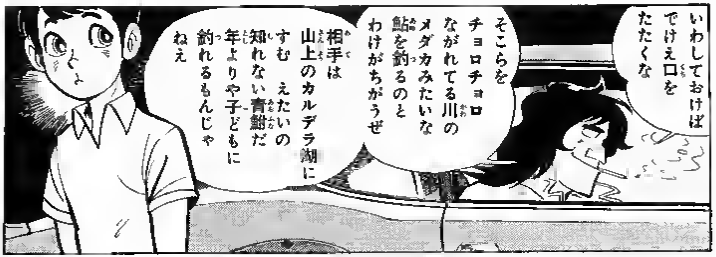

なにも一平だけが釣り竿じゃあるまい
かえったらあのガンコじじいにそういっとけ
それに青鯛の情報はほかのれんじゅうにベラベラとしゃべるんじゃねえ…となあ

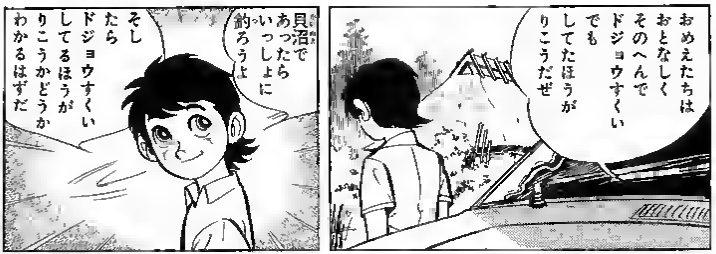

どうしてしゃべっちゃいけないの
フフフ三平くん


カルデラの青鯛はだれにも釣らせん!!
このおれが最初に釣りあげるまではな…

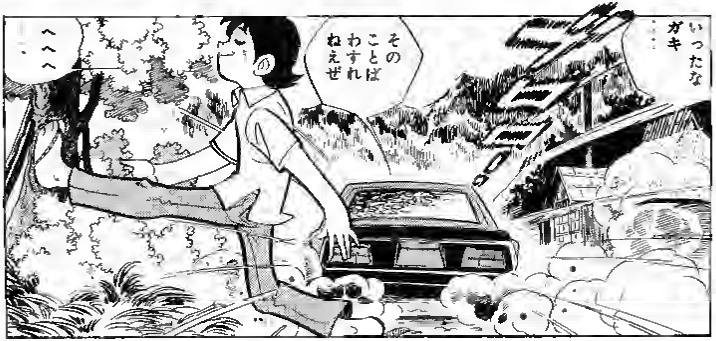

なんだとオ…
おら近いうちにじいちゃんと貝沼さいってみるつもりだ

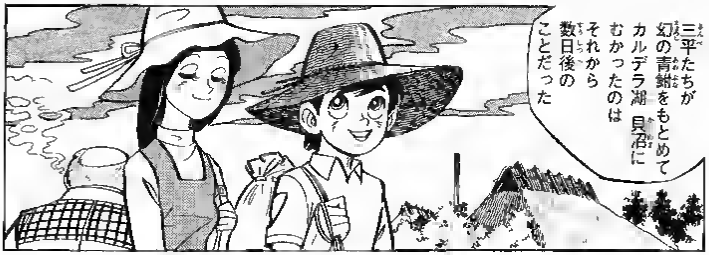

にいちゃんにそんなことという権利はねえべ
青鯛を釣るのは早いもの勝ちだべえ


いわしておけばでけえ口をたたくな
そこらをチョロチョロながれてる川のメダカみたいな鮎を釣るのとわけがちがうぜ
相手は山上のカルデラ湖にすむ　えたいの知れない青鮒だ
年よりや子どもに釣れるもんじゃねえ

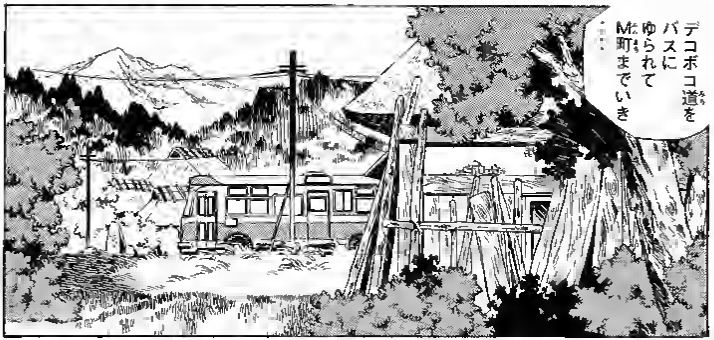

おめえたちはおとなしくそのへんでドジョウすくいでもしてたほうがりこうだぜ
貝沼であったらいっしょに釣ろうよ
そしたらドジョウすくいしてるほうがりこうかどうかわかるはずだ

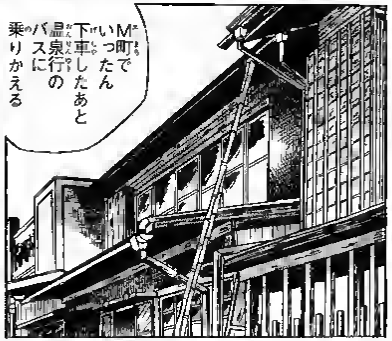

にいちゃんなんかに負けはしねえぞ
青鮒はおらが釣りあげるだ・・・


いったなガキ・・・
そのことばわすれねえぜ
へへへ・・・


三平たちが
幻の青鯖をもとめて
カルデラ湖 貝沼に
むかったのは
それから
数日後の
ことだった


一平
じいちゃん
バスが
きたわよ
おっ
そうか

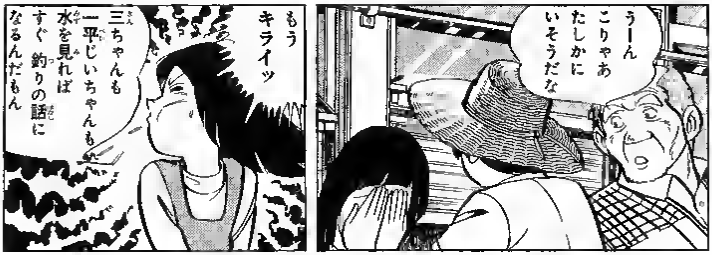

デコボコ道を
バスに
ゆられて
M町までいき

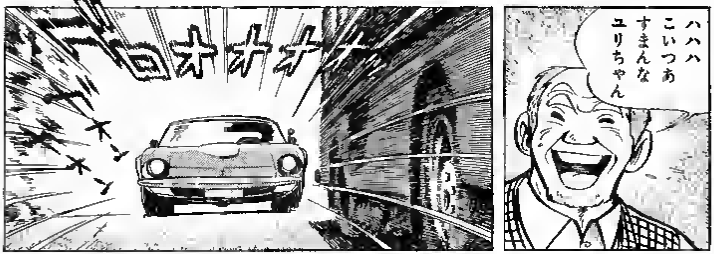

M町で
いったん
下車したあと
温泉行の
バスに
乗りかえる

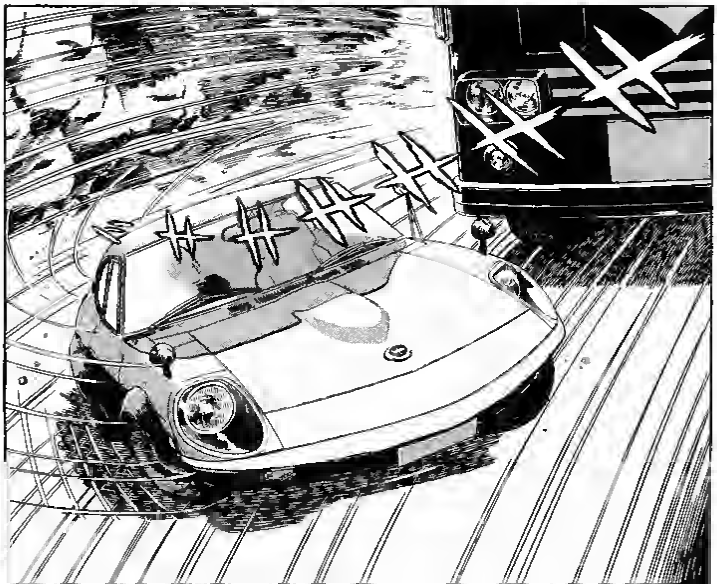

ここからは
あよそ二十キロで
めざす幻の青鮒が
すむという
貝沼だ


カーブのおおい
急勾配の
道を
ゆっくりと
バスはすすむ


うわっ
どうしただ
ユリッペ
み見てよ
三ちゃん
窓の外を
見てよ
おっ
すげえ
なっ
じいちゃん
崖の下に
すげえ谷川が
流れてるぞ
あすこ
イワナや
ヤマメが
うじゃうじゃ
いそうだな


うーん
こりゃあ
たしかに
いそうだな
もう
キライッ
三ちゃんも
一平じいちゃんも
水を見れば
すぐ 釣りの話に
なるんだもん


ハハハ
こいつあ
すまんな
ユリちゃん
ブオオオオン
ブオオオオン



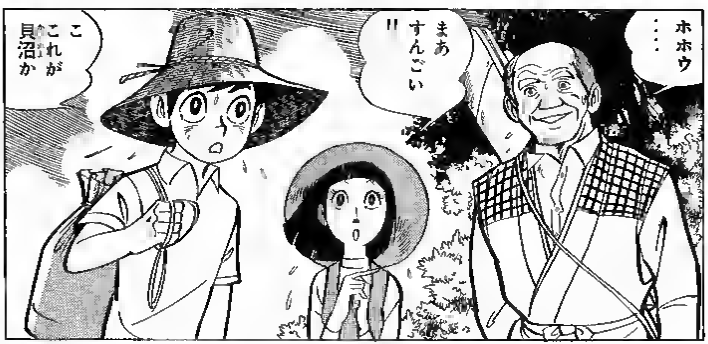

ウエーッ
あぶねえなあ
なんちゅう
ムチャな運転を
するやつじゃ
バカヤローッ
いきなり
追いこす
やつがあるか
こんなところで
ぶつかった日にゃ
命がいくつ
あってもたりん
じいちゃんいまの
車とっかで
見たような
気がするだ
おらも
だ…


あたりは
卵のくさった
ような独特の
においが いっぱい
ただよっている


バスは
どうやら
ふじに温泉に
ついた


めざす貝沼は
この温泉から
徒歩で十五分の
ところにある
貝沼
三平たちは
とるものも
とりあえず
貝沼をめざして
走る




ホホウ……
まあ すんごい!!
これが尾瀬か




いたるところが釣り場だ
これなら幻の青鮫がいるかもしれない


三平 いつまで見とれてるだ さあ まず青鮫の情報をあつめるべ



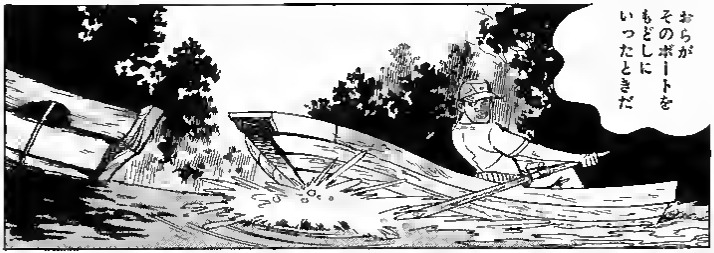

ちょっと
おうかがい
しますが
貸ボート
貸ボートの早瀬屋
ホホウ
あんたたちも
青鯰を釣りに
きたのけえ
ハア
クラッカー

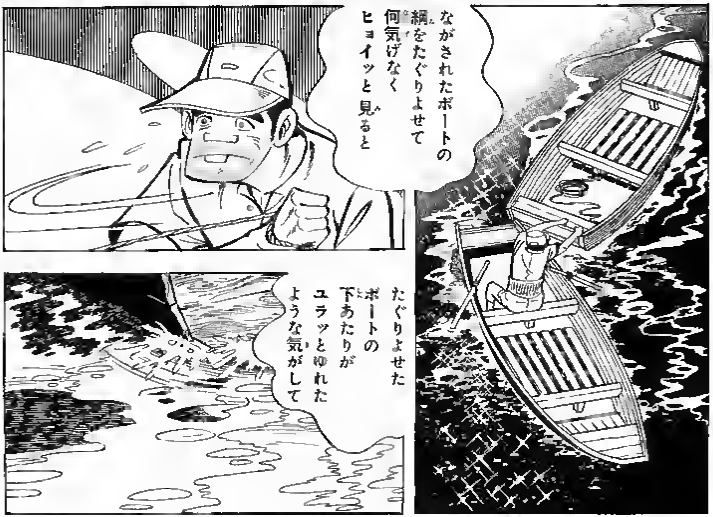

やめとけ
やめとけ
青鯰なんて
釣れるもんじゃ
ねえ!!
いままでに
何百人という
釣り天狗どもが
ためして
みたが
だれひとりと
して釣った
ものは
いねえだ


そりゃあおめえ
目撃したちゅう
人は十人や
二十人では
きかねえべ
おらだって
じっさいに
この目で
見たことも
あるだ

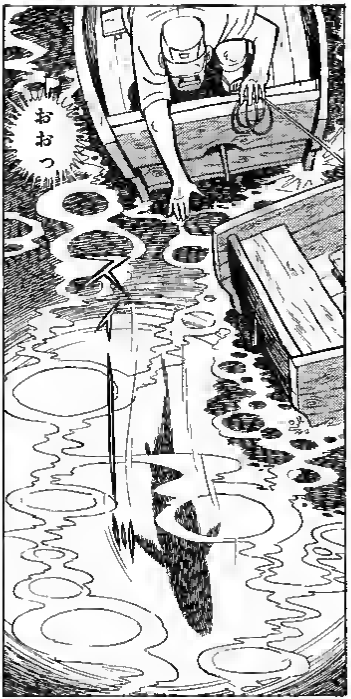

でもおじさん
その青鯰を見た
という人は
いるんでしょう


あれは
おととしの
ことじゃった
が…
岸づけ
していた
ボートの綱が
ほどけて
風に
あおられて
沖まで
ながされた
ことが
あっただ


おらが
そのボートを
もどしに
いったときだ


ながされたボートの
綱をたぐりよせて
何気げなく
ヒョイッと見ると
たぐりよせた
ボートの
下あたりが
ユラッと沖れた
ような気がして


青鯰だっ
あれが
数年前から
釣り人の
あいだで
うわさされて
いる 青鯰に
ちげえねえ


おおっ




水ん中のことじゃが
大きさは一尺ぐれえは
いや二尺ぐれえは
あったかなあ
この沼は
ごらんの
とおり
青々とすんだ
水をしとるが
その青い水が
なお いっそう
青く
ジワーッと
にじんだように
なって……
その にじんだ
かたまりが
すうっと
動いて
深場へ消えて
いっただ


もっとも
貝沼にゃあ地元の
れんじゅうが
鯉を放流した
ことがあるので
その鯉だと
いう人もあるが
わしの見たところ
あれは鯉の
色じゃねえだ
やっぱり
あれは
青鮒としか
いいようが
ねえな
ほかに
釣れる
魚は
ないですかな


それが
どういう
わけか
こんなやつが
バカスカ
釣れるだ
まあ
見てくれ
魚拓
ですな


ヘラブナじゃ
ねえか
これは…
たしかに
ヘラブナだが
むかしは
この沼には
一ぴきも
いなかったし
放流したものも
いねえ…
んだのに
いつのまにか
こいつが
ふえてきて
いまじゃあ
バカスカ釣れるだ
ボウヤ
青鮒なんか
釣ろうなんて
気をおこさんと
このヘラブナを
ねらえ
これだったら
ボウヤのような
子どもでも
らくに釣れるで
カハッ


クソオ
おもしろくねえな あのボート屋のおやじ
おらのことボウヤなんて!!
ハハハハくさるな三平
ホントのことじゃないの…三ちゃんなんかまだボウヤよ
いったなユリッペ
おらよりふたつだけ年上だといってでっけえツラをすんなよっ
こんどの青鯖釣りだってじいちゃんとふたりでくるつもりしてたところにおめえがつれてってくれつれてってくれとガタガタ泣きわめくからしかたなくつれてきたんじゃねえか
やったわね三ちゃん
これこれふたりともよさんか
なにさボウヤのくせして
なにおこのババア


三平
ケンカなんぞしてる場合じゃねえ!!
おらたちのねらいはヘラや鯉じゃなくて
あくまでも青鮒といわれるやつを釣ることじゃ
すみません
だから早く釣ろうよ


あわてるなこのひろいとこから一ぴきの青鮒をぬきとるには一日や二日ではむりじゃ
バシッと本腰をいれてかからんと釣れめえ
いきあたりばったりでやったところでろくな結果にはならん
ほねのおれるこっちゃが沼のすみからすみまでじっくりとしらべて釣り場をしぼってかからねばな…


おらこれから温泉さいって宿をとってくるだ
釣れるまでは家にかえらんから そのつもりでな


するとじいちゃんおらたち温泉さとまって釣るのけえ


あたりめえよかくごしておけ
ケヘヘもうなかなおりしてるて
おらがかえるまでそのへんでためし釣りでもしてろ


ウヒョ〜〜〜ッ
三ちゃんのじいちゃん話せるわねえ

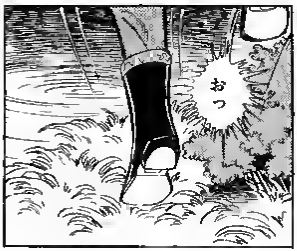

あら
あんなとこで
赤い帽子の
人が
釣ってるわ
ン!?

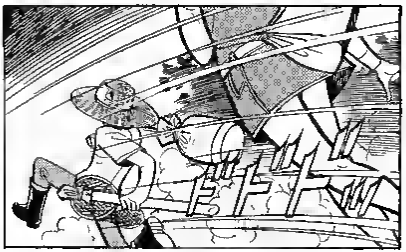

じいちゃんが
いなくても
だいじょうぶ
なの…
三ちゃん
まかし
とけって




ユリソペ
あの人の
とこさ
いってみるべ
もしかして
青鮎のことで
耳よりな
情報が聞ける
かもしれん




おっ


ドドド




おかしいな
たしかに
ここで
赤い帽子の
人が釣ってた
はずだが…
きゅうに
消えた
みたいだわ


まあ
あぶないわ
山火事に
でも
なったら
たいへんよ


タバコだ

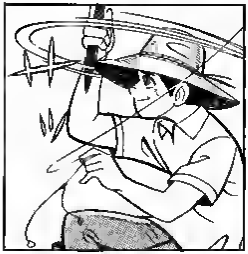

こういうことを
するのは
釣り人のマナー
としては
最低だ
すいガラ入れを
持ってくるなり
土の中に
うめるなり
しなくては
いかん

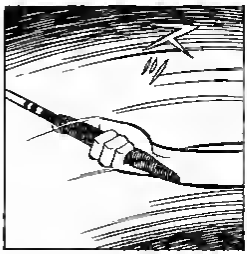

それにしても
おかしいな
どこへ いっちまったのかなあ…
三ちゃん
おら なんだか
気味わるく
なってきただ
へつのとこさ
いこう

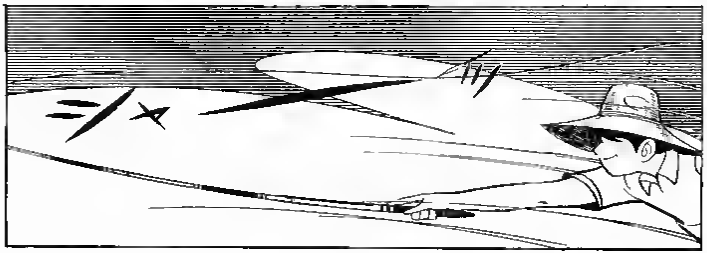

ユリッペ
こっちだ
こっち


じいちゃんが
かえるまで
だから ホンの
小手しらべの
つもりで
ヘラブナの
しかけで
やってみるだ


おめえにも
あとで
ゆっくり
教えるから
だまって
おらのやるのを
見ているだぞ








ポ
クィ
こうして竿かけに竿をかけて
竿のさきは水中にすこしもぐらせて
あとはだまってウキのぐあいを見ていればいいだ


鯉ってやつはたいてい水藻やアシのしげってるところや木や杭があるところにすみついているので
そこが絶好の釣り場というわけだ
いいポイントほど障害物がおおいのね
そりゃあそうさ
そんでそこにうちこむのが腕さ…へへへ
ピク
ピク
ウヒョッ
きたっ


さ
三ちゃん
すごい
わっ
一発で
あたりねっ
うひょ〜〜〜っ
これは　すごい
ひきだ
三ちゃん
でっけえな!!
がんばって!!
グ
グ
ー

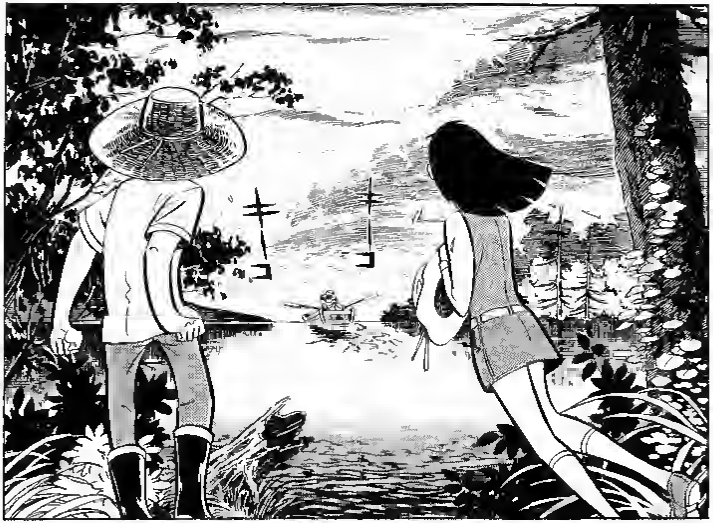

ククッ
またもぐったか
水面に顔さえ出してしまえばもう こっちのものだが
ズサッ
クソおしぶといやつだこのぶんだとそうとうでっけえやつだぞ
三ちゃんもしかして青鯰じゃねえか
まさかまあ見てろ!!
ジュル
プ


すげえな三ちゃん・・・青鮒じゃねえのか
ちがうでっけえヘラブナだ五十センチちかい
一発でこんな巨ベラがくるくらいだから
おそらくこの沼には これ以上の大ものが ウヨウヨいるかもしれん


ズザザッ


キャッ
ン!?
ううっ
こ
これは!?


あっ
あ 青い色の
鮨……
青鮨だっ
だ だれが
投げて
よこした
んだ
？
だれだ こんな
いたずらを
したやつはっ
これは
ヘラブナに
青いペンキを
ぬった
やつじゃ
ねえか!!
三ちゃん
あれっ!!
あれは
……
うっ
だれだ
あの
赤い帽子の
釣り人は
……!?


キーコ
キーコ


さ三ちゃんだ だれだべあの人……
ペンキをぬったヘラブナを投げた人だべか……!?


三ちゃんもうかえろうおら なんだかおっかなくなってきただ

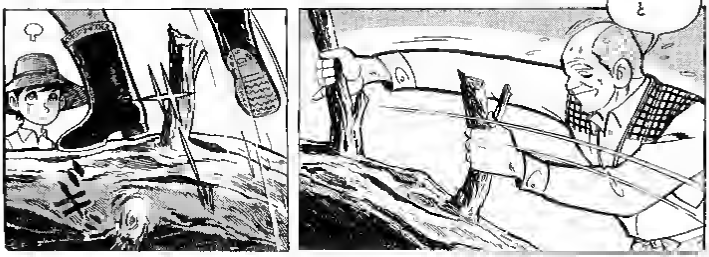

わ わからねえ……んだとも
あの赤い釣り帽子はさっき岸で釣ってた人のとよく似てる


まあまあ
まあ…
そんなに
ガタガタ
わめくなて
ユリッペ
おらが
ついてるで
ねえか
それに
おっつけ
じいちゃんも
かえって
くるころだ
こうなったら
三ちゃんみてえな
ボウヤでも
いないよりは
ましね
心ぼそいけど
クソオ
一平
じいちゃん
おそいなあ
まだかしら
あら
!?


じいちゃんだ!!
じいちゃーん
こっちこっちここだよ——っ
おう
ハハハすまんすまん
だいぶ待ちくたびれたじゃろ
早く早く!!
たいへんよたいへんなことがおきたのよ


なんでえ
ふたりとも
ツラの色ば
かえて
なんか
あったのけ
じいちゃん いま
船でくる とちゅう
赤い帽子かぶって
ボートに乗った人を
見かけなかったか
二人?


うんにゃ
見かけんぞ
おら…


よい
しょっと


どうしたもこうしたもまず これを見てけれじいちゃん
ふしぎなことがあればあるものだ


その赤い帽子とやらがどうかしたのけえ


ホホウこりゃあ青ペンキをぬったヘラブナじゃな


おらがこのヘラブナを一枚釣りあげたときあのしげみからそのペンキぬりのヘラブナが投げられただ


こりゃあ青鮹に見せかけただれかのいたずらにちげえねえ
そんで そんとき近くに人はいなかったのけえ…


赤い帽子をかぶった人がボートに乗って
おらたちが気づいたときはずうっと沖のほうへいってただ

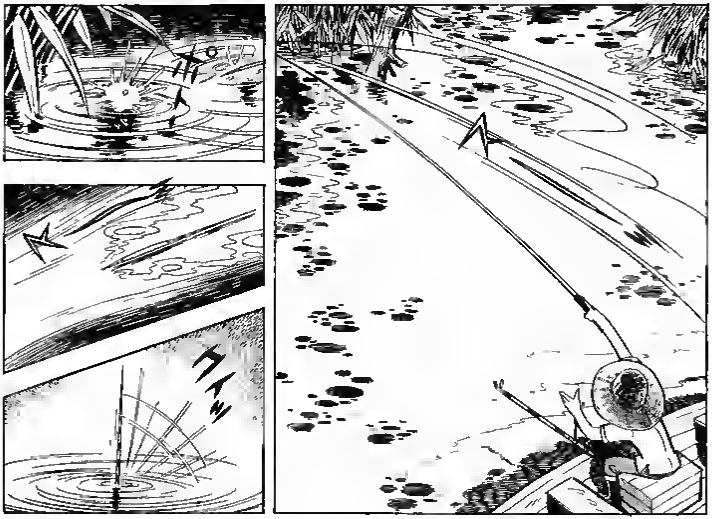

んだども その赤い帽子の人が 投げた という証拠は あるめえ
ところがな じいちゃん おらたちが じいちゃんと わかれた すぐあとで
その 赤い帽子の人が 岸辺で釣りを してるところを 見ただ
この沼で 釣ってる人 だから きっと 青鯰のことを 知ってるに ちげえねえと 思って
ユリッペと ふたりで 情報を聞く ために いってみただ
そしたらな いましがたまで いたはずの 人が 消えて しまったみてぇに いなくなって いるのよ
おらたち 気味わるくなって その場所から 逃げただ
顔は 見たのか
違くて 見ぇな かっただ
よしっ おめえたちの 話は わかった
それが 事実だと すれば たしかに ふしぎな ことだ


じゃがわしらの目的はこの貝沼にすむ青鮒といわれるヤツを釣りあげることじゃ
だれからもうらみをかうはずはねぇ
じいちゃんなーにカッコつけてるんだい
ン!?
ケヘヘ……
ふたりとも早いとこ船さ乗れ
ボート屋にうめえぐあいに和船が一そうあったから借りてきた
こいつで沼の中さ出てじっくりと釣り場さぐりをするぞ


うわーっ
水がきれいね
底まで
すけて見える
みたいだわ
シーッ
でっけえ声
出すてねえ
魚が散って
しまうぞ
ハハハ
三平
はじめてきた
ユリちゃんだ
大目に見て
やれ
すみま
せん

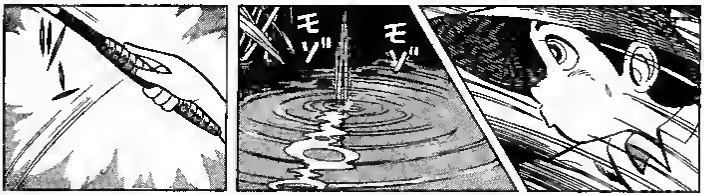

三平
あの雲のしげみはいけそうだな
船をとめるからためし釣りをしてみろ


ムハハッまかしとけって
フフ三ちゃんってよくよくの釣りキチだなや竿をにぎったら目の色がかわってくるんだもんね

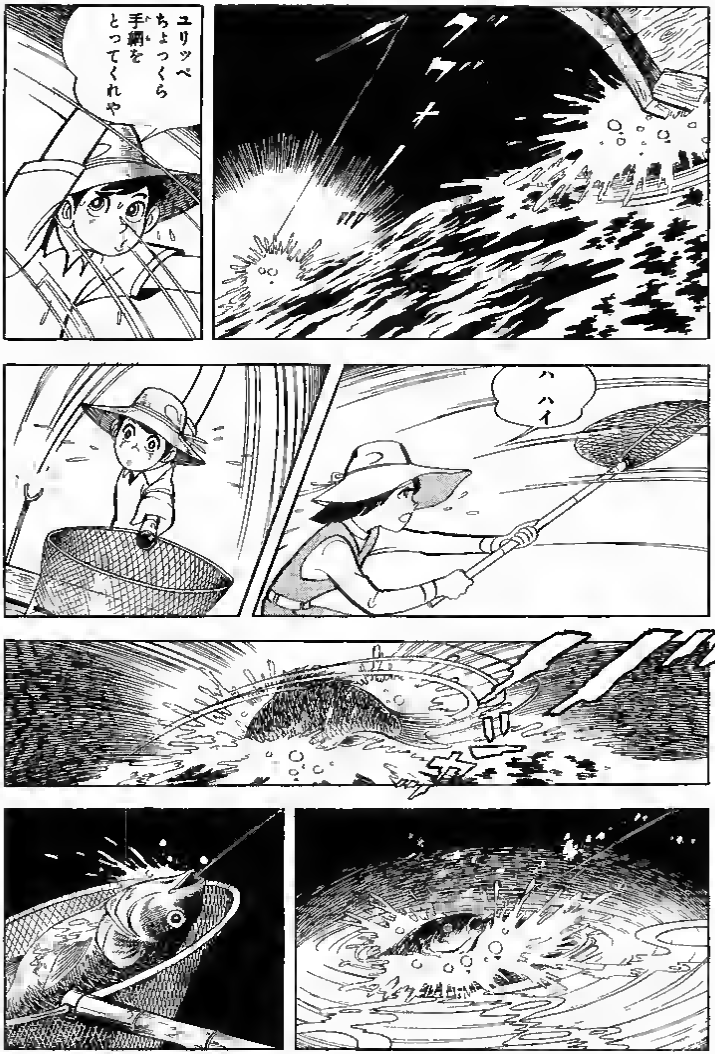




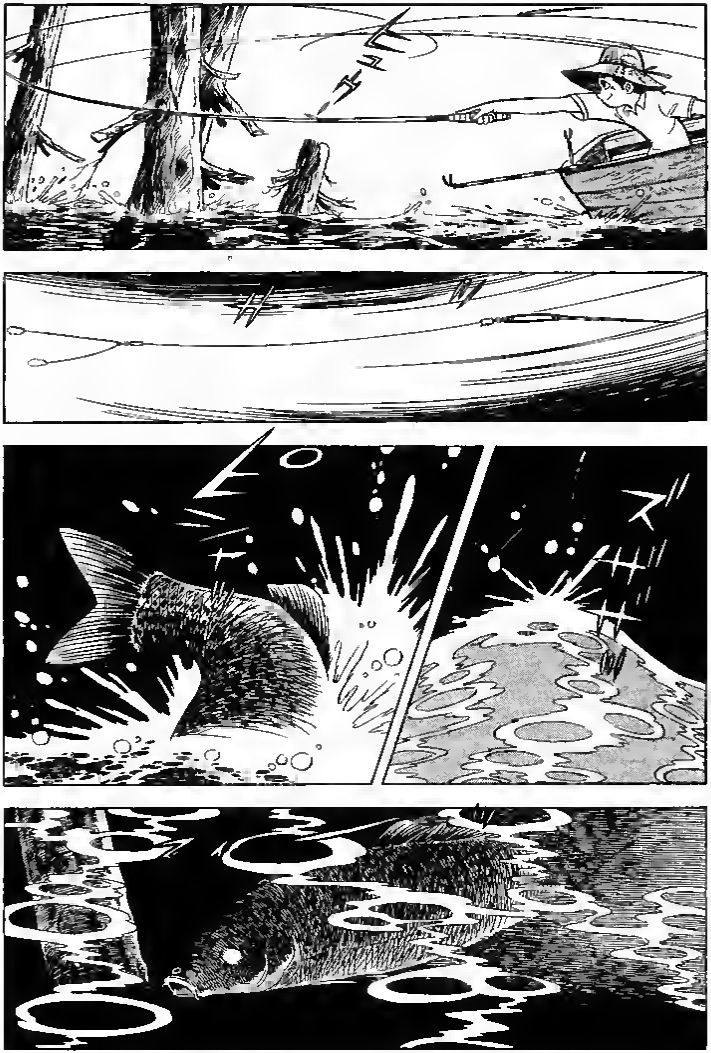



モゾ
モゾ

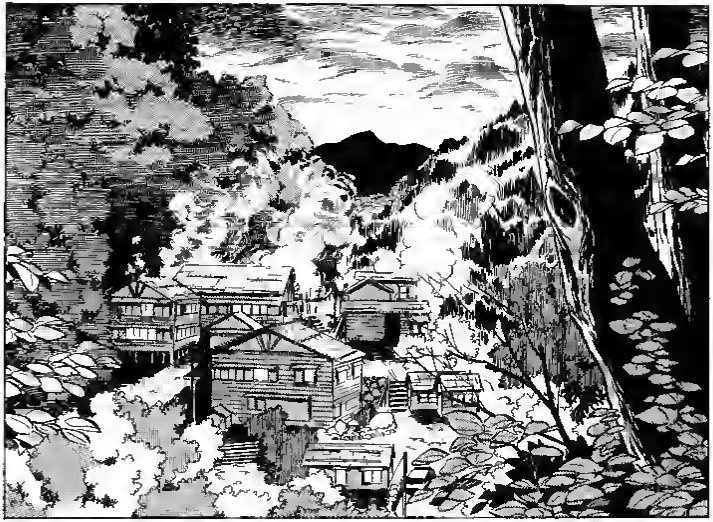

ホホウ
もう
きたか
早いな
三平
ウヒョ


ユリッペ
ちょっくら
手網を
とってくれや
ハイ

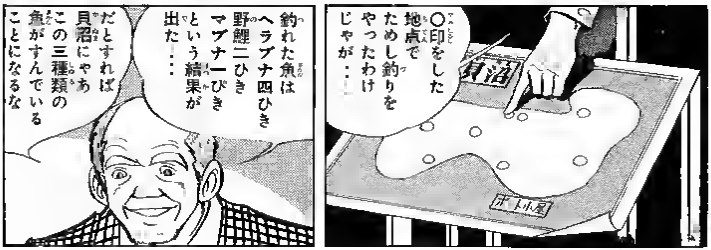

どうだい
わあすんごい
いい型のマブナじゃねえか
貝沼にゃマブナもいるんだな
よし釣り場をかえるぞ
じいちゃんあの枯れ木が立ってるあたりもなかなかよさそうだな
ようしやってみろ枝がじゃまだ注意しろ


ヒュ
ヒュ
ヒュ


うっ
すごいぞ
じいちゃん
うーむ エサが
水面におちる前に
しっぽで
たたきおった
か
六〇センチ級の
大物野鯉だ
さ
移動
するぞ
あれっ
じいちゃん
いまの鯉は
釣らないの
三平
きょうは
釣り場さぐりに
きてるだ
釣りものが
わかった
だけでいい
もっと
ほかを
さぐらんと
いかん…
こんな ひろい
沼だもの

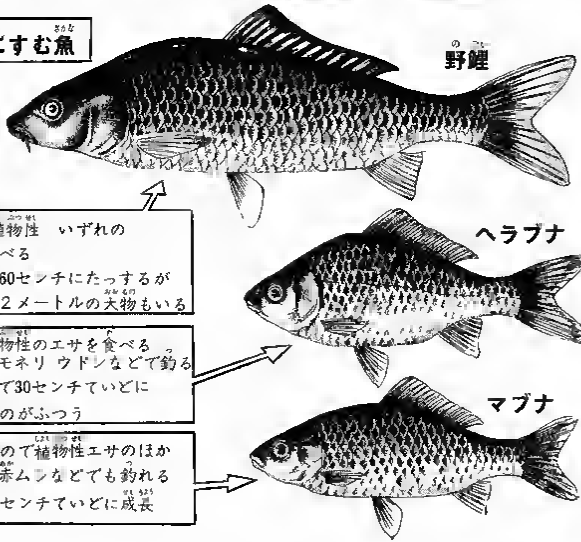



これがきょうひととおりしらべた貝沼の地図じゃ


○印をした地点でためし釣りをやったわけじゃが…
貝沼
釣れた魚はヘラブナ四ひき野鯉二ひきマブナ一ぴきという結果が出た…
だとすれば貝沼にゃあこの三種類の魚がすんでいることになるな


おらびっくり
こいたのは
沖のまんなかが
やたらと深い
ことだ
それに
辺地(岸)には
倒木がたくさん
しずんでいて 鮒の
絶好の寄り場に
なっている
うん
湾いとこには
水藻も多いし
鮒のすみかと
して これ以上の
ところは
あるめえな・・・・
でも
かんじんの
青鮒は
どこさ
いるべ
・・・・
さあ・・
そいつが
いちばんの
問題さ
うーん
青鮒の正体は
いったい
なんだろう

貝沼にすむ魚

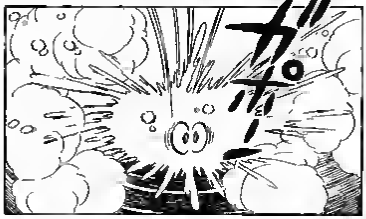

野鯉
ヘラブナ
マブナ
動物性 植物性 いずれの
エサも食べる
体長は約60センチにたっするが
中国では2メートルの大物もいる
おもに植物性のエサを食べる
ので イモネリ ウドンなどで釣る
4～6年で30センチていどに
成長するのがふつう
雑食性なので植物性エサのほか
ミミズや赤ムシなどでも釣れる
2年で15センチていどに成長


とにかく
あしたからは
このポイントを
徹底的に
釣ってみるべ
ようし
そんだば
ひとフロ
あびてっと
あしたは
釣り
まくるぞっ
プア～～～ッ
ウヒョ～～～～ッ
いい気持ち
……

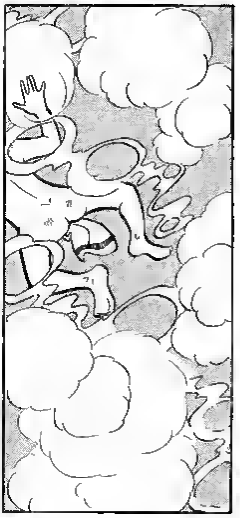

アアーッ
ウ〜〜〜ン
おおそうだあいつをあびるべ
じいちゃんが温泉にくれば肩コリをとるためだといってかならず滝をあびてたっけ
あわっ
ムギュッ
ガボ


ファーッ
なれないこと
するもんじゃ
ねえな
じいちゃん
おらさきに
はいってるだ
三ちゃん
おらだよ
どう？
湯かげんは
ユ
ユリッペ!!
あわわわ
ガボ
なに
あわてて
るだ
三ちゃん
だだって
おめえ
ハダカだべ

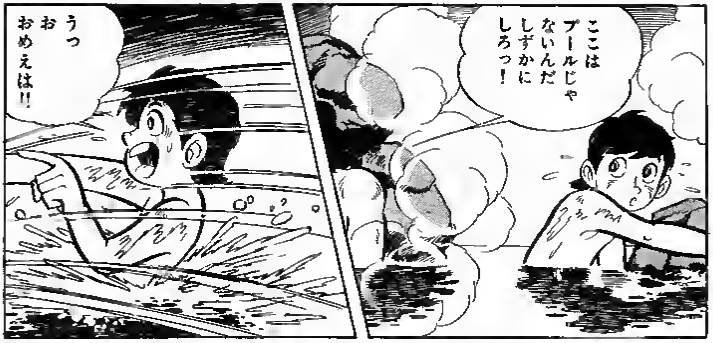

三ちゃん
あとで
背中の
ながしっこ
するべ
あわっ


ガボー


それが
どうしただ
着物を
きたまんま
フロさ
はいる人が
どこにいるべ


ユリッペ
早く
あがって
くれよ
ーっ


ウグッ
てないと
おらあ
ユデダコ
だあ〜〜
ハアヒイ


ここは
プールじゃ
ないんだ
しずかに
しろっ！
うっ
お
おめえは!!


三平くん
おめえの
腕まえの
ほどは 昼間
とっくりと
見させて
もらったぜ
ガキとは
思えねえ
すご腕じゃ
ねえか


そ そうかい
石崎の
にいちゃん
だったのかい
あの
赤い帽子の
人は・・・

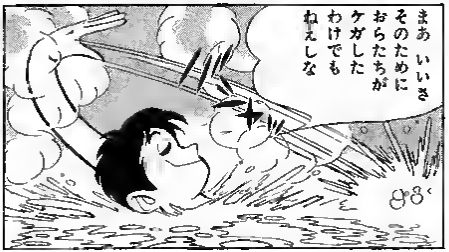

きたねえよ
カゲで
おらたちの
行動を コソコソ
見てまわったり
青ペンキを
ぬった
ヘラブナを
投げつけたり
いったい どういう
つもりなんだい

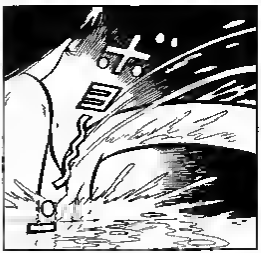

赤だの
青だのと
なんの
こったい
そりゃあ!?

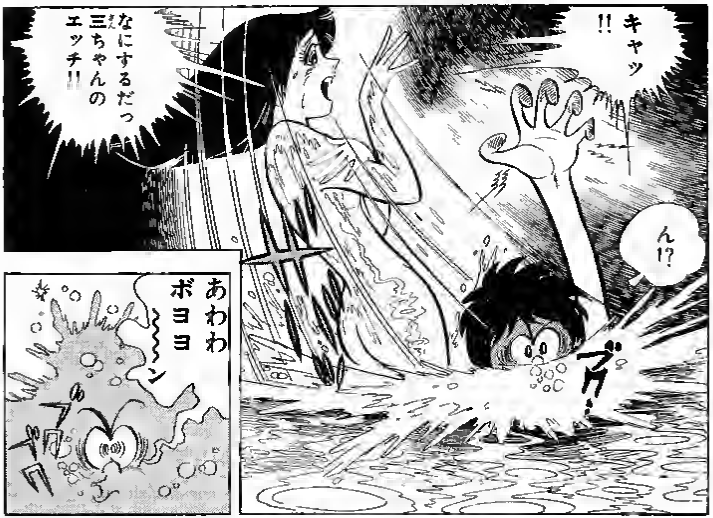

三平!!
おめえ
湯気にのぼせて
頭がおかしく
なったんじゃ
ねえのか
おれは
赤い帽子
なんか
持ってねえぜ
へへン
うすら
とぼけおって
おめえでなくて
だれが
あんなこと
するけえ


そんなに
青鯛の一番釣りを
してえなら
かげでコソコソ
ヘンなまねば
しねえで
どうどうと
釣ったら
いいべ
自分の
腕でな
…
ぬかしたな
三平
おれは
そんな
ケチな男じゃ
ねえ


なんで おれが
ヘラブナに
青ペンキなんか
ぬりたくって
投げつけなきゃ
ならねえんだ
アホくさい
かんぐりは
よせっ
へへン


まあ いいさ
そのために
おらたちが
ケガした
わけでも
ねえしな


ボ・ボ・ボ・ボ

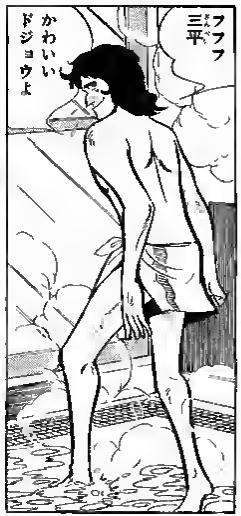

キャッ!!
ん!?
ブ!
なにするだっ
三ちゃんの
エッチ!!

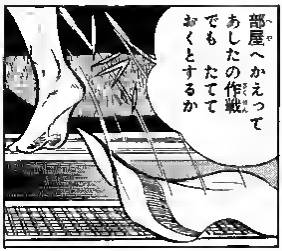
あわわ
ボヨヨ
ン


あわっ
ひっ
ほっ
ん〜〜〜ン
三ちゃんたら
いきなり
さわるんだ
もん
ぴっくら
こくで
ねえか
まえもって
連絡して
くれれば
いいのに
ボ
ボボボ
ボ……
ボボボ
ボボボ
ボ
ボ
ボ
ビタ


ボヨヨ～～～ン
ボヨヨ～～～ン
ユリッペの
ボヨヨ～～～ン
このガキあ
!!
おれの背中に
こんなドジョウ
みてえなもんを
キョトキョト
くっつけやがって
おれは
ガキなんかと
ママごとしてる
ひまはねえんだ
れれれ～～～っ
!?


ホイッ


フフフ
三平
かわいい
ドジョウよ

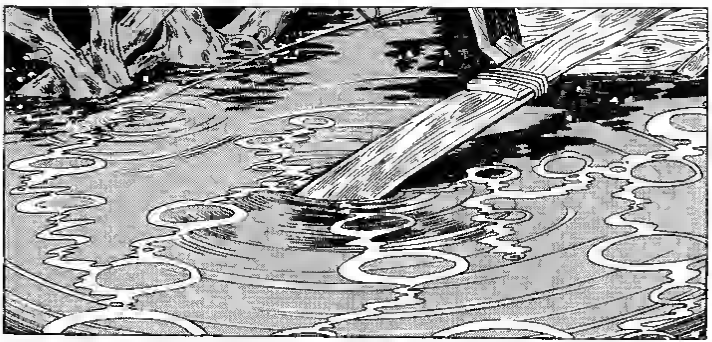

部屋へかえって
あしたの作戦
でも たてて
おくとするか

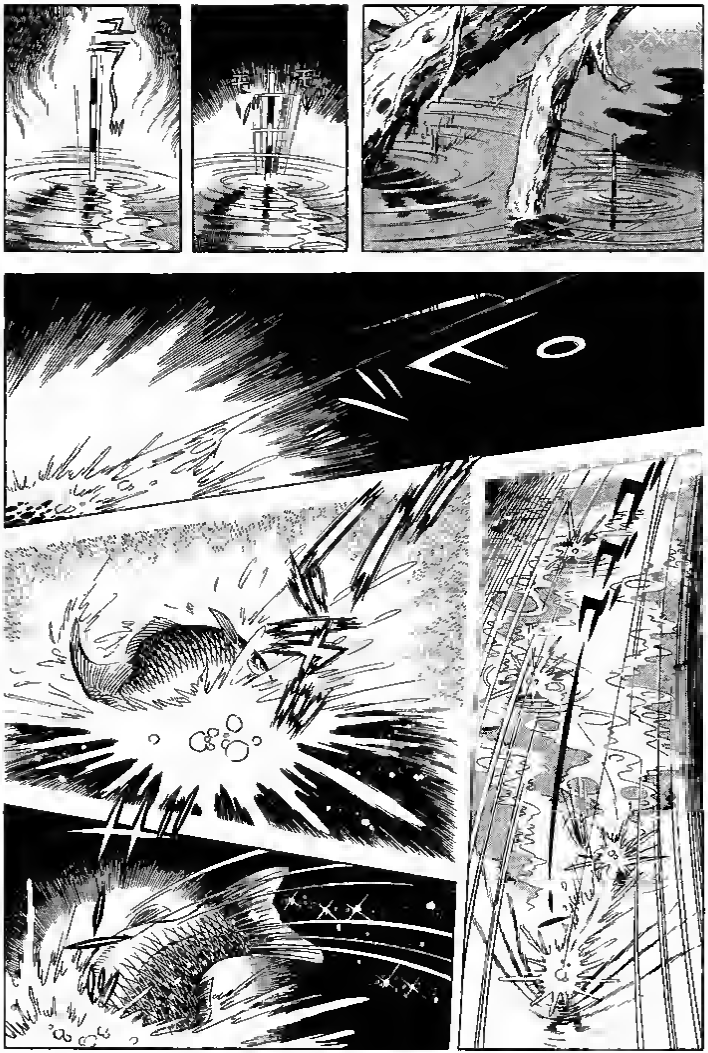

スタ


ン!?
タオルが
ない


ケヘヘ
ウナギが
まる見えだあ








おお 三平 いいひきを しとるな
ウヒョ——っ こいつあ まちがいなく 尺上(三十センチ以上) の ヘラブナだ
だ だいじょうぶ!? 三ちゃん
グッグッ


ホホウ
いい型の
ヘラだな
イヨッ
・・・と
!!
三十二
センチか
釣れるのが
ほとんど
尺上の
とは
びっくら
こいたな
あらっ
せっかく
釣ったのに・・・
はなしてしまう
の・・・
ハハハ
ユリちゃん
わしらの
ねらいは
育餌という
やつだけじゃ
からな
それにさ
べつに
食べるって
わけでも
ねえし・・・
こうして
はなしておけば
魚がへらねえて
あとからきた
人も たのしく
釣りができると
いうもんだべ
なるほど
そういえば
そうね
・・・
三平
どうじゃな
あたらしい
竿のつかい
ごこちは
・・・


調子は最高!!
これこのとおりバツグンだ


じいちゃんありがとう
そうかそれはよかったな……ハハハ


じいちゃんいままでのところヘラブナばかり九枚釣ったわけだな


うんおめえが四枚でわしが五枚だ……

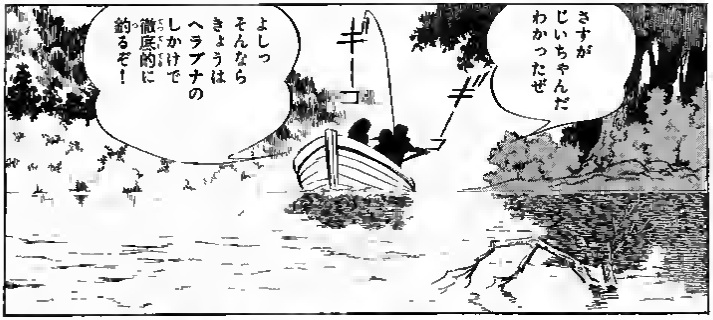

しかし…九枚とも あたりが「食いあげ」ばかりで「消しこみ」がひとつもねえ
「タナ」をすこし上にしてみるかな


三平!! きょうの作戦はきまった
しかけをヘラブナ一本にしぼって徹底的にヘラブナを釣ってみるべ


ん……!? なぜだいじいちゃん
いろいろためしたほうがよくはねえか


いや青鮒を釣るにはこの手しかねえ!!


三平！
この貝沼には
野鯉とヘラブナと
マブナがすんで
いることは きのう
ためし釣りで
わかったはず
だが…
これらを
べつべつに
釣りわけるには
どうしたら
いいかな
ウーン
ごちゃまぜに
すんでる魚を
釣りわける
なんて
できるの
ユリッペ
いま なんと
いっただ
三種類もの魚が
すんでいるところから
ほかのを釣らない
ように 一種類だけ
えらんで釣ることが
できるかって
聞いたのよ
そんなこと
できるわけ
ないよね
……
ウム
……
わかった
!!
じいちゃん
わかっただ
「しかけ」と
「エサ」と「ダナ」
によって
目標の魚を
釣りわけることが
できるだ
よく
おぼえて
いたな
そうやって
一つ一つの
釣りかたを
ためしていけば
めざす青鯯が
どれかの「しかけ」に
かならず かかって
くるはずだ…





釣りコーナー

鯉

あたたかい水がすきなので
水温のあがる日中によく釣れる

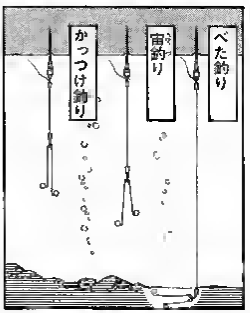
ヘラブナ

中層魚
(つぎのページでのべる)

マブナ

水の底にいる魚で
赤虫やキジ(ミミズ)で釣る

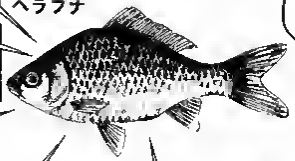
水中の魚は エサや水温の関係により 自分がもっとも適した層を泳ぐものである この「泳層」を釣り用語で「タナ」とよんでいる いいかえれば じょうずに釣るためには エサをタナ(泳層)につければいいということだ



さてヘラブナの釣りかただがその前に習性を知っておく必要がある



ヘラブナ



群れをなして泳ぎまわる

中層を泳ぐ魚だが自分に適した水温の層(タナ)を泳ぐ

にごった水が大きらいで逃げてしまう

植物性のエサを食べるので　イモ　カボチャ　ウドンなどをつかって釣る　最近はマッシュポテトを水でねって　つかう人がおおい

おくびょうで　もの音に敏感であるから大声で話したり　艇の音をたてるとよくない

道具

竿……こいつがなくちゃ話にならん

三、六メートルから五・五メートルまであるが　初心者は中間の四・五メートルがいいようだ

蛇口→
穂先→
穂持→
3番→
2番→
手元1番→
にぎり→

竿受け　竿かけ　これもぜったい必要だな

帽子　つばのひろいものがいい

ふらし　釣れたヘラブナを入れるやつだ

糸　ハリと

玉網　輪の直径が三十センチ以上　網目がこまかく水きれのいいもの

藻かき器　水藻のおおいポイントにこいつをぶちこんで水藻をかりとってしまう道具だ

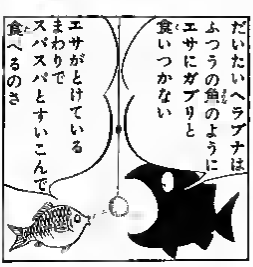
ねりえ入れ容器　こんなにりっぱでなくてもよい

ウキ入れとウキ　ヘラブナ用ウキは特殊なウキをつかうんだ

水筒　酒のすきな人は酒を入れろ!!

しかけ巻き



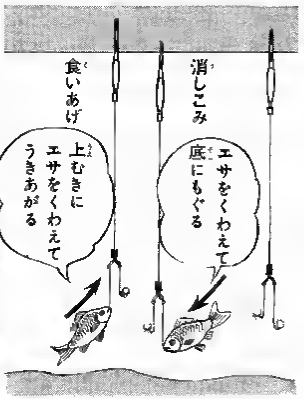




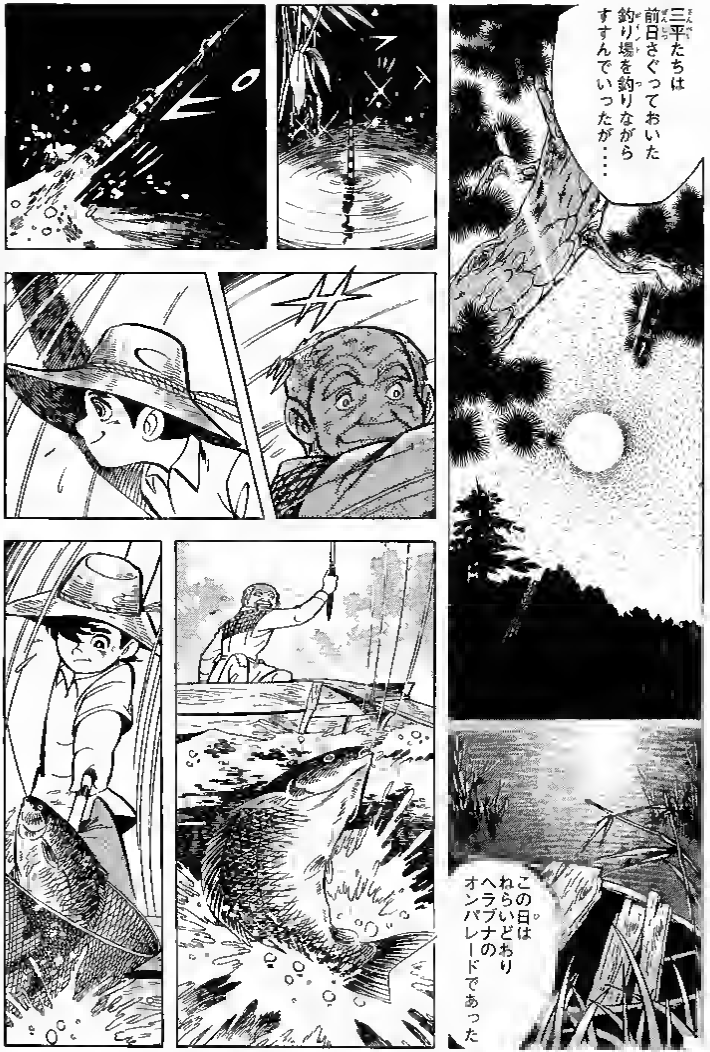
ヘラブナ用ウキ



長さは15〜30センチぐらいまである





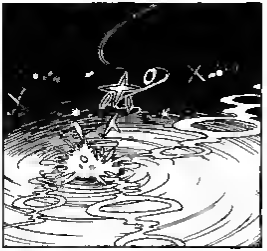

三平たちは
前日さぐっておいた
釣り場を釣りながら
すすんでいったが……
この日はねらいどおり
ヘラブナの
オンパレードであった

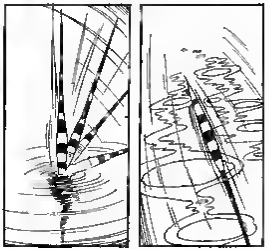

深そうだな じいちゃん
水の色が いままでの ところよりも 青いみたいだわ


ところが このポイントに きたときだった……

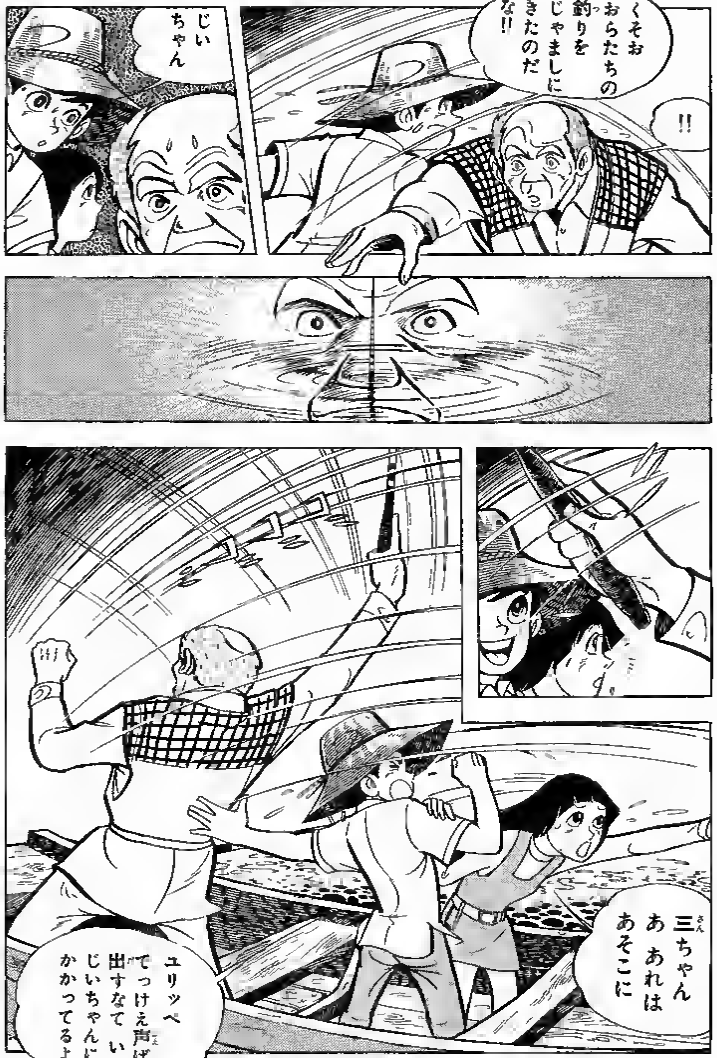

フフフ まあ やって みるべ








ゴロロ!
?
やっとるな しょくん!!
コツコツ 釣れよーっ
キャツ
なんちゅう やつじゃ
金に 糸目を つけねえ ボンクラ むすこが


くそおおらたちの釣りをじゃましにきたのだな!!
!!
じいちゃん
三ちゃんあ あれはあそこに
ユリッペでっけえ声ば出すなて いまじいちゃんにかかってるよ


おおっ
あ あれは
赤い帽子
!!
すると
あの男は いま
ボートに
乗っていった
石崎では
ないことに
なる・・・
じいちゃん
見てくれ
おらの話した
赤い帽子の
人がいるだ
さ 三平
こっちは
それどころで
ねえ!!
どうしただ
じいちゃん
ウヌヌッ
一平じいさんの
竿は
異様なあたりを
感じていた




うう っ
ああっ
クッ
一平じいちゃん
なにが
なにが
かかってるだ!?
わ
わからん
!!


とにかく大物であることにはちげえねえ
ううっすげえひきだ
ああっしいちゃんウ ウキがひきこまれてくだ
あやーっすんごい
バカッこうやってテグスをくれてやらんときられてしまうわい!!

一平じいさんのしかけ


じいちゃん
だ
だいじょうぶ
かい!!
ウム!! わしの
しかけは ミチ
イト一・五号に
ハリス〇・八号
じゃから…
いかに
ナイロンテグス
だからといって
ゆだんは
できねえ
それに
このひきの
あんべえだと
まともにやっても
あがって
こんじゃろな
蛇口
一平じいさんがつくった
一平竹(竹製) 四・五
メートル 五本つなぎ
ヘラブナ用ウキ
ミチイト(蛇口からウオモリまで) ナイロンテグス
一・五号
イタオモリ
ミゾカン
ハリス(ミゾカンよりハリまで) ナイロンテグス
〇・八号
エサ(マッシュザアト)


うっ
うううーん


クソオ
じいちゃんだ だめだテグス(糸)どころか竿が折れるかもしれん
一平じいちゃんがんばって
フフフやるな
こうなったら根くらべじゃい!!わしのテグスがきれるか竿が折れるか……
二時間でも三時間でも根くらべじゃい!!
おめえがくったくたにくたびれて水の上さツラ出すまで
つきあってやるべフフフ……


キャッ
だいじょうぶかい ユリちゃん
へいきへいき
じいちゃんもしかして
あ…あぁ青鮒じゃねえのか
三平よけいなことをいうもんじゃねえ!!
さっきから深くもぐってばかりでただの一度も姿を見せてねえじゃねえか


「姿見ず」のうちから
あわくって
あれやこれや
せんさくするのは
よくねえ
せっかく かかった
魚をバラしたり
テグスをきられ
たりするのは
早く姿を見たい
と あせるバカが
竿に みょうな力を
くわえるからじゃ


ほんとうに釣りのうまい人は
かかった魚の姿を見るまで
じっと しんぼうして
待つものじゃ
そういう
ときにこそ
じっくりと
腰をおちつけて
待つものじゃ
ウヒョッ


なんぼ 細い
テグスだって
竿だって
ムリな操作を
しなければ
そうめったに
きれたり
折れたり
するもんじゃ
ねえ
クッ!!
シマトイ
ナァ


なにあわてて
いるだ
持ってる玉網を
おけ
そいつは
魚の姿が
見えて
手もとさよせて
から ゆうゆうと
とって つかう
ものじゃ


魚と釣り人の
勝負は
「姿見ず」の段階で
きまるといっても
過言ではねえ
ガタガタ
あわてるな

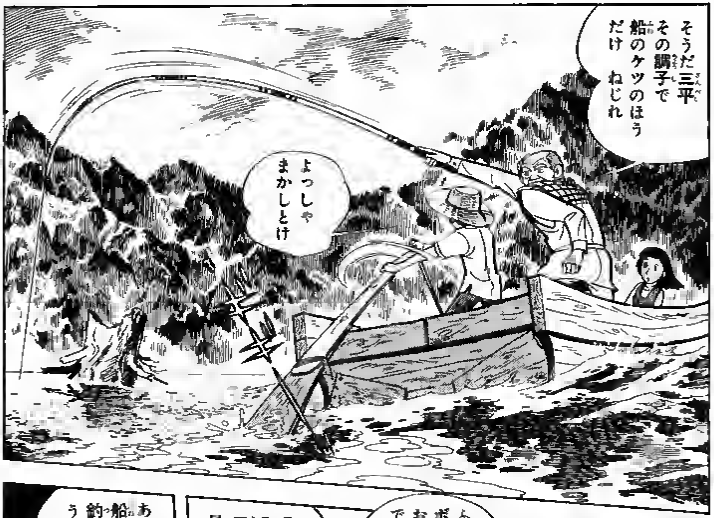

あわてんぼ・・・
ケヘヘッ


ナヌッ

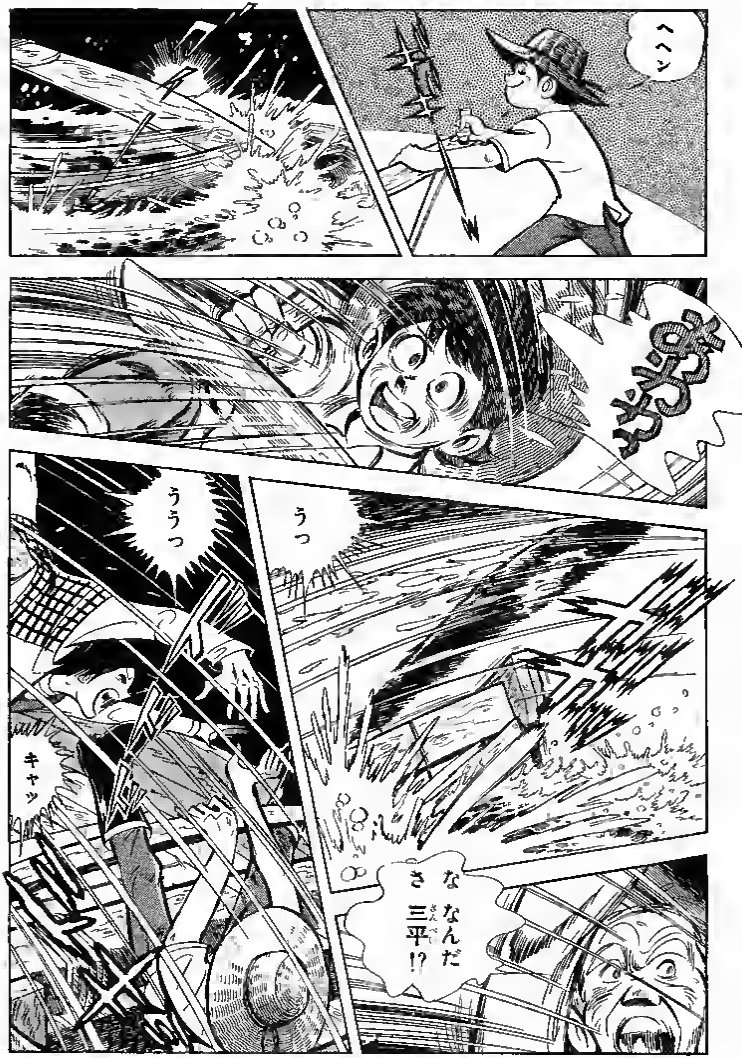

亀と釣り人の勝負は「姿見ず」の段階できまる・・・か
さーすが一平じいさんは名人だねえ
しかし・・・だよぼくなんかじっさい釣りをしていてかかったときなんか・・・
ドキドキドキドキ
ウヌッ!!もしや!!
あるいは
なんて想像しちゃって
でもさあけっきょく釣りのおもしろさは「姿見ず」のときの異奮が最高なんじゃないかな
ストーリーをつづけろ!!
ピュー


ククッ
じいちゃん まだ 婆を あらわしも しねえか
しぶといわ ねえ
いっこうに 弱る ようすは ねえ
まだ このとおり じゃ
うっ 三平 船が だいぶ ひきずられて いるな
あの木に テグスが からんだら えらいこっちゃ 船を すこし 移動させてくれ
よしっ


しずかに
しずかに


そうだ三平
その調子で
船のケツのほう
だけ　ねじれ
よっしゃ
まかしとけ


ふつうの
ボートだったら
おらだって
できるが
こんな船が
こげるなんて
三ちゃん
見なおしただ
あったりめえよ
船をこぐのも
釣りの腕の
うちさ


ヘヘン
ざざざ
ううっ
うっ
キャッ
なんだ
さ三平!?


うっ
ウグッ
アヒーッ


ユリちゃん
三平
だいじょうぶか!!
三ちゃん
どうしただ
地震でも
きたのか
じいちゃん
すまねえ
いったい なにが
おきたのか
おらには
さっぱり
わからねえ
なにかに
乗りあげたような
気がしたら
とたんに 船が
こんなに
かたむいて…
ケガは
ねえな
…
ホホウ
こりゃあ
あぶな
かったな
水面
スレスレの
ところさ
木がはえて
やがるて…
こいつに
乗りあげちゃあ
たまったもんじゃ
ねえな

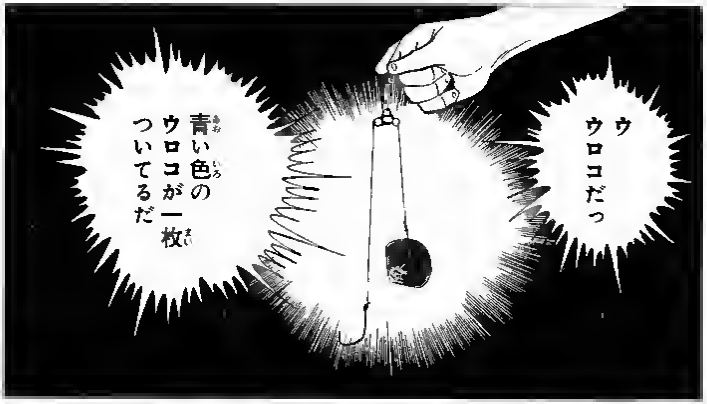

とにかく
船を木から
はずさねば
いかん
フーッ
やれやれ
おら
びっくら
こいたなあ
水の中に
こーんな
ふとい
枯れ木が
はえて
いるなんて
大むかしには
このへん一帯に
あんな木が
はえていたん
じゃろ…
そこに
地震がきて
ドカーンと陥没して
この貝沼ができたに
ちげえねえな…


じいちゃん すまねぇ
せっかく ここまで がんばったのに おらが ヘマを やらかしたばっかりに テグスを きっちまって…
こいつか… しかた あるめぇ
ミチイトが ウキのあたりで プツリだな
じいちゃん おかしいで ねえか 細い ハリスのほうが きれねえで じょうぶな ミチイトが きれるなんて
そういえば そうじゃが
テグスが よじれて きれやすい あんべえに なってたんじゃろ
おしかったわ…
あれが 青鮎だったら いまごろは…
チクショウ おら なんてドジを やらかしただ
フーッ 青鮎か
あら あれは!?


おおっ
ウキだ
こいつあめっけもんだぜ
魚にくっついて
どっかに
ひきずられて
いったと思って
たに…


まだ 魚が
ついてるんじゃ
ないの
ハハハ
ユリッペ
その心配は
ねえ
あの状態だと
とっくに はずれて
逃げちまってるさ

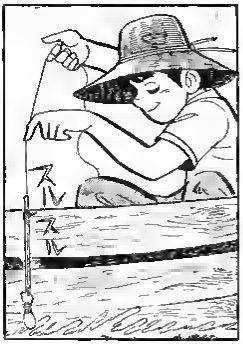

ホラ見れ
やっぱり
なんにも
かかって
ねえへ
なにか
ついてるの
けえ
どうしただ
三平!?


ウ
ウロコだっ
青い色の
ウロコが一枚
ついてるだ


ウーム
たしかに
青いウロコだ
あばれてるうちに
スレ(魚体の一部に
ハリがひっかかること)で
一枚だけ はぎとられた
のだろうが・・・
これこそ
青鮒の
ウロコに
ちがいねえ


じいちゃん
まちがいねぇ
これ青鮒の
ウロコだ
三平
あわてるな
すぐに
こいつの
タナ(水層)
の水温を
はかれ


いけねぇ
うっかり
してた
ねえねえ
タナの水温を
はかって
どうするの

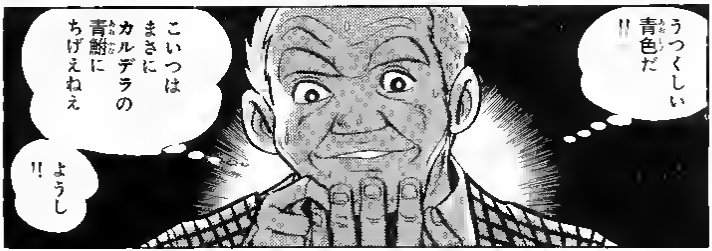

スルスル




ユリちゃん
わしは学問的なことはわからんが
わしの経験からいくと…魚って
やつは自分に適した
水温の層をタナにして
すんでいるようなんだ


んだから このじいちゃんのしかけのウキからオモリまでの深さのところの水温をはかってみれば
おなじくれえの水温のタナて逃げたヤツがもう一度釣れるってわけさ


なるほどさーすが
……
てっけえあのウロコのあんべえからして三尺(約九〇センチ)はあろう


うつくしい青色だ!!
こいつはまさにカルデラの青鮒にちげえねえ
ようし!!


しかけとエサをたしかめ
ポイントに しっかりと
ねらいをつける
ハリをはなすと同時に
竿を頭上で「の」の
字を書くように振る
今週は
いきなり
釣りコーナー
をはじめた
なっ
ドテ
ドテ


おくりこみ
後方や両側に障害物が
ある場合 おこなう方法だ
やわらかく ハリからはずれやすい
エサの場合 効果があるし
竿にムリな力がかからない
だけに 初心者むきの振りかただ


まわし振り
ポイントから
目をはなさずに
まっすぐに
振りこも
まわりに障害物がなく 遠くのポイントを
ねらうのに適しているし いちばん
カッコいい方法である
また
Y記者!!
ウヒョ〜〜〜
とにかく
見てくれ
竿の
ふりかただ
よ〜〜〜ん
たすき振り
たすきをするときのように
ラチイトを背後にはって
ハリスをはなすと同時に
竿をポイントにもかって
振りおろす 両側に
障害物がある場合には
なかなかいい方法だ


うーん
すんごい
枯れ木だな
そ
そうね
なんだか
気味が
わるいわ
こんないい
釣り場は
めったにあるめぇ
水中の
枯れ木は
まさに
天然の「オダ」の
役目をしとる
ようじゃな
オダ
!?
織田
信長の
ことけえ


ホーッ
バッカだなあ
ユリッペ!!
なんで
水中の枯れ木が
織田信長に
なるんだ
考えてみろ
バカッ
だ だって
オダだとか
タナだとか
へんなことば
っかりあって
頭が
こんがらかって
しまうわ

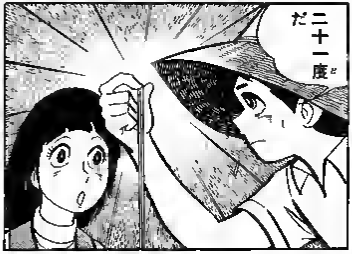

ユリッペ だいたい
フナってやつは
水藻や杭などの
ある場所にあつまる
ものなんだ
だから
釣り人が
釣りやすいように
魚をあつめる
目的で 水底に
木の枝を
プチこんで
しずめておく
ことが
よくある
それを
「オダ」って
いうんだ
わかったか

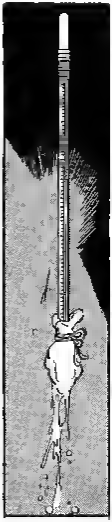

ハハハ
ユリちゃん
水藻や杭や
オダは
いってみれば
魚たちの家
であり
あそび場かも
しれねえな
だから釣りは
そういうものの
あるポイントが
ねらい場所に
なるわけじゃ

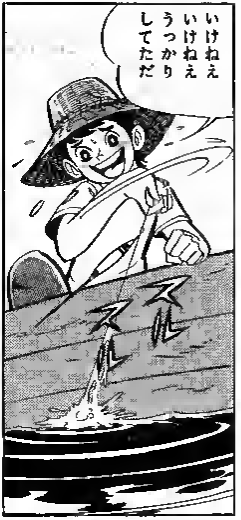

なーるほどねえ
おら
釣りっていえば
ハリとエサをつけ
て水にプチこんで
おけば釣れると
ばっかり思って
たが
三ちゃんたちの
釣りってのは
科学的なんだ
なあ…


カーッ ユリッペ
おめえ
釣りってものを
そのぐれえにしか
考えてなかった
のけえ
おら
くたびれちゃうよ
おめえみてえな
もんを 相手に
してると…


おらとじいちゃんのやっとる釣りはそんなアホな釣りじゃねえて
こうしてタナ(水層)の水温をはかったり魚の習慣をしらべたりしかけやエサの研究をしたり
まあこれをひとことでいえば三平式SF釣り法とでもよぶべきかのう
SF…!?というと
あの科学空想小説なんていうあれのこと?
あーあ
これだからくたびれちまうんだよ
ぶ
そのSFじゃねえ!!
科学的釣りすなわちサイエンスフィッシングじゃわかったか!!
三平口からでまかせもいいがそろそろ水温計をあげてみろ


二十一度だ




いけねえ
いけねえ
うっかり
してただ
スルスル

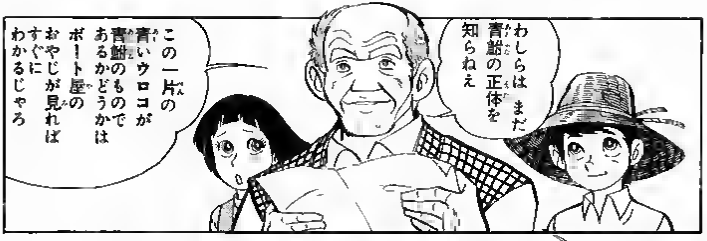

ほう
二十一度とな


なるほど
こいつは
二十一度の
水温を
タナに
しとるのか
ウーム


じいちゃん
まだ見てるの
青鮒の
ウロコを

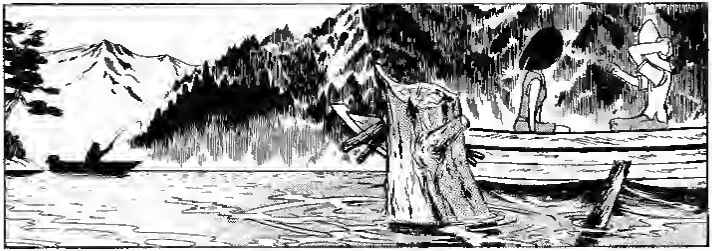

三平!!
竿をおさめろ
もう かえるぞ
あれっ
もう
釣りは
やめたの

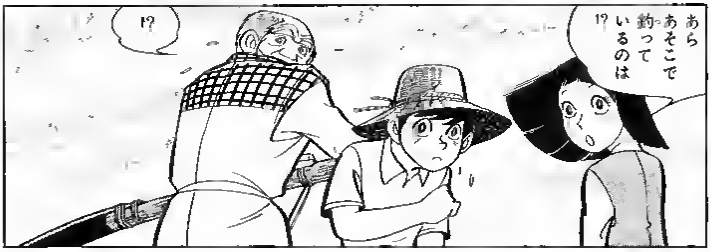

きょうは
やめじゃ
それよりも
一刻も早く
陸さあがって
ボート屋の
おやじに
こいつを
見てもらうだ


わしらは まだ 青鮫の正体を 知らねえ
この一片の 青いウロコが 青鮫のもので あるかどうかは ボート屋の おやじが見れば すぐに わかるじゃろ

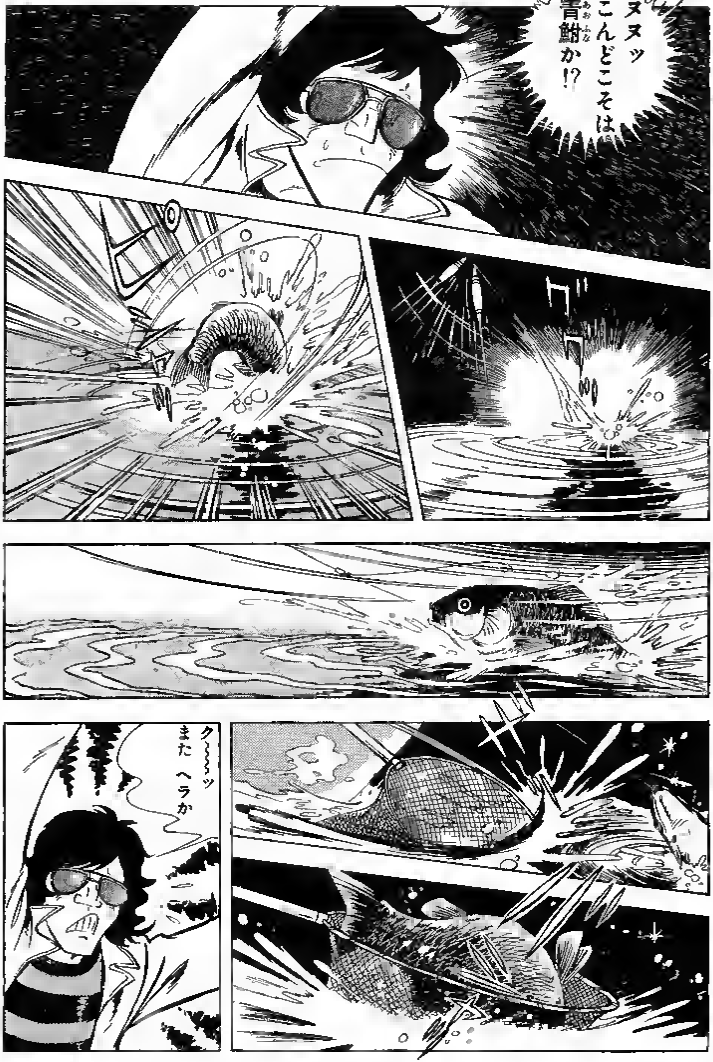

こいつの タナ(水層)が 水温二十一度と わかった以上 あわてて釣る 必要はねえ
じっくりと 腰をおちつけて そのタナを たんねんに さぐれば かならず釣ることが できるからな


じいちゃん
おら なんだか
胸がドキドキ
してきただ
青鮒は
おらが
かならず
釣ってみせる




あら
あそこで
釣って
いるのは
!?
!?


おお あの
ボンクラ
むすこか
じいちゃん
そばさ
よって
見るべ
ウヒョ〜〜〜
おっ
かかった
ぜ
TOMITA

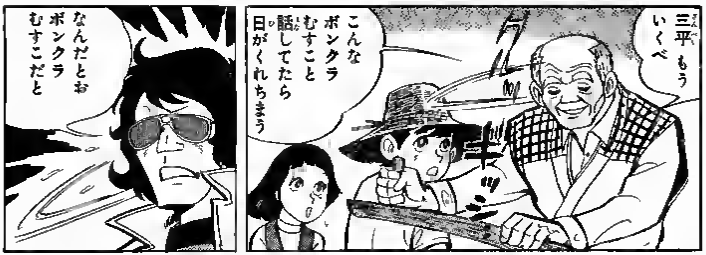

ヌヌッ
こんどこそは
青鮒(あおぶな)か!?
ク〜〜〜ッ
また ヘラか


いま
釣れたのは
ヘラブナだね
じいちゃん


なんだ
おめえたちか
こっそり
敵状視察なんて
きたねえまねは
よせ
見てるんじゃ
ねえやい
おらたちは
いま
かえるとこだ


石崎くん
あんたも
なかなかの
腕じゃな
ホホウ
釣り名人の
一平じいさんに
ほめられたと
あっては
うれしくない
こともないが
あんたにゃ
うらみが
ある

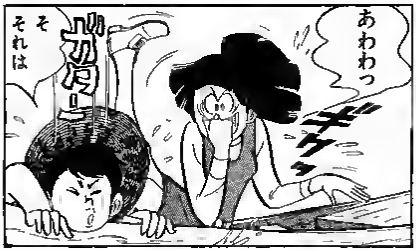

ホホウ
うらみとな
わしは人にうらまれることをしたおぼえはねえがのう…
フフフとぼけるな
一平竿がほしくてわざわざたのみにいったのにことわったじゃねえか
おお そういえば
金に糸目をつけねえからかぎりもののような竿をつくってくれなんていう客がきたことがあったが
あれがおめえだったのけえ
フフフあいかわらずガンコじじいだな
あんたにことわられたおかげでこんないい竿が手にはいったんだ
十五万円もするしろものだぜ
ホホーッそんな高価な竿があるのけえそれじゃまるで金で魚を釣っているようなもんじゃねえのけえ
いくら金をかけようがおれのかってだしょせん金ですむことだからなあ
おれにとっちゃあ金なんかへでもねえ青鮒の一番釣りをする名竿であればそれでいいのさ

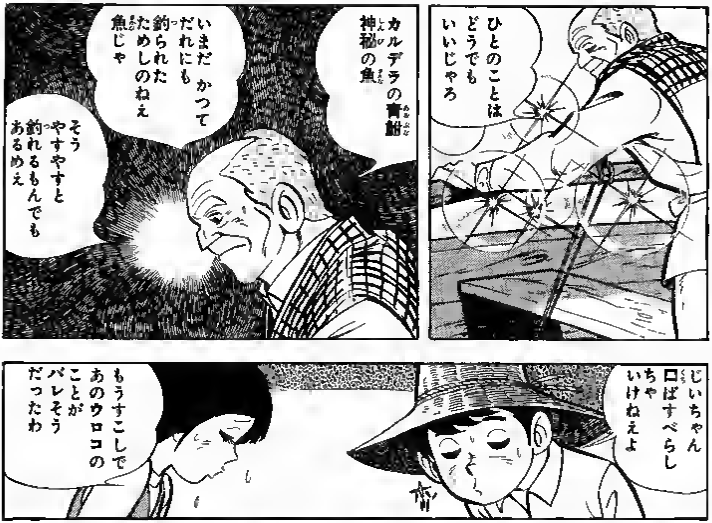

三平 もういくべ
こんなボンクラむすこと話してたら日がくれちまう
なんだとおボンクラむすこだと


あいさ高価な竿だとよく釣れると思ってるとこがボンクラむすこだというとるんじゃ
竿ってやつはしょせんは手の延長にすぎん竿の良し悪しはその竿を持つ人の腕の良し悪しによって きまる

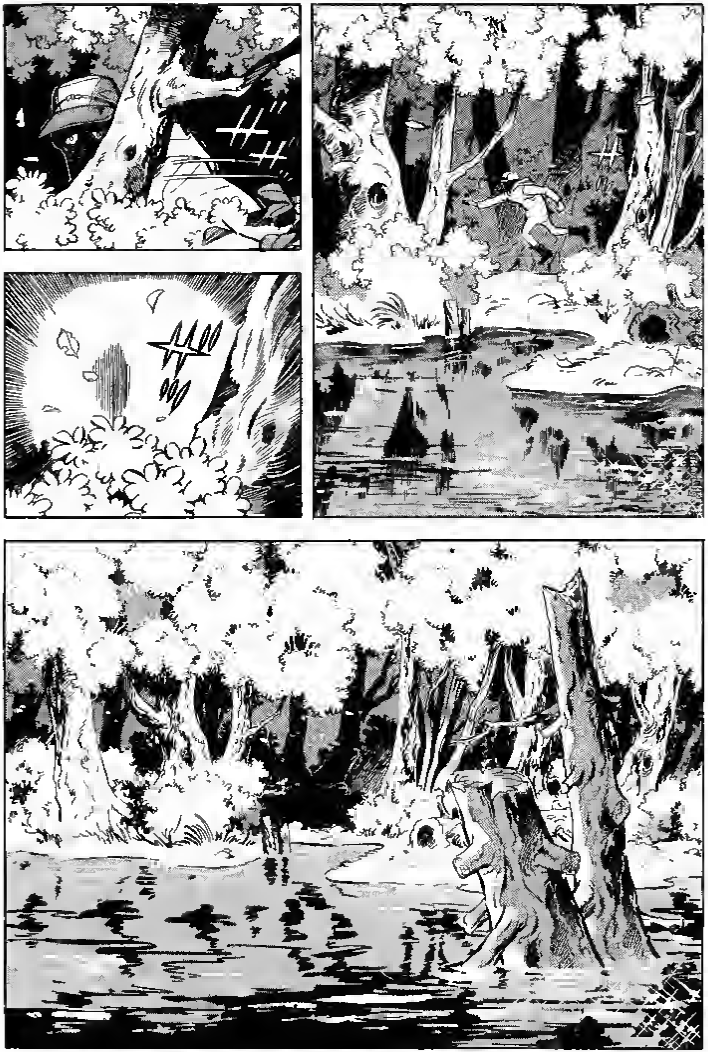

金で魚が釣れると思ってるうちは青鯰なんて釣れるわけがねえ
青鯰は竿で釣れる魚じゃねえ腕で釣るもんじゃおぼえとけ!!


ま待てガンコじいさんよう
あんたのその口ぶりだとまるで青鯰の正体を知ってるようないいかたじゃねえか


あわわっ
ドドド
ルガラー
そ それは

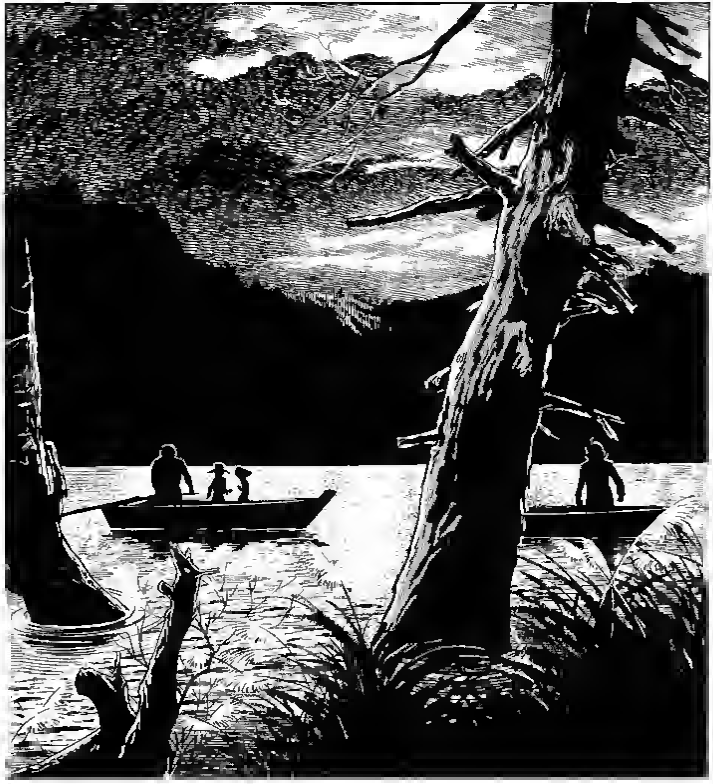

ひとのことは
どうでも
いいじゃろ
カルデラの青鮹
神秘の魚
いまだ かって
だれにも
釣られた
ためしのねえ
魚じゃ
そう
やすやすと
釣れるもんでも
あるめえ
じいちゃん
口ばすべらし
ちゃ
いけねえよ
もうすこしで
あのウロコの
ことが
バレそう
だったわ

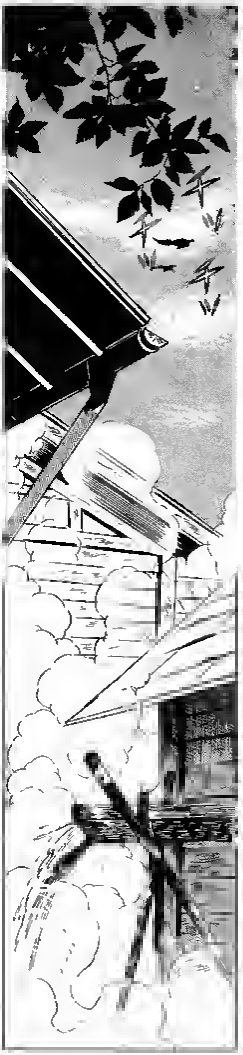

ウッ
だれだっ
そこに
いるのは!!
なんの目的で
おらたちの
あとを
つけまわすだ
出てこい
赤帽子!!






じいちゃん!!





おお きょうは よく 晴れただ ぜっこうの 釣り日和 じゃな

三平 さあ きょうこそ 青鯱に 挑戦 する日だぞ

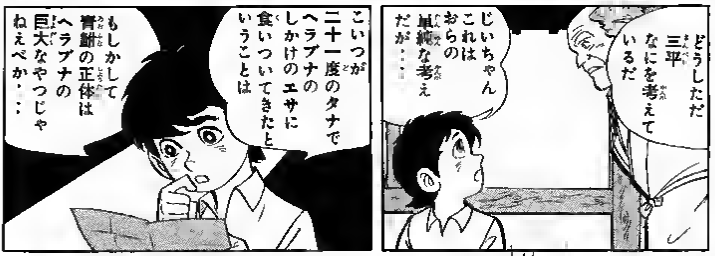
なに ボヤボヤ してるだ 早く したく して いくべ

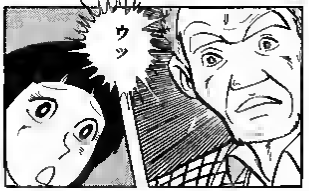
ウーン こいつが 青鯱の ウロコかあ

三ちゃん ゆうべから なんど その ウロコを 見れば 気がすむだ…

ボート屋の おじさんが まちがいなく 青鯱の ウロコだと 証明してくれたで ねえか…


うん おらたちの
思ったとおり
こいつが
青鯰のものだ
ということに
なっただが
・・・
ちょっくら
へんなんだ
なあ

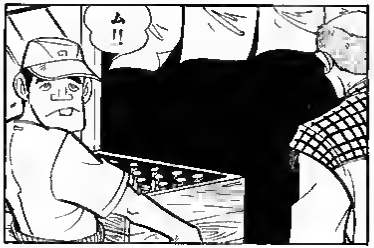

どうしただ
三平
なにを考えて
いるだ
じいちゃん
これは
おらの
単純な考え
だが・・・
こいつが
二十一度のタナで
ヘラブナの
しかけのエサに
食いついてきた
ということは
もしかして
青鯰の正体は
ヘラブナの
巨大なやつじゃ
ねえべか・・

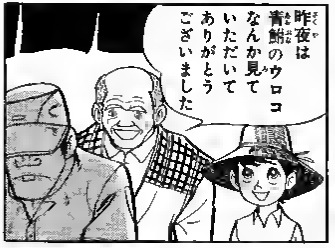

ウッ


なるほど・・
三平 おめえに
そういわれて
みれば
このウロコは
ヘラブナのものと
よく似ているぞ


ひょっとしたら・・
青鯰の正体は
巨ベラという
ことに・・
じい
ちゃん!!


貸ボート
早瀬屋
おはようございます
朝早くからすまんです
貸ボート
早瀬屋
ボート
アクベアイスクリーム


ム!!


昨夜は青鮫のウロコなんか見ていただいてありがとうございました


おじさん見ててくださいきょうこそカルデラの青鮫を釣ってみせるだ
なーにいってんだ釣るまえからそんただでっけえ口たいていいのけえ

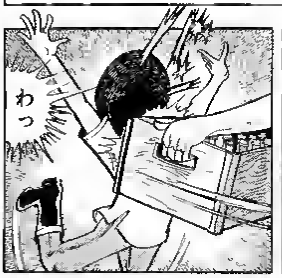

ほんだらおやじさんまた例の和船をお借りしますだ


おおめえたち…
ふ……船は……船は……か貸せん
ン!?
船を貸せねえだと
いってえどうしただおやじさん
どうしたもこうしたもねえだ
ただ貸せねえだけだ
気の毒だがけえってくれ
アイスクリーム
おじさんそんなのねえよ
貸せないわけをいってくれ故障でもしてるのけえ
とにかくいまいそがしいからけえってくれ
カキ氷


おじさん
どうして
船を貸せねえだ
おらたちは
きょうの
貴船釣りを
たのしみにして
きたんだぜ
そうよ
ひどいわ
三平
ガタガタ
わめくで
ねえ
おやじさん
きのうまで
こころよく
貸して
くれたのに
これは
いってえ
どうしたと
いうんだ
なにか
わけでも
あるんじゃ
ねえか
フフフ
おめえたちが
三平一平と
三平三平と
わかった
以上
ねかせておく
船はあっても
おめえたちに
貸す船は
一パイもねえ
けえってくれ
そして
この貝沼に
二度と
こねえでくれ!!

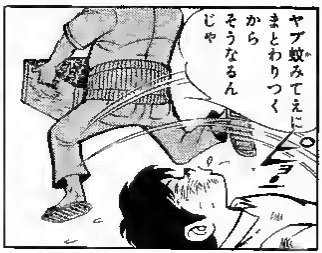



おじさん
ちょっくら
待ってけれ
そんな わけ
わからねえ
話って
あるのけえ
ボートは
あんなに
たくさん
あるのに


わっ

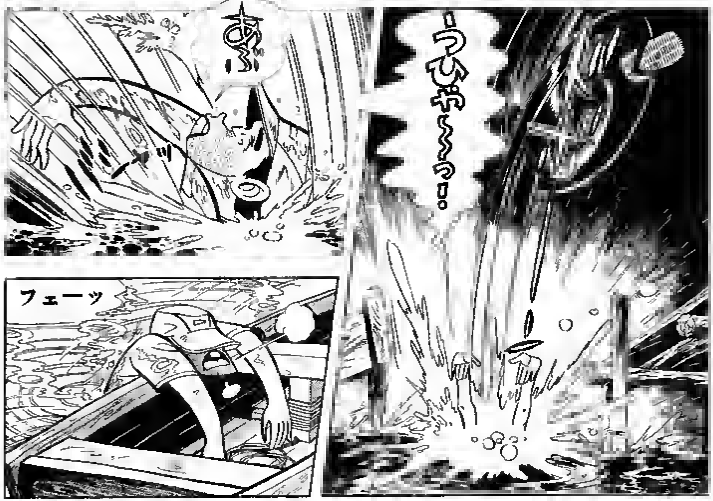

ホラ
じゃまだ
じゃまだ
よい
しょっと


あぢ
ンマア
!!

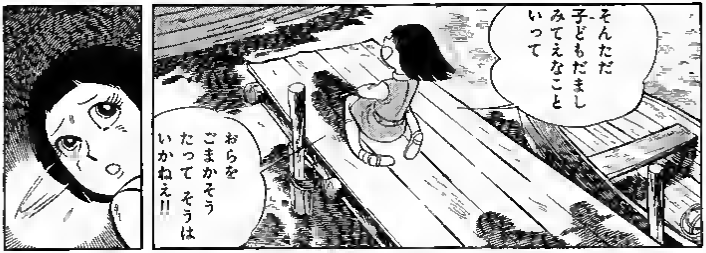

ヤブ蚊みてえに
まとわりつく
から
そうなるん
じゃ


ウガ〜〜〜ッ
な なんだよ〜〜〜っ
ここの
おらのこと
ヤヤヤヤ
ヤブ蚊だ
とオ!!
ヒタ〜ン
そこは まだ
〜〜〜
ヤブ蚊が
ブ〜〜〜ン
ブ〜〜〜ン
こうるせえ
ガキだなあ
船は
貸せねえから
貸せねえだ
ウ〜〜〜ン

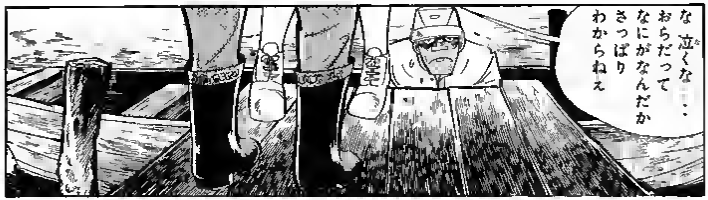

んーッ
もう
がまんできねえ!!
手
おじさん!! そんなムチャクチャな話ってあるのけえ!!
アヒッ
貸せねえなら貸せねえ理由はっきりいってくださーい
おらこんただヒステリーのおなごがいちばんにがてだなやーっ


ぶぶ
うひゃ〜〜っ!!
フェーッ
さあはっきりした理由をいってけれ
んでねえと……
ハアヒイ
おらあ死んでもここを動かねえぞ!!
ホ
ク〜〜〜ッ

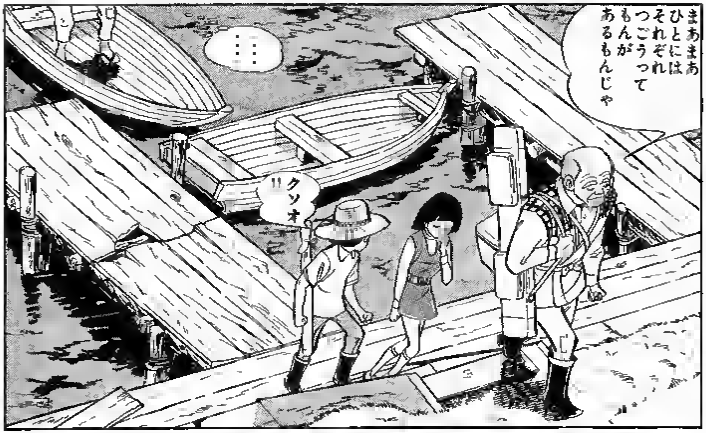

フフフ
こしゃくな
アマッコだな
いっとくがな
ここの船は
みんな おらの
ものじゃて
貧そうが
貧すめえが
おらのかってで
ねえか…
わかったべ


そんただ
子どもだまし
みてえなこと
いって
おらを
ごまかそう
たって そうは
いかねえ!!


ユリちゃん
もう いい
そのぐれえに
しとけ
だだって
くやしいで
ねえが
せっかく青鯛を
釣るべと思って
はりきって
きたのに…
ユリッペ


な 泣くな…
おらだって
なにがなんだか
さっぱり
わからねえ


すみません
泣くなて
ホレ これで
ふけ
理由を
はっきり
いってくれないん
だもん
おめえたち
もう いいて
ボート屋の
おやじさんが
こまってるで
ねえか
ボートを貸せねえ
ちゅうのには なにか
わしらに話せねえ
わけがあるんじゃろ
でも じいちゃん
青鮒を釣るには
どうしても
舳が
必要なんだ
それが
だめだという
ことは
青鮒を
あきらめろ
ということに
なるだ


まあまあ
ひとには
それぞれ
つごうって
もんが
あるもんじゃ
……
!!
クソオ

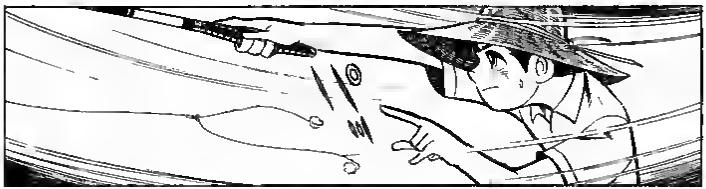

ハラの虫のいどころがわるいんじゃろ
とりあえず岸で釣るべ
……

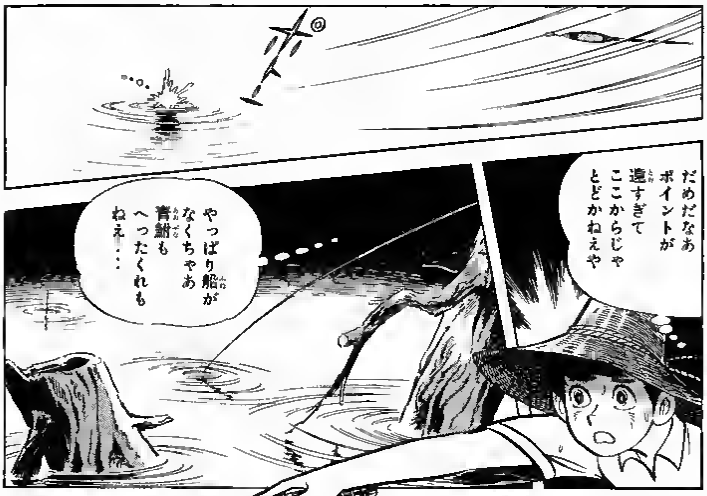

へっちゃらさ
こうでもしなきゃ
ポイントが
遠すぎて
とどかねえだ
三平
気イつけろ
よーっ


ホイ
ホイッ


よーし
こっから
ねらって
みるべ





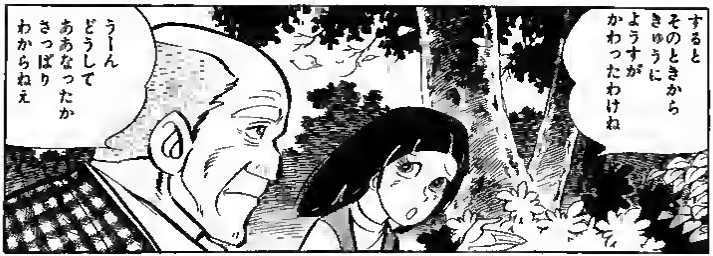

だめだなあ
ポイントが
遠すぎて
ここからじゃ
とどかねえや
やっぱり船が
なくちゃあ
青銅も
へったくれも
ねえ…


三ちゃん あんな あぶねえとこで はじめたども だいじょうぶだべか・・・
あら 一平じいちゃんは 釣りをしないの・・・
ウ〜〜〜ン 船がなくては なあ・・・
いったい どうしたんだべ あのボート屋の おじさんの 態度ったら
わしも さっきから それを 考えとるんじゃが・・・
そういえば きのうの夜 例の青鮹の ウロコを 見てもらいに いったとき・・・・
しかし 毎日 精がでますなあ
どうでしたか きょうは・・・ ねらいの青鮹は 釣れましたか
なに!? スレで ウロコを 一枚 釣っただと
ガハハハ


青鯖なんておよしなさいあんたがたにゃムリですよ
いままでだれひとりとして釣った人はいないんですからなガハハハ
ええ…じつは
ゲイウの釣竿
ちょっとこれを見てもらえませんか
なんスか えらいたいせつそうにふところなんかに入れて…
ルアー
はあきょう釣ったウロコだすが…
ン!!
こ これは……!!
ウロコ


どうでしょう
そのウロコの
色は青い
ですが…
もしかして
も もしか
してじゃねえ
…
あ…
あお
あお…
あお…
青鮒じゃ
やっぱり
そうでしたか
…
そいつが
青鮒ってやつの
ウロコでしたか
…
そうじゃ
まちがいねえ
この青色こそ
青鮒の色じゃ
…
おれが
みとめる…
どうしただ
どっか
からだの
ぐええでも
わるいだが
…？
釣糸

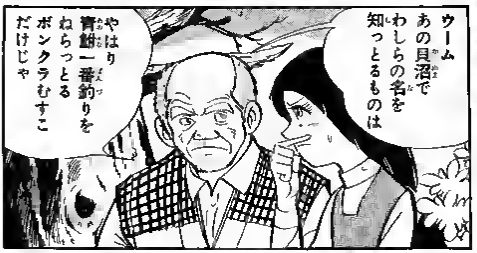

いいえ
べつに
なんとも
ありません
よ……
そうですか
それじゃあ
おじゃま
しましただ
それじゃあ
あしたも船をお借りしますだ
よろしくな
カラカラ
おやすみなさい
!?
!?
貨ボート
早瀬屋


するとそのときからきゅうにようすがかわったわけね
うーんどうしてああなったかさっぱりわからねえ


うっ
どうしただ一平じいちゃん
ボート屋のおやじはたしか…
わしらが三平一平三平三平だとわかった以上船は貸せねえ…といった


と…いうことはほかのれんじゅうには貸すがわしと三平にだけは貸せねえということになる


あっそうそうたしかにそういっただ
でもボート屋のおじさんがどうして一平じいちゃんや三平ちゃんの名まえをおぼえたのかしら


ウームあの月沼でわしらの名を知っとるものはやはり青鮒一番釣りをねらっとるボンクラむすこだけじゃ

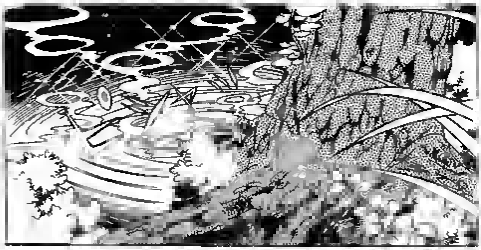

一平じいちゃん
それよ
それっ
あの石崎が
おらたちに
賞讃を釣らせ
たくないために
ボート屋に
金をはらって
おらたちに
ボートを貸さない
ようにしたんじゃ
ねえだろうか
ユリちゃん
想像で
そんなことを
いっちゃあ
いけねえ
とにかく
わしは
もう一度
ボート屋に
いってくる
待ってろよ
すぐ
けえって
くるでな
あーあ
どうして
こんなことに
なっちゃった
のかしら…


ユリッペ
どうしただ
あれっ
じいちゃんは
：
ボート屋に
いっただ…
すぐ かえって
くるって
ボート!?
そんなもの
いらねえやい
おらあ
うめえ方法ば
考えついただ
ユリッペ
見てろ
おらが ちょっくら
ここんとこ
はたらかせた
方法を…


ンマア
三ちゃんたら
あんなに
あわてて
うめえ
方法って
いったいどんな
方法かしら
……

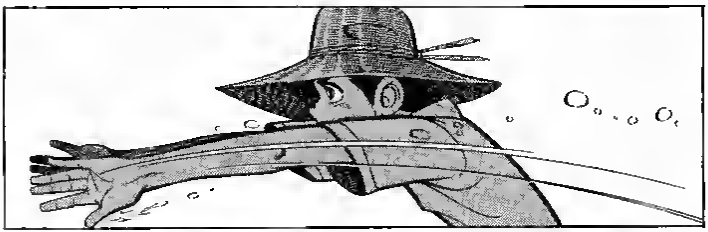


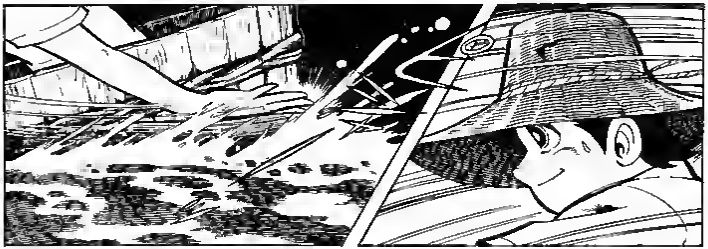


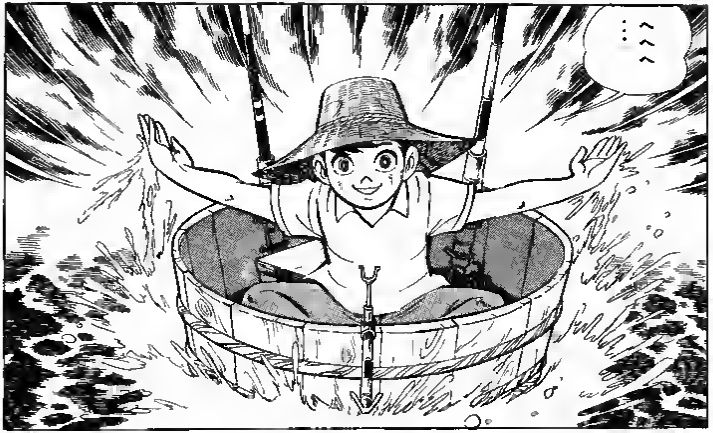


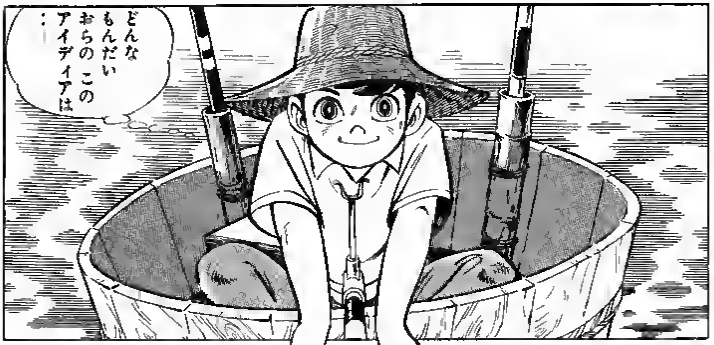

フフフ……




O。。O。




……へへへ


どんなもんだいおらのこのアイディアは……


じいちゃんもユリッペもこれを見たらびっくりこくべえ……

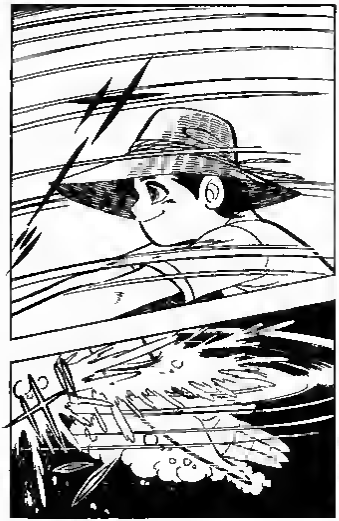

まあ…
頭ってやつは
ただで
おくもんじゃ
ねえな…
つかいようで
なんぼでも
いいアイディアが
出てくる
もんじゃて
もうすこしで
青鮎釣りを
あきらめねば
ならんところ
だったなあ
…
あわわっ
!!

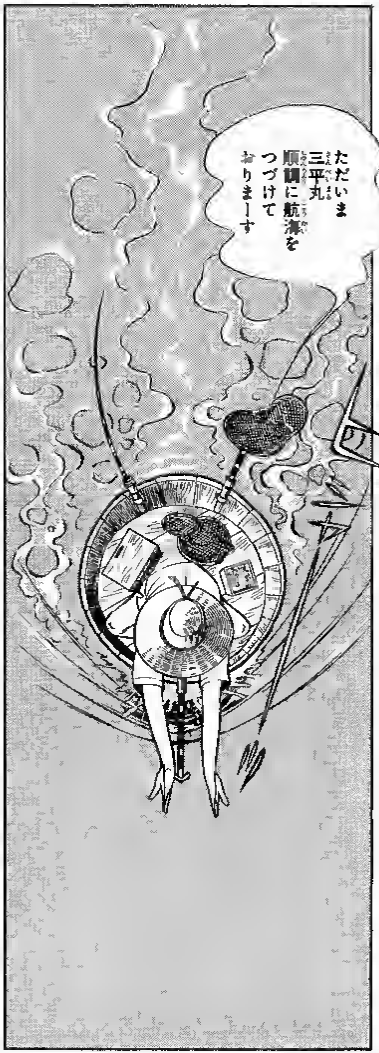

わわっ
あぢ
タライ船のアイディアはよかったがカジがなくまるっこいから不安定なのだ……
トホ
ユリッペに見られてねえだろうな
ヨロ
だれも見てねえ……よかった……
ホーイテ
こういうこともあるから注意していくべ


ハーイ
右オーライ
左
オーライ

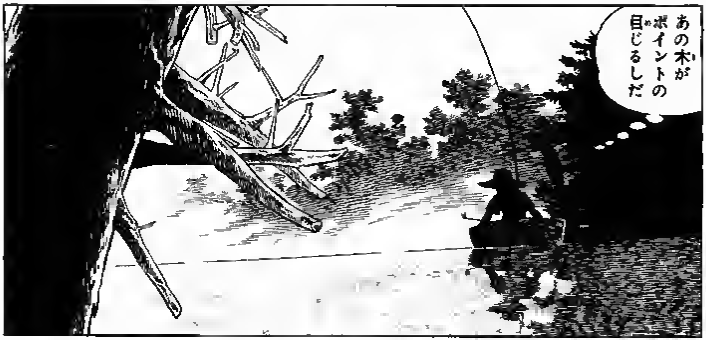

交通安全に
協力しま
しょーっ

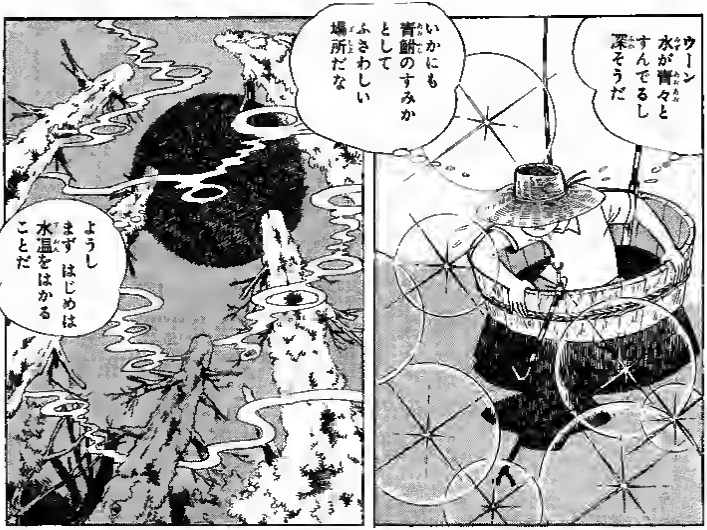

おっとと
交通安全
交通安全
注意一秒
ケガ一生




ただいま
三平丸
順調に航海を
つづけて
おりまーす


さて……
そろそろ青鰯の
ポイントに
近づいてきたな
ここからは
船足を……いや
オケ足をゆるめて
……音をたてず
……しずかに


あの木がポイントの目じるしだ
ここだ ここが青鮎のすみかだ


ウーン 水が青々とすんでるし 深そうだ
いかにも青鮎のすみかとしてふさわしい場所だな
ようし まず はじめは水温をはかることだ


青鮒のタナ（泳層）は二十一度だ……
こいつで二十一度のタナをさぐりあてて……
スッ
かならず釣ってみせるぞ

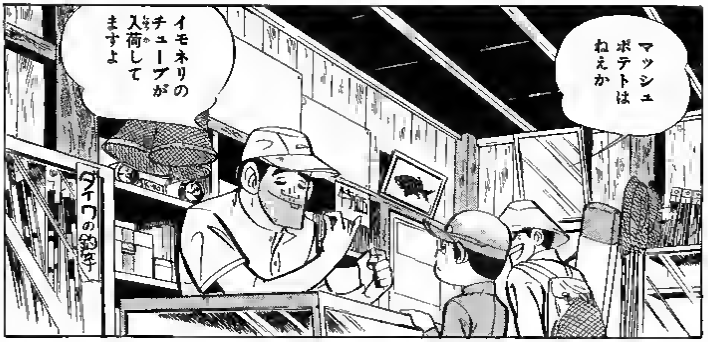

おだやかな日より……風もそよ風……
絶好の釣り日よりだ……


おかしい
どうしても
解せねえ
あのぅ
ほかのひとたち
には ボートは
貸すが
わしと三平には
貸さねえなんて
……
これは なんか
わけがあるに
ちげえねえ


ユリちゃんが
いったように
あの石崎が
わしらに賃餌を
釣られたくねえ
ばっかりに
金でボート屋を
買収するってこと
も考えられなく
もねえが……
あのボンクラむすこ
そこまでのワルでも
あるめえ
ホホウ
ボート屋のおやじ
何気ねえ顔で
やってるじゃ
ねえか


ハイハイ
だいじょう
ですか
ボート券は
なくさないで
くださいよ

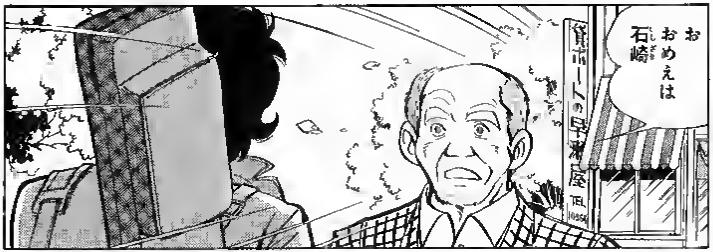

はい
つぎの
かた
ドカ
ドカ
足もとに
気をつけて
そうそう
おじさん
さっきから
待ってるだ
早く
してくれ
ガク
こりゃあすまん
スーパーテグス
だったね
テグスばかり
じゃねえだ
ウキも
ハリもだ
ごめん
ごめん
ホホー
いそがしい
こと
おじさん
わるいけど
ハリを二三本
むすんでくれや
ハイ
ハイ
貸


マッシュポテトはねえか
イモネリのチューブが入荷してますよ
ダイワの釣具


ボートを一そう早いとこたのむ
へ へイ
スイマセンごらんのとおりいそがしいもんで


きょうはえらく人が多いと思ったら日曜日か
貸ボート 早
地元の人や子どもばかりじゃなく遠いところからもだいぶきてるようじゃな
貝沼はこんなさびしい山の中だがボートと釣り具のほかジュースやパンまで売ってるからけっこう商売になっているんだな


こうして見ているとなかなかあいそがあって正直そうなおやじじゃねえか
ムッ!!


おめえは石崎
貸ボート


フフフさっきからなにボケーッと見とれてるんだい
手ぶらのとこを見るときょうは青鮒に挑戦しねえのか
じつはなけさ早く出かけてきたんじゃがボート屋のおやじにボートをことわられましてな…
なんだとおかしいじゃねえかいボートはたくさんあるというのに
貸さねえというからにゃそれ相応の理由があるだろう


理由なんてなにもねえだ
ただ貸せねえから貸せねえの一点ばりでのう
そんなムチャクチャな話ってあるかい
だいたいこの具沼じゃ船がなけりゃいいポイントがつかめねえことくらい知ってるはずなのに
よし一平じいさんようおれがボート屋に話つけてやるぜ
えっ
ガタン
ああいっしょにいこう
あれっ強くたたきすぎたかな
石崎くんおめえいってえどうしたというんじゃみょうになれなれしいじゃねえか

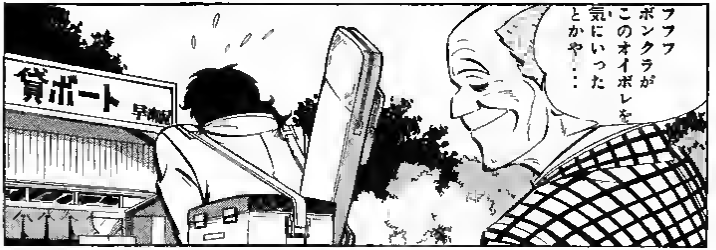

べつに
なれなれしく
したわけじゃ
ねえけどさ
きのう
ボートの上で
あんたに
いわれた一言が
みょうに胸に
ひびいたんで
なあ


ボンクラむすこ
と いったことが
……か
それもあるが
そのあとの
ことばだ


釣り竿ってやつは
しょせんは 手の
延長にすぎん
竿のよしあしは
その竿を持つ人の
腕のよしあしに
よってきまる
このことばが……


えらく
胸に ひびいちまってよう
コリ
コリ
おれは
あんたが
気にいって
しまったんだ


まあ
べつに……
そのどうって
こともねえけどさ
ただなんとなくね……


貸ボート
早崎
フフフ
ボンクラが
このオイボレを
気にいった
とかや……


だがよ
ことわって
おくがよ
カルデラの
青鯏釣りは
べつだぜ
そのほうは
情ようしゃ
しねえぜ
おれは
あんたや
三平くんと
どうどうと
勝負したい
んだ
だから
ボート屋の
おやじに話を
つけて
やるんだ
恩にきせる
つもりは
ねえぜ
石崎努
やつは ボート屋を
買収するような
男じゃなかった
やっぱり わしの
思ったとおり
根はいいやつ
だったんだ
すると
いってえ
ボート屋の
おやじは
……
ま まさか
赤い釣り帽子の
男は……

ヒュ

ウウッ

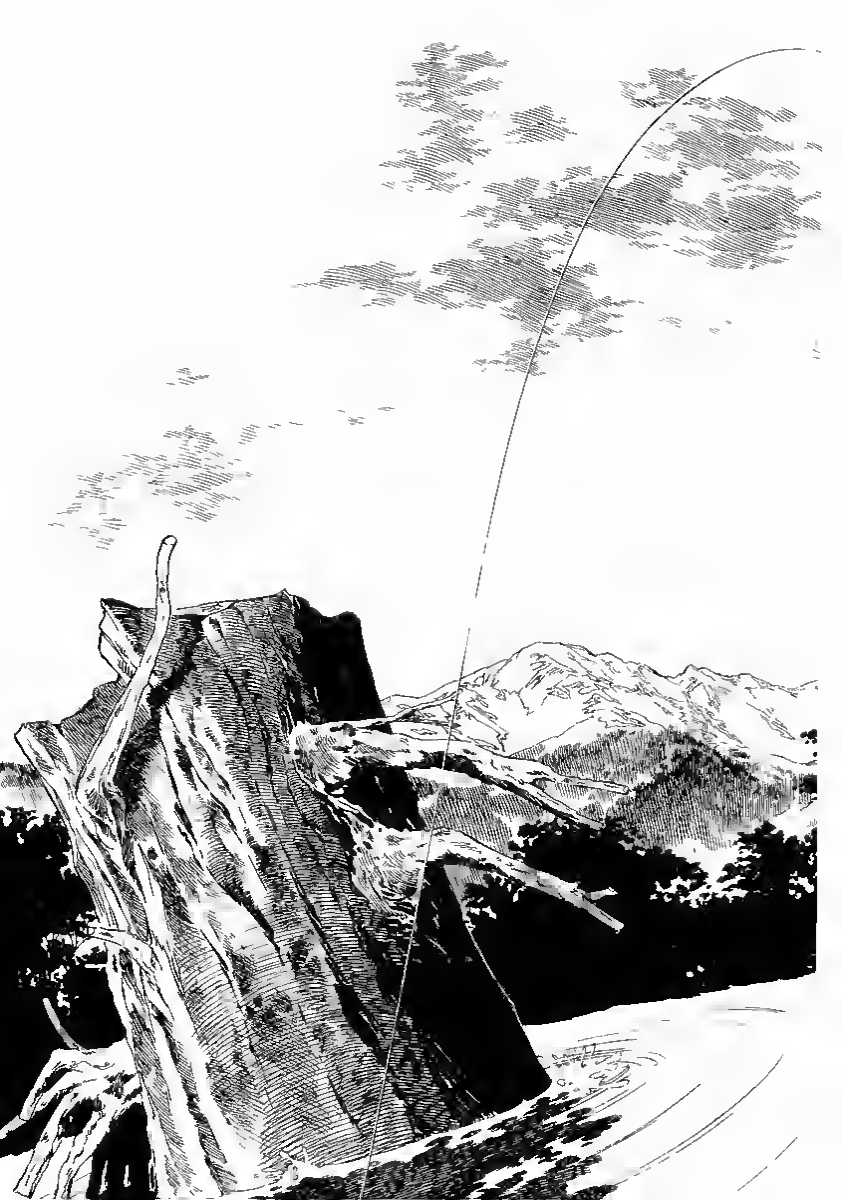
き
きた!!

一発(ぱつ)
だ!!

ここの ひさ!!
青鮒(あおぶな)に ちげえ ねえ!!

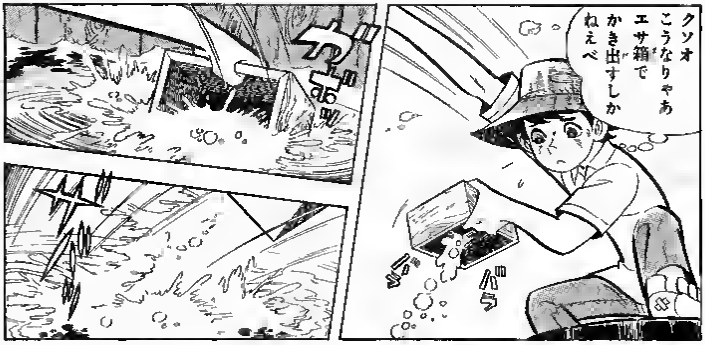

ドドド

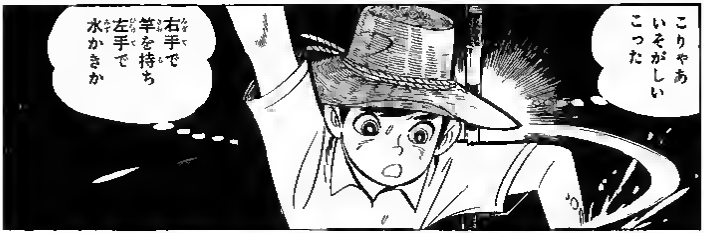

ウヒョ〜〜〜ッ

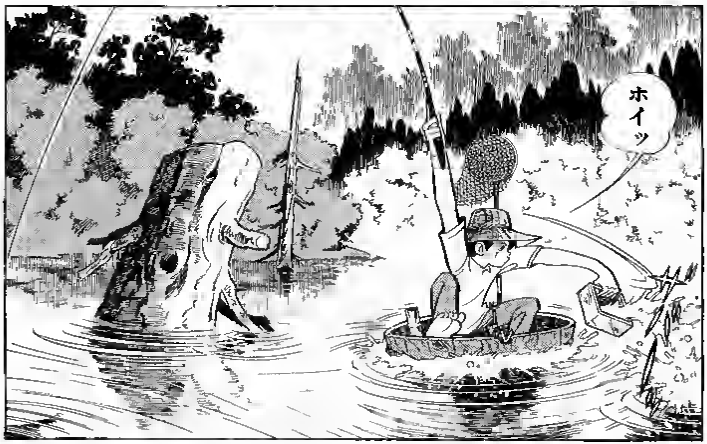



ビッタンコ
二十一度の
タナ(水層)で
かかりおった
やっぱし
おらたちの
青鮫釣り作戦は
図にあたってた
わけだ…フフフ


おっととと
そんなに
つっこまれちゃ
糸が　まにあわ
ねえや
あわっ
フェーッ
いけねえ
タライが
水びたしだ
こりゃあ
コトだぞ
!!
ヘタすると
水が
いっぱいに
なって
しずんでしまう
かもしれん
!!


クソオ
こうなりゃあ
エサ箱で
かき出すしか
ねえべ
バラ
ガボボ


こりゃあ
いそがしい
こった
右手で
竿を持ち
左手で
水かきか


ホイッ


ウッ
うわ〜〜っ
こ
こなくそ
こんどは
横っ走りを
はじめ
おったか

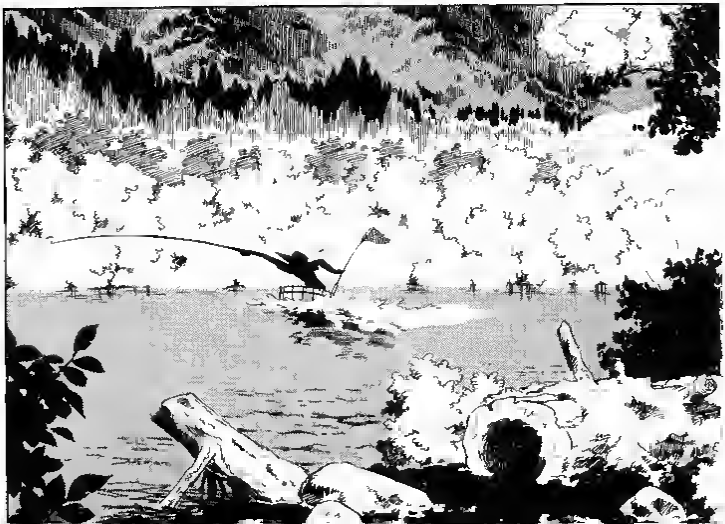

トヒョ〜〜〜
ウヌヌッ


こいつあ
おあつらえ
むきだぜ
タライが
まるっこい
んで
こぐときは
苦労したが
そのまるっこさのために
かえって
こまわりが
きいて
どこさ
ひっぱられても
クルクル方向を
かえることが
できるわい
そらっ
ひけっ!!
あばれろーっ
もがけーっ
おらの
じいちゃん
がいってた……
魚が水の中に
あって
姿見ずのうちが
釣り人の腕の
見せどころだと
一日でも
二日でも
根くらべなら
負けん
そ——っ


カルデラの青鮒ーっ!!

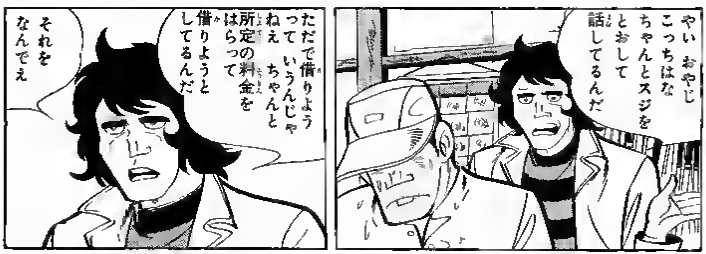

おおめえの姿を見るまではこのタライがしずんだって
竿だけはぜったいにはなさねえぞーっ





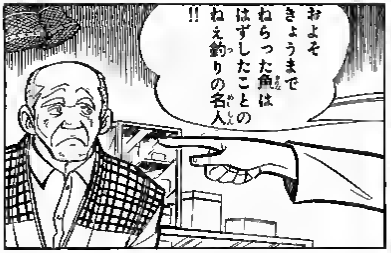

ボート
ボート


たのむからけえってくれよ
ボートはおらのものだ貸したくねえもんは貸せねえだ


やいおやじこっちはなちゃんとスジをとおして話してるんだ
ただで借りようっていうんじゃねえちゃんと所定の料金をはらって借りようとしてるんだ
それをなんでえ


まあまあ石崎くんらんぼうはよくねえよ
ししかし一平じいさん
おやじさん船の件はそちらにもつごうってものがあるべからやむをえねえが…
ひとつだけ聞いておきてえことがあるだ
おらたちの名まえをだれから聞いて知ってただ
おっそのことだったらおれが教えたのさ
いえねこのおやじがどういうわけかしつこく聞くもんでね
なんだとオ
タイコの中
モザク牛乳


オイボレのほうは
和竿づくりの名人
三平一平
ガキのほうは
その孫むすこで
三平三平
そろいも
そろって
ふたりは
大の釣りキチ


およそ
きょうまで
ねらった魚は
はずしたことの
ねえ釣りの名人
!!


カルデラの青龍も
おれが釣らなければ
かならず
やつらが
釣るだろう…
なんつっちゃって
あんまり
しつっこい
もんだから
ドボーンと
おどしをふっかけて
おいたのさ


それが
どうかしたん
ですか
おいおい
おらたちのことを
オイボレとガキは
ちと
ひでえ
よびかただなや


ケッヘヘ
話のはずみ
ですよ
そうけえ
…
そうだったの
けえ…


ダイワの釣竿
おやじさん
おめえが
おらたちに
船を貸さねえ
わけは
わかったか
だ


えっ
青鮒釣りはやめにしてすぐこの貝沼からかえることにするべ
どうじゃそれで文句はあるめえ
ううっ


石崎くんすまねえが青鮒釣りの勝負はなかったことにしてくれ


おおい一平じいさんいまさらなんてことをいうんですか
ま、待ってくださいよ
一平じいさーん


一平
じいちゃーん
たたた
たいへんよーっ
ありゃあ
ユリちゃん
でねえか
どう
しただ
いってえ
たたいへん
よ――っ
どうしただ
ユリちゃん
なんか
あったの
けえ
たいへんよ
三ちゃんが
タライき乗って
青鮹釣りに
出ていっただ


タライの船だとオ
ウーム三平のやりそうなこったな


あんなちっこいタライだから
もしひっくりかえったらてえへんだべ


そうだそいつはヤバイな
うんにゃその心配はする必要もねえて


この沼ぐれえにはまったところでおぼれちまうようなやつじゃねえて
三平は子どもじゃが泳ぎはおとな以上だ ハハハ


ん――っ一平じいちゃんのイジワル――っ

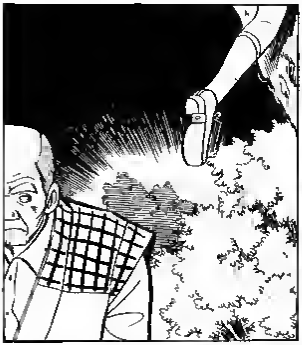

そんだこといったっておら心配だわ
三ちゃんにもしものことがあったら・・・
ぽっ

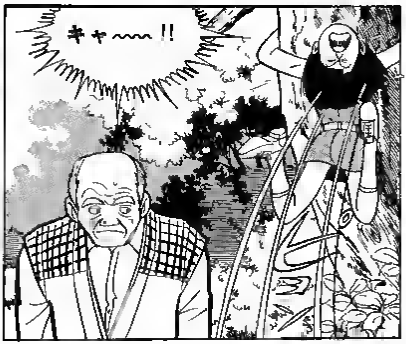

あれっユリちゃんいつも三平とケンカばっかりしてるのにきょうはおかしいでねえか

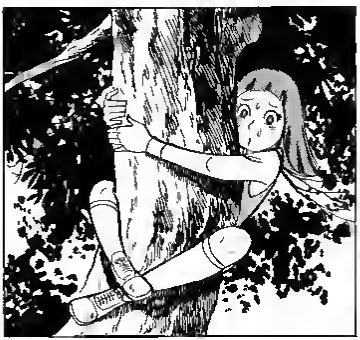

早く
早く!!
こっちよ
こっち!!
まあまあ
ユリちゃん
そんただ
あわてること
ねえて
そんなこと
いわねえで
いそいで
けれ
十
フフフ
キ
ムスッ


ヘビ


とうしただきゅうにとまったりして
ホーイテ
ヘビでもいるんですか




キャ〜〜!!




さあいくぺ


ホラ 見れ
三ちゃんは
あすこに
いるだ


なにか
かかって
いるようで
すね


もしかして
青鯉じゃあ
ねえだろうか
あの
ひきの
ぐあいだと


ウヒョ
〜〜〜ッ

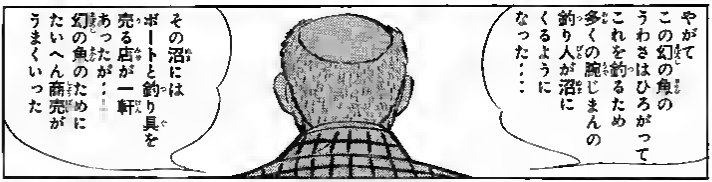

おめえたち
すまねえが
ここで
見ててくれ
おら
ちょっくら
用を 思い
出しただ…
すぐかえる
からな…


やっぱり
タライに乗って
やっとる・・・
もしかして
青鮒が
かかったんじゃ
ねえかな!?
ウッ
フフフ 赤い
釣り帽子の
おやじさん
もう
そんな
まねは
やめるべ
ウウッ


青鯖釣りはやめにしたんだからいいでねえか
ウウッ
ガクッ
すまねえふ船の貸し出しをことわったりして
だがどうしておらのことがわかっただ…
でもおらのことおこってるだろう
そんただことどうだっていいじゃねえか

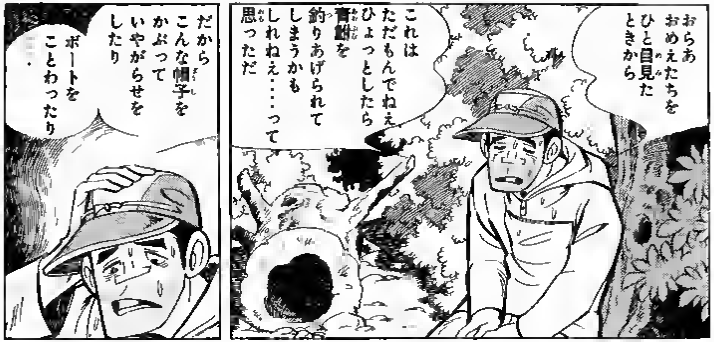

おこってなんかいねえ・・・
むしろおめえさんの考えてることはあたりめえの考えかもしれねえ


あるところに沼があった・・・・
その沼にはいつのころからかえたいの知れねえ幻の魚がすみつくようになった・・・

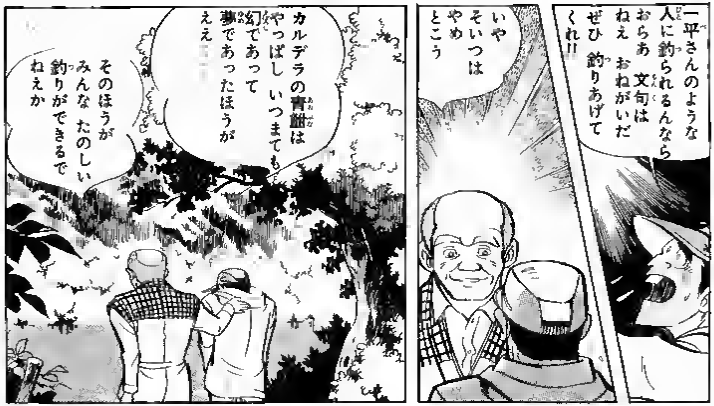

やがてこの幻の魚のうわさはひろがってこれを釣るため多くの腕じまんの釣り人が沼にくるようになった・・・・
その沼にはボートと釣り具を売る店が一軒あったが・・幻の魚のためにたいへん商売がうまくいった


このボート屋の主人はいつもこう思った
この沼に幻の魚がいるかぎり多くの釣り人たちは夢をもとめてたのしい釣りができる・・・と
そして自分の商売もうまくいく・・・と


だから
ボート屋の
主人にとって
この幻の魚は
この沼に
すんでいなければ
ならない魚が
あったし……
それが
釣られてしまっては
こまる魚でも
あった……
釣られてしまえば
夢のある たのしい
釣りができなくなる
かもしれねえ……
ひょっとして
それがもとで
釣り人がこなく
なるかもしれねえ
ボート屋の
主人は
きっと そう
思ったに
ちげえねえ
この話は
ずうっと
むかし
だれかから
聞いた話じゃ
おらあ それ
聞いたとき
もっともな
話だと
思っただ
一平さん
……
すまねえ
……


おらあ
おめえたちを
ひと目見た
ときから
これは
ただもんでねえ
ひょっとしたら
青鮒を
釣りあげられて
しまうかも
しれねえ……って
思っただ
だから
こんな帽子を
かぶって
いやがらせを
したり
ボートを
ことわったり


なに
いってるだ
そんただこと
おらの知った
こっちゃあ
ねえ
それよか
その手を
あげてくれ
一平さん
青鮒を
釣って
みてくれ
!!


一平さんのような
人に釣られるんなら
おらあ 文句は
ねえ おねがいだ
ぜひ 釣りあげて
くれ!!
いや
そいつは
やめ
とこう
カルデラの青鮒は
やっぱし いつまでも
幻であって
夢であったほうが
ええ
そのほうが
みんな たのしい
釣りができる
ねえか


おおっ
あれは
!!
うっ
ケヘヘッ
これじゃあ
なんぼ水かき
したって
まにあわ
ねえや
ようし
こう
なったら



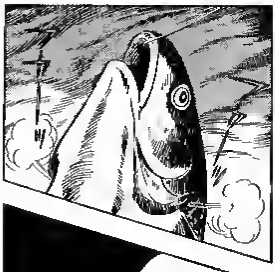

おお!!
まだはずれてねえ!!

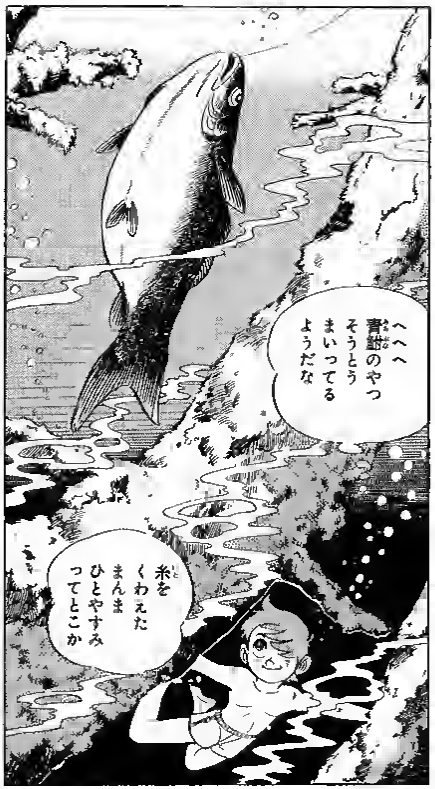
青鮒だっ
カルデラの
青鮒だ!!



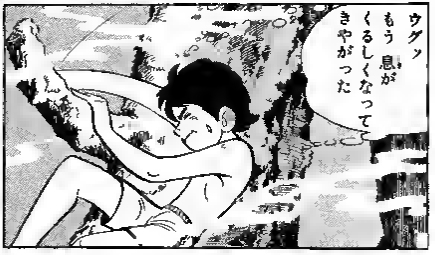

す すげぇ
でっけえなぁ
一メートル
ちかいぞ
あれじゃあ
おらが なんぼ
ひっぱっても
あがってこねえ
わけだ


おおっ
枯れ木のかげさまわるつもりだな……
このぶんだとどうやらおらのことに気づいてねえみたいだ


アーカー町

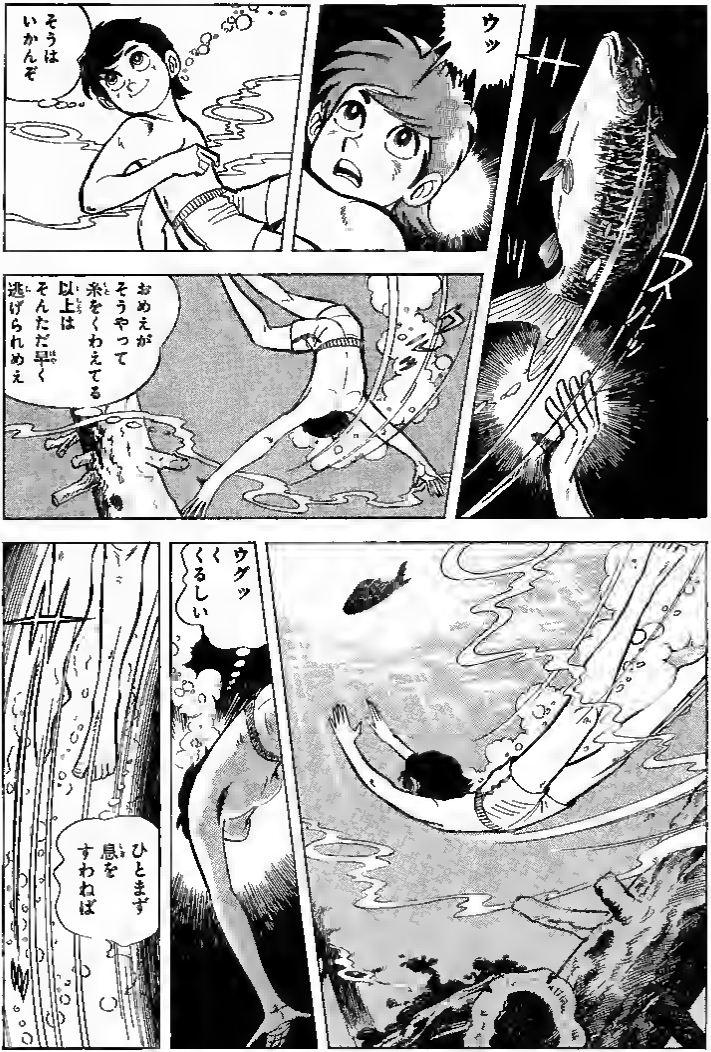

へへへ
青鮹のやつ
そうとう
まいってる
ようだな
糸を
くわえた
まんま
ひとやすみ
ってとこか


ようし
こうなったら
木のかげから
そっと 近づいて
とびだしざまに
だきかかえて
水からあげる
しか 手は
あるめえ


ウグッ
もう 息が
くるしくなって
きやがった


やつの盲点を
ついて 真下から
真撃だ

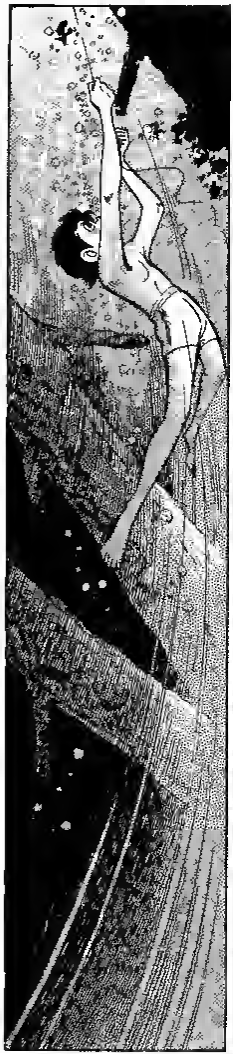
いくぞっ
!!


そうは
いかんぞ
ウッ
おめえが
そうやって
糸をくわえてる
以上は
そんただ早く
逃げられめえ
ウグッ
くるしい
ひとまず
息を
すわねば


!!
そうだっ!!
この糸をたぐって
いけば わけなく
青餡に近づく
ことができる
わけだ
ウヒョ〜〜〜ッ
こんどこそは


おーい
三平ーっ
!!
三ちゃーん
どこさ
いるだーっ
一平さん
かわってくれ
おらに
こがして
くれ

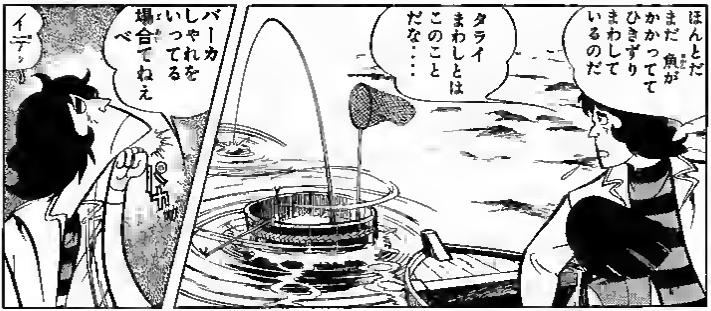

そうか
ほんじゃ
おねげえ
するか
おねがいだ
なんて
ホイキタ
どうじゃ
おめえたち
まだ見えんか
三平の姿が
ハイ
ハイ
クソオ
おいおやじ
もっと早く
走れねえ
のか
そ そんな
ムチャな
ここれで
せいいっぱい
ですよ
ハアヒイ
クソオ おれの
モーターボート
さえあれば
一気につっ走る
んだが
こんなときに
かぎって
故障だなんて
ついてねえや
おーい
三平くーん
三ちゃーん



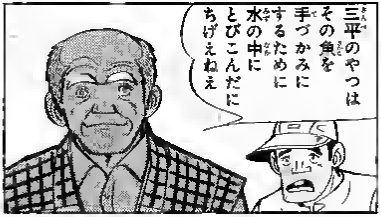

そろそろかんねんしたほうがいいでねえか
おーっとそんなに強くひっぱっちゃあ糸がきれるて
ケヘッやっめ気づいたか


あら
あすこに
三ちゃんの
タライが
おお
ウヒョッ
一平じいさん
こりゃあ
えらい
こったぜ
タライだけで
三平くんの
姿が見えん
おれたちがこの船をとりにもどったのは
三平くんがタライに水がはいってしかたなくとびこんだときだからいままでには
そうとうの時間がたっているぜ
ウーム
んーっ
一平じいちゃんったら
そんなに
おちついてていいのけえ
三ちゃんに
もしものことがあったら
そうだ
ひょっとして
死体になって
うかんでるかも
しれねえから
さがそう
死体!!


バカ
バカ
バカッ
えんぎでも
ねえことを
いうでねえ
!!
フフフ
三平は まだ
水の中じゃ
あのタライを
見ろ!!
まだ ひきずり
まわされて
いるでねえか


ほんとだ
まだ 魚が
かかってて
ひきずり
まわして
いるのだ
タライ
まわしとは
このことか
だな・・・
バーカ
しゃれを
いってる
場合でねえ
べ
イデッ
ピヤ


ゴゴゴゴ

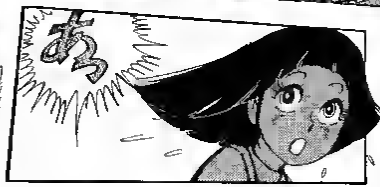

三平のやつは
その魚を
手づかみに
するために
水の中に
とびこんだに
ちげえねえ

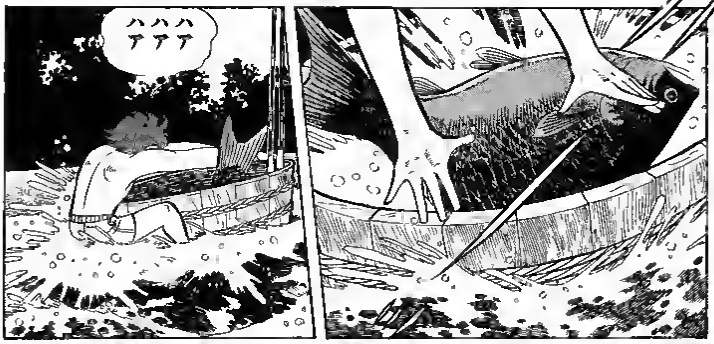

一平さん
あの調子だと
もしかして
青鮒がかかって
るんじゃ・・・!?
ウーム


ウッ

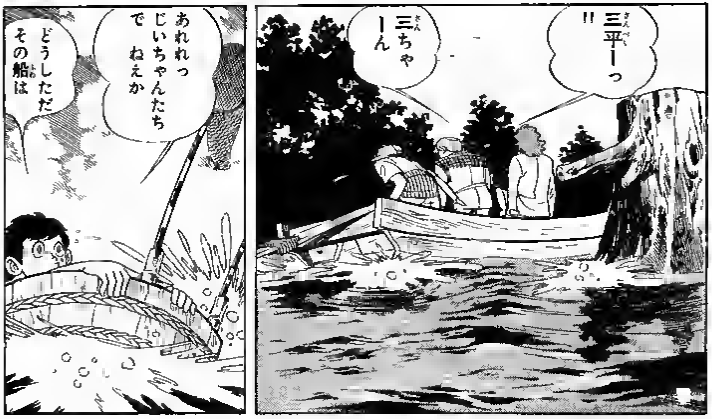



ズ
ザ
ザ


あ


ハア
ハア
ハア

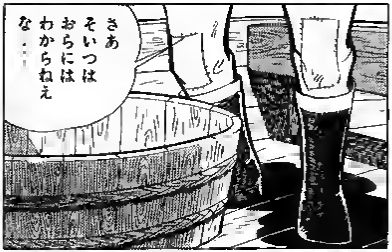

あ
青鮒だ
ウムッ
でっかい
あのタライに
はいりきれん
三ちゃん
あ
青鮒
……
ホケーッ


三平ーっ
!!
三ちゃーん
あれれっ
じいちゃんたち
で
ねえか
どうしただ
その船は


やったな 三平
やっとここまであげることができただ
くたびれたなあ……
こいつがカルデラの青鯰の正体か
青い!! みごとな青色のウロコだ!!
じいちゃんやっぱりおらたちの考えはあたってたな……


青鮒の正体はヘラブナの巨大化したやつだってことがき
えっ
フフフそうじゃなこれはまさにヘラブナじゃ


ほ ほんとだ で でもヘラブナがどうしてこんな青色をしてるんだ

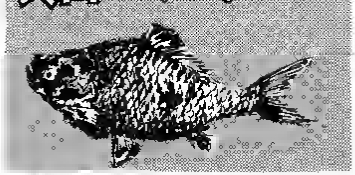

さあそいつはおらにはわからねえな…


三平早いとこ青鮒の魚拓をとれ
こんなこったろうと思って紙と墨は準備してきた


ささみんなじゃまだからどいたどいた


おっ!!さすがおらのじいちゃんだ

矢口 釣りコーナー

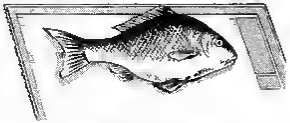




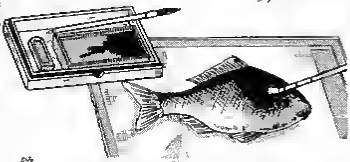
魚拓のとりかた

①布や新聞紙などで魚体をいためないように ていねいに水気とぬめりをとる
(ぬめりは塩をすこしまぶすと とれる)

②新聞紙などをひいて 魚が動かないように固定する (このとき魚の頭部を右にもけておくこと‥‥うつしとった魚拓は頭が左もきになることが通例だからだ)



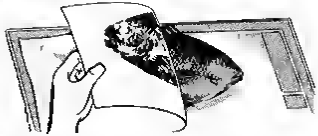
③筆で まんべんなく墨をぬる (ポスターカラーでもいいが すずりですった墨が一番よい (墨色があせたりしないから)



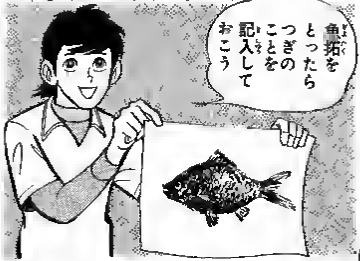
④紙をそっとのせて 全面ムラのないように しずかにこする (紙に墨をよくすいこむ画仙紙が最適だ)



⑤頭部から しずかにはがす



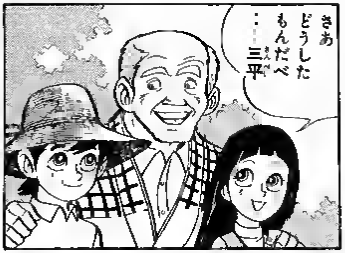
⑥筆で目を入れる (そのほかの部分には筆を入れてはならんぞ‥‥)



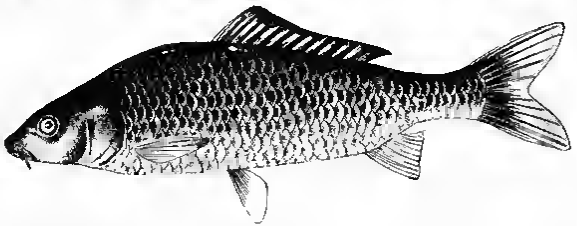
▲魚の名まえ
▲体長(ふつう口先から尾のはしまでの長さ)
▲重量
▲釣った日
▲釣った場所
▲釣った人の名まえ
▲現認者(たしかに その人が釣ったことを証明する人のことで コンクールなどではこれがないと通用しない)

魚拓のとりかたには直接法と間接法の2種類あるが ここでは だれにでもかんたんに短時間にできるという点で直接法をとりあげてみました (間接法についてはべつの機会にとりあげてみたいと思います)

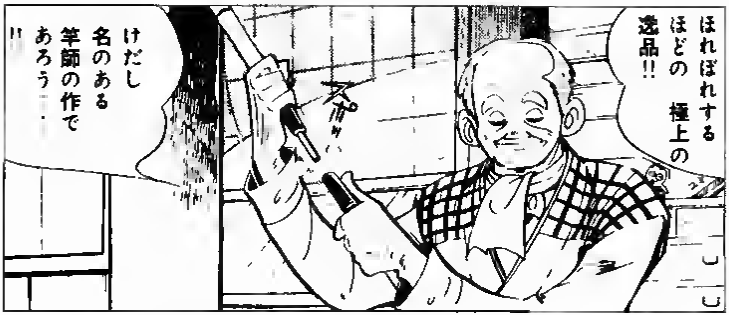

ああっ
さ 三平くん
!!
フフフ
青鮪くん
あばよ
さ 三平くん
どどうして
はなしただ!!
おしいな
せっかく
釣った青鮪
じゃないか
もう あいつには
用はねえべ
正体は
わかったし
魚拓も
とったしな
そうじゃ
三平のいう
とおりじゃ
カルデラの青鮪は
この貝沼の主じゃ
主がいるかぎり
夢のある たのしい
釣りができると
いうもんじゃ







カルデラの青鮒の巻　おわり



■一平じいさん

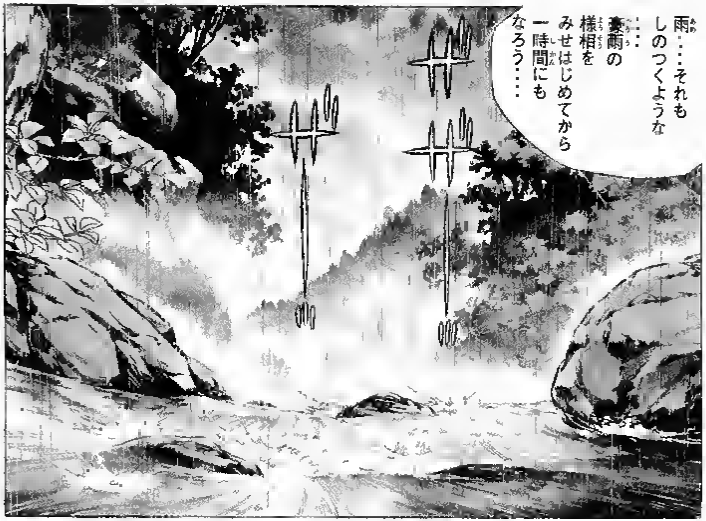
登場人物にモデルがあるのか……の質問を受けることがよくある。当然ある場合もあれば、フィクションの場合もある。

三平クンの祖父一平じいさんのモデルは、じつはボクのおじいちゃんである。しかしボクのおじいちゃんは、一平じいさんとはまったく逆であった。二十五年まえに七十八歳でこの世を去ったが、とにかく口やかましく、たえず苦虫をかみつぶしたような顔をし、ガミガミとどなりちらし、頭にコブがでるほどなぐられたことが何度あったかしれない。なぜこんなおじいちゃんだったかは、おとなになって理解することができたが、ボクは何度も泣き、そのたびに心の中で「オニジジイ」を連発した。と同時に、いつの間にか、子ども心に「こんなおじいちゃんがいたらなア……」と考えるようになっていた。

そんなボクの少年時代に描いた理想のおじいちゃん像が、三平クンの祖父一平じいさんである。いつもほほえみをたやさず、けっして若者の意見をおさえず、しかも自分の人生観をしっかり持って……。ボクも、やがて年老いたら、こんなおじいちゃんになりたい。



幽沼の羽衣鮒の巻


雨……それも
しのつくような
……
豪雨の
様相を
みせはじめてから
一時間にも
なろう……


しかし
いっこうに
晴れる気配が
ない……

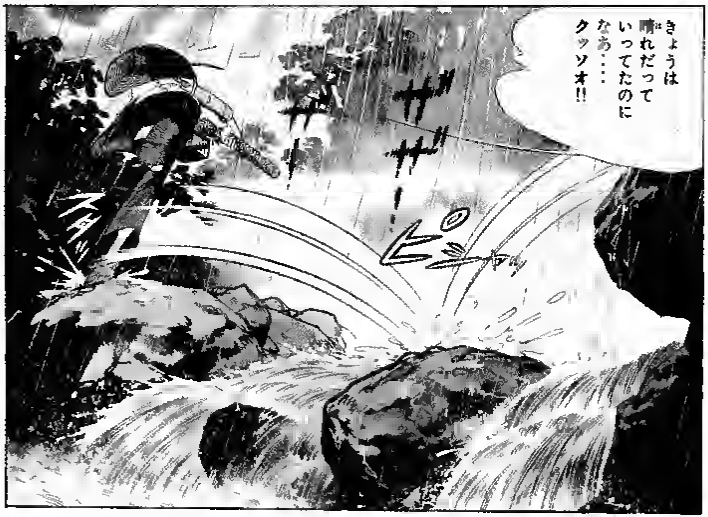

水がにごり
枯葉がまじって
ながれだした


枯葉が
ながれだしたら
谷川の釣りは
危険である


たとえば……
雨水に 地盤が
ゆるんで
土砂くずれでも
おきようものなら
……
たちまち
ちいさな
ダムに
なっちまう
……
もし
このダムが
やぶれたら
どうなる!?


鉄砲水
だっ!!


クッソオ
しようが
ねえなあ
こうなりゃあ
はやいとこ
谷川から
ぬけだすことが
先決だ
それにしても
きょうは
まったく
ついてねえ！
雨には
ぶったたかれるし
イワナは一ぴきも
釣れねえし
ふんだり
けったりだ!!
ま——ったく
天気予報ほど
あてにならねぇ
もんはねえ！


きょうは
晴れだって
いってたのに
なあ…
クッソオ!!


フェ――ッ
こりゃあ
たまらねえ
どっかで
雨やどり
しなくちゃあ
ヒョッ!!
ン!?
な――んてこった
こりゃあ
さっきの谷川は
どしゃぶり
だったのに・・・
このあたりは
まるっきり
ふってねえじゃ
ねえけえ
ひょっとしたら
このあたりの雲さ
あなぼこでも
あいてるんじゃ
ねえべか・・・?

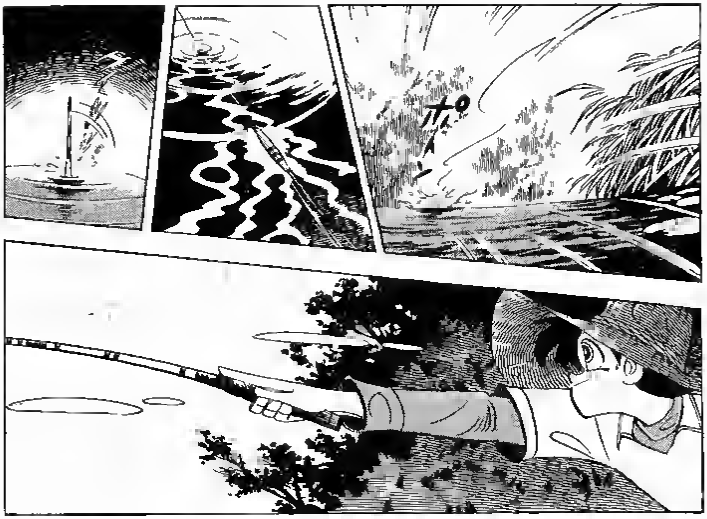

ふしぎなこともあるもんだなや
まさかキツネかムジナにでもバカされたんでねえべか……!?
とにかくすっかり気がぬけちまったなあ
まさかこんただまっぴるまにバカすキツネもあるめえども……
ありゃ
こんただとこさ沼があるなんてきいたことがねえぞ
なんかいるのかなたいしてでっけえ沼でもねえけど……!?


まあ……
いまさら
ひきかえした
ところで
あの雨だから
……
谷川は
増水と
にごりで
釣りには
ならん
だろうから
……


ちょっくら
ここで
ひまでも
つぶして
かえるとするべ
……

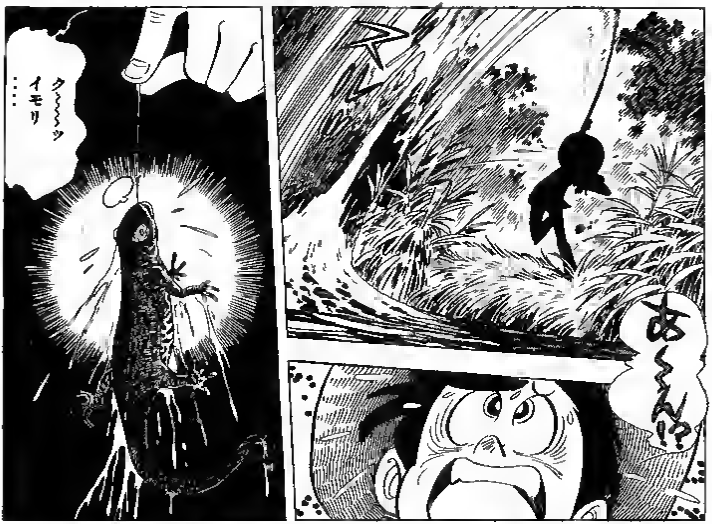

しかし
こーんな釣りは
はじめてだ
なあ
なにが
釣れるか
わからねえ
釣りなんて
……


んだども
水が
あるんだから
なんか
すんでるべ
……


ポチャン


ウッヒョ〜〜〜ッ!!
いっぱつでねえけえ!!
ホッ!!



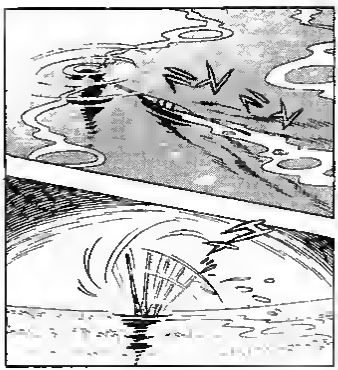

あくんﾝ!?
ク〜〜〜ッ
イモリ
……

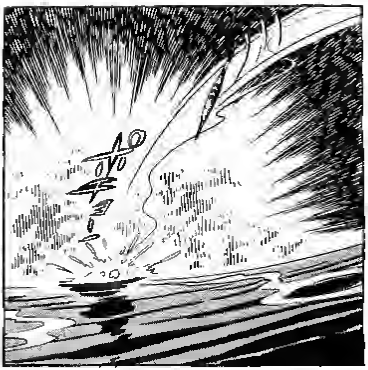

まてまて
こんただことで
くさるようでは
ほんものの
釣りキチじゃ
ねえ……
イモリが
釣れたちゅうことは
このさい むしろ
よろこぶべき
こと……

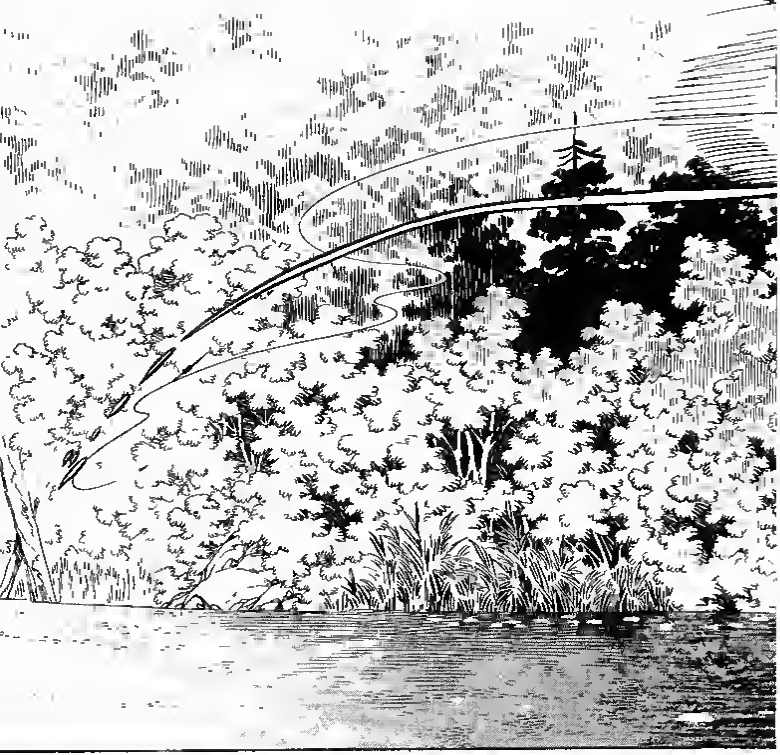

つまり
……
イモリが
すんでるちゅう
ことは 魚だって
すんでる可能性が
あるっちゅうことに
なるべ へへへ……


ようし
そうとなりゃあ
いっちょう
本腰いれて
さぐってみるか!!









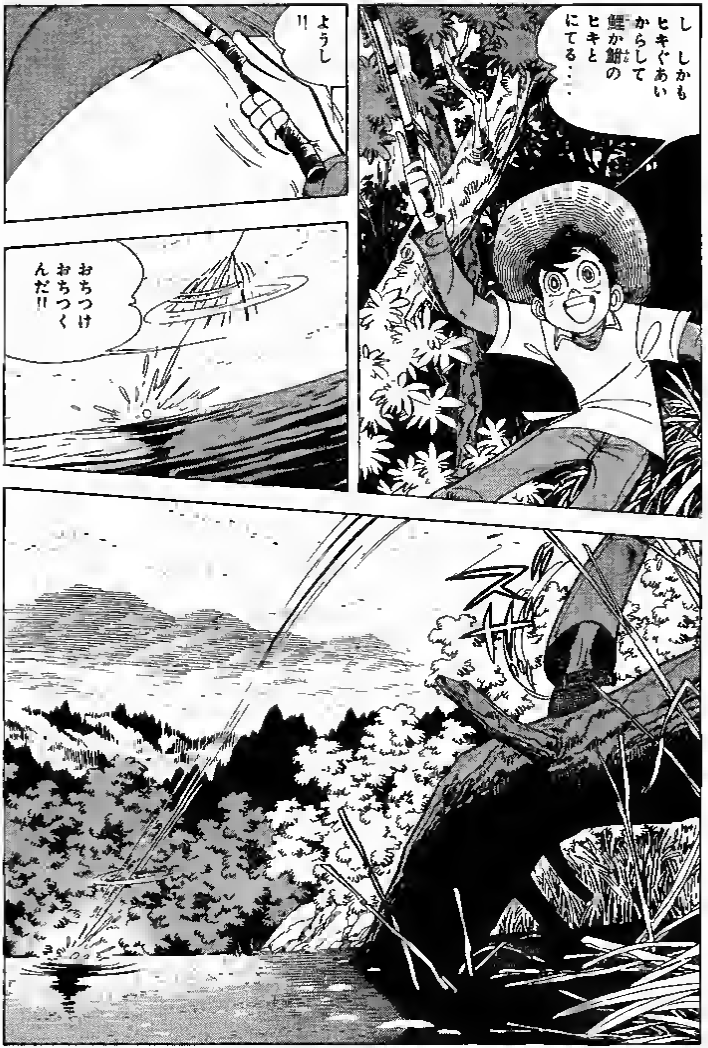



しかし
こんただ釣りも
やってみると
あんがいと
おもしれえ
ぞ・・・
鬼が出るか
蛇が出るかって
ことばも
あるけど
・・・・
なにが
釣れてくるか
わからねえって
てのが・・・・
かえって
なんかこう
興奮して
くるみてえ
・・・・
チッ
ン!?
あれは
沼の水口で
ねえけえ
・・・・
ヘエ～～ッ
ちょっとした
谷川に
なっている
から・・・
ひょっと
したら
イワナなんか
いるかも
しれねえぞ
・・・・


カ――ッ
きょうのおらは
どうか
してるぜ…
池や沼は
まず　水口から
せめるべしという
釣りの鉄則を
すっかり
わすれて
こ――んだ
へんな
ポイントさ
竿を出す
なんて…
さっそく
ポイントを
かえて
せめなおし
だ!!


あわっ!!
ウッヒョ〜〜〜ッ

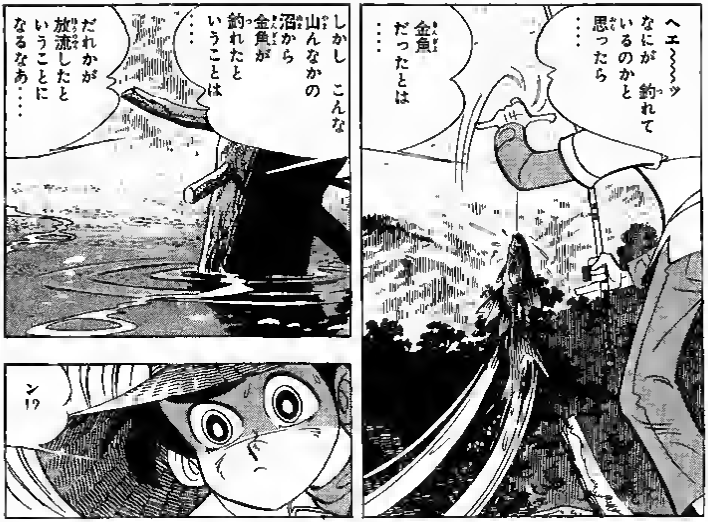

きたっ
きたぞ――っ
!!
こ
このヒキは
イモリなんかじゃ
ねえ!
ま
まちがいなく
魚(さかな)の
ヒキだ!!


し しかも
ヒキぐあい
からして
鰹か鮪の
ヒキと
にてる・・・
ようし
!!
おちつけ
おちつく
んだ!!


ヒョッ!!

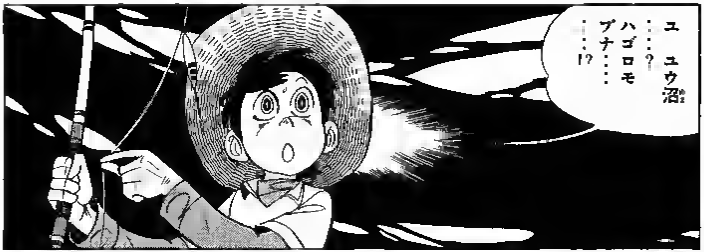

ぶ～ん!?
な
なんでえ
こりゃあ
……!?


うわ～～っ
なにかと
思ったら
金魚で
ねえけえ!!


ヘエ〜〜〜
なにが釣れているのかと思ったら……
金魚だったとは……
しかし こんな山んなかの沼から金魚が釣れたということは……
だれかが放流したということになるなあ……
ン!?


こ こりゃあちょっと見には金魚とにてるけど……
よく見ると金魚じゃねえ!!


とにかく
いかしてもちかえって
くわしいことは家でしらべてみるとして……
もういっちょう釣ってみるべ!!
よし!!
こら——っだれじゃあ幽沼の羽衣鮒を釣るやつは——っ!!
オヨ!


ユ ユウ沼…？
ハゴロモブナ…！？


あいさ この沼は幽沼…
ほんで いまおめえの釣ったのが羽衣鮒…かくしてもだめだぞ！
かくすなんてそんな！
おらあ そんなきたねえ人間じゃねえだ!!
それにしてもこいつは羽衣鮒っていうのけえ


あいさ 見てのとおりひらひらとなが――い尾ヒレは…
まさにうるわしき天女の羽衣じゃ!!


おじさん
天女の羽衣
ちゆうたら
昔話さ
出てくる……
三保の松原で
漁師に 羽衣をかえして
もらったおれいに
舞いを舞いながら
昇天した……という
あれけえ!?

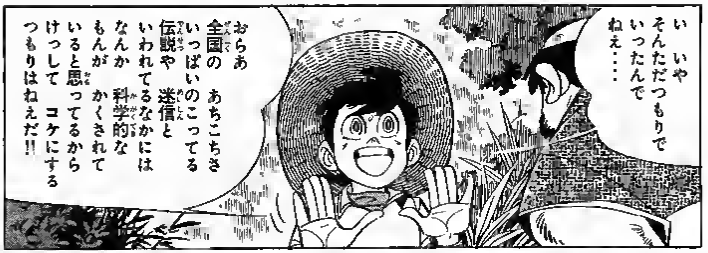

まあ……
そういう話も
あるらしいが
あっちは
別口の天女で
さあ……
この 幽沼さ
おりてきたのが
本家本元の
天女じゃよ


あ あの天女は なしておりてきたんだべ……
そ そりゃあおめえいかに 天女といえども空を飛んでくるんだから……
長旅のつかれやあせなんかもながすために水あびをするんじゃよ
ヘエ～～～ッ天女ってあせをかくのけえ!?
クッ
も もちろんあせもかく
ポン
ただしわしら俗人とちがって真珠のような きれいなあせをな……
てなわけで天女は 羽衣をぬいでそこらの木さひっかけて……
わっ わっ!!
ほんじゃあとうぜんスッポンポン!!
水あびをしたってわけさ……
エッチなことかんがえるてねえ!!
クッ


一陣の風がふいて…
ところがちょうどそのとき
羽衣がヒラヒラと沼に舞いおちたそうな…

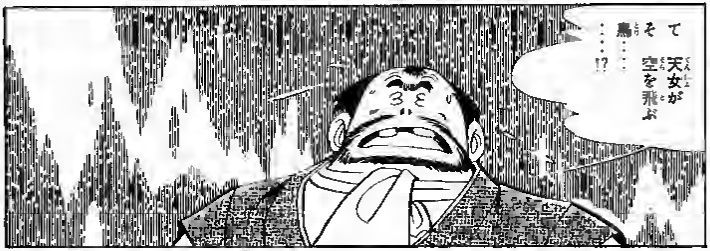

そんなこととは
つゆ知らず
水あびをおわった
天女は・・・
羽衣を
着ようとしたら
ない!!
あれがないと
天に
かえれない!
こまりはてて
あちらこちら
さがしている
うちに
いま まさに
沼の底に
しずもうとしている
羽衣を発見!!
あわてて
とびこんだ
のじゃが


それっきり
天女も 羽衣も
沼の底さ
消えて……
二度と
ふたたび
うかび
あがって
こなかった
そうじゃ
……
ところが
そんなことがあって
しばらくする
うちに……
沼にすんでいた
鮒たちの
尾や ヒレが
しだいに
のびだして
まるで
天女の羽衣でも
まとっている
ような 姿に
なったちゅう
のが……
この
羽衣鮒の
ゆらいよォ!!
ワカカカ
ケエ!!
ヘエ〜〜〜ッ
おんもしれえ
伝説だども
天女ってのは
いまの科学の
世のなかでは
通用しねえ
話だなや……
バカこけ!
このごろの
ガキゃあ
なにかと
いうと
す――ぐ
科学
科学ちゅうて
わしらを
コケにする!!

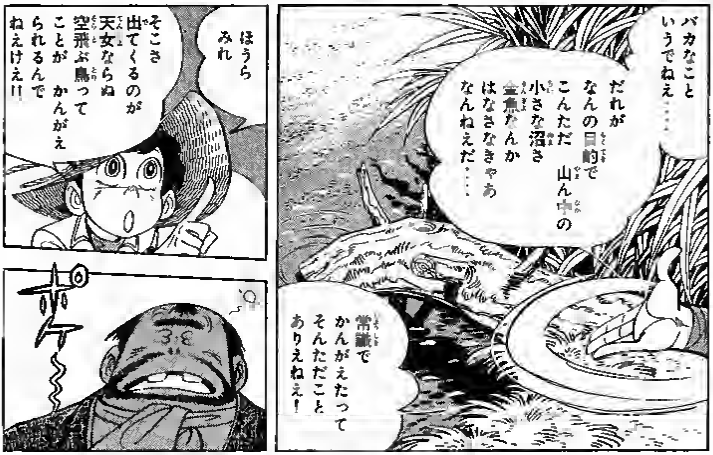

いいやそんただつもりでいったんでねえ…
おらあ全国のあちこちさいっぱいのこってる伝説や迷信といわれてるなかには なんか科学的なもんがかくされていると思ってるからけっしてコケにするつもりはねえだ!!

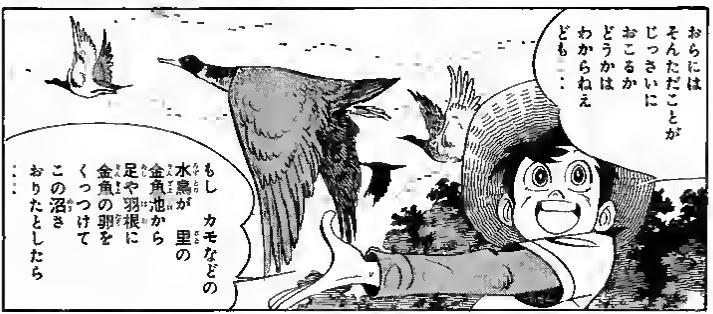

んだども天女となると人間が空を飛べるわけはねえし
やっぱしむかしの人たちがかんがえだした つくり話の迷信だと思うなあ
つ つくり話の迷信!?
んだ!!

んだからこのばあいは空を飛ぶということから
天女を人間ではなく鳥かなんかだとかんがえたらどうだべ…


て 天女が そ 空を飛ぶ 鳥…… !?


うん…
たとえば　この
羽衣鮒は
さっきから
見てると…
どうも
鮒と金魚の
あいの子みてえに
見えるだが…
だれか
この沼に
金魚を
放流したという
ことは　ねえべか？


バカなこと
いうでねえ…
だれが
なんの目的で
こんただ　山ん中の
小さな沼さ
金魚なんか
はなさなきゃあ
なんねえだ…
常識で
かんがえたって
そんただこと
ありえねえ！
ほうら
みれ
そこさ
出てくるのが
天女ならぬ
空飛ぶ鳥って
ことが　かんがえ
られるんで
ねえけえ!!

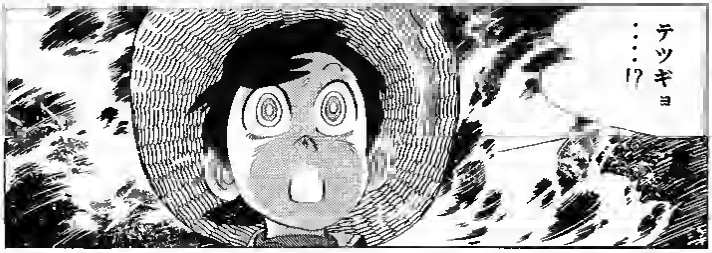

おらには
そんただことが
じっさいに
おこるか
どうかは
わからねえ
ども…
もし　カモなどの
水鳥が　里の
金魚池から
足や羽根に
金魚の卵を
くっつけて
この沼さ
おりたとしたら
…


この沼にも金魚がすむようになり…
まえからすみついていた鮒とまじわりあって…
羽衣鮒が生まれたんでねえべか!?
てなことが証明されるとすれば…
天女伝説の正体は水鳥ということになるが…
こ このガキゃあだ だまってきいてりゃあとんでもねえことをぬかしやがる!!
羽衣鮒は羽衣鮒!!
金魚と鮒のあいの子なんかじゃねえっ!!
ま まて 虎蔵おちつくんじゃ!!
ああっ せ 先生!!
!?


ぼうやー…
わるいとは思ったが
じつに 大胆 かつ
異味ある仮説に
つい ひきこまれて…
すっかり 立ちぎきさせてもらいましたよ…


とくに 天女の
羽衣伝説が
水鳥であり
金魚の卵が
その 水鳥によって
空中をはこばれた
という 想定は
じつにユニークな
発想であり
じゅうぶんに
ありうることだ
しかし いまの
ぼうやの
仮説は…
本で
読んだか
だれかに
きいたものか
それとも

羽衣鮒の
正体が
テツギョと
知ってのことだろう…


テツギョ
…!?




おい こぞう
このかたはな
こ——んただ
うすこぎたねえ
なりはしとるが
じつは 前島博士
ちゅうて えらーい
お魚の 博士先生で

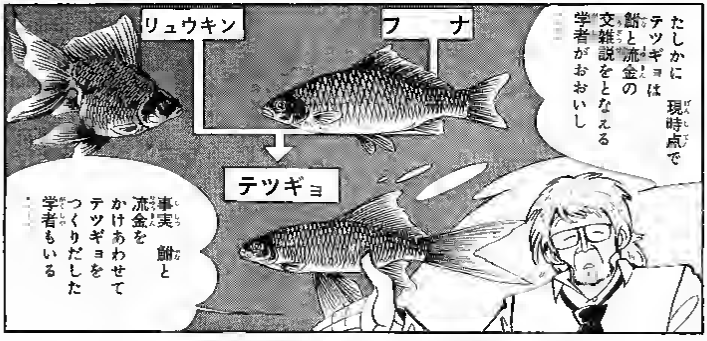

もう かれこれ
五 六年も
前から
羽衣鮫の
研究の
ために
この幽沼に
いりびたりの
かたじゃ!!


そして
このわしは
先生の
研究助手で
あり
この
幽沼一帯を
管理する
山守りの
虎蔵ちゅう
もんだ!!


どうも失礼しました……
羽衣フラ水質
そ　そんなかたとは知らずなまいきなことをいってしまって……
おい　虎蔵
そんなことどうだっていいじゃないか……
先生いってえどうしただきゅうに元気なくだまりこくって……
どっかからだぐえええでもわるくなったのけえ!?
いやあどこもわるくないが
フフフまいったよじっさい……
三平くんとかいったね
ハア……
いやあまいったよ……きみのあの天女水鳥説には……
こんな大胆な推論があるなんてわしはいままでなにを研究してきたというんだ……


しかも なんの予備知識もないのにテツギョを見て……
鮒と金魚の交雑説をとなえるとは……!!
こいつも釣りあげたとたんなんとなく鮒と金魚のあいの子みてえに感じたまでのことなんだ!!
と とんでもねえ! おらにゃあ そんただむずかしいことなんかかんがえてのことじゃねえだ
ただ… 年がら年じゅういろんな魚を釣ってるもんて


そこなんじゃよすばらしいのは…
その 直感とイマジネーションこそがものごとの発明発見における 最高のものなんだ……

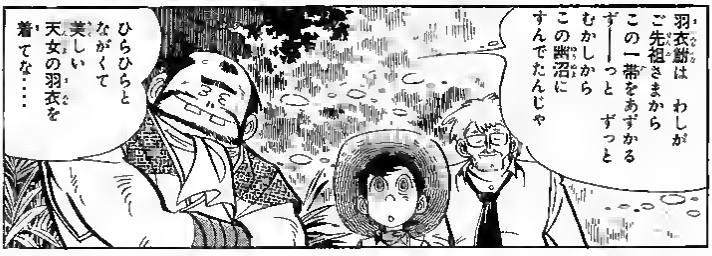

たしかに 現時点でテツギョは鮒と流金の交雑説をとなえる学者がおおいし……
リュウキン
フ ナ
テツギョ
事実 鮒と流金をかけあわせてテツギョをつくりだした学者もいる……


ええっ
ほ ほんと
けえ!?
ほ ほんじゃあ
おらが
あてずっぽうで
いったことが
あたってると
いうのけえ!?
ウム……
しかし
金魚
そのものが
遺伝学的
解剖学的に
みても……
金魚の祖先は
鮒であり 緋鮒であり
和金を原種とした
突然変異や
交雑をくりかえし
人間の手によって
つくりだされたことは
うたがいようのない
事実なのだ!!
フナ
ヒブナ
ワキン
リュウキン
ユキンチョウ
ブテンガン
デメキン
マンサキン
シュウキン
ワキンコ
リュウキン
トナイ
など……
しかし
この幽沼には
そのむかしから
鮒は すんで
いても……
金魚を
移殖したという
事実はないと
いう……
あいさ
そんこたあ
神仏にちかって
ねえ!!
なのに
鮒と金魚の
あいの子と
いわれる
テツギョが
いる……
この謎
この
不可思議を
どうとく!!


そのとき
わたしの直感と
イマジネーションは
こう 推論した!
すなわち
金魚を移殖した
事実のない
この湖沼から
羽衣鮒－テツギョが
発生したという
ことは・・・
フナ
テツギョ
キンギョ
鮒が まず
テツギョになり
さらに テツギョから
金魚にかわる
つまり テツギョは
鮒が 金魚になる
過程であり
金魚の原種では
なかろうか
・・・と!!
せ 先生
おら さっき
天女の羽衣が
どうのこうのって
いったけど
な なんだか
先生のかんがえが
理屈さ あってる
ような
気がしてきただ
・・・
フフフ
三平くん
むりせんでも
いい・・・


わしは まだ
この推論を
うらづける
科学的データーを
えとらんのじゃ
よ……


あったりめえ
だべ
羽衣鮒は
羽衣鮒……
金魚の
あいの子だったり
飼ってれば
しだいに 金魚に
かわっちまうなんて
ことがあって
たまるかい!!
フフ……
虎蔵は
テツギョの
話に
なると
いつも
こういって
わしを
たしなめるん
じゃよ……
きまってるて
ねぇか……
研究とか
なんとかぬかして
わしの夢を
こわさんで
くれ……


羽衣鮒は わしが
ご先祖さまから
この一帯をあずかる
ず――っと ずっと
むかしから
この幽沼に
すんでたんじゃ
ひらひらと
ながくて
美しい
天女の羽衣を
着てな……





「テツギョ」は　現在　全国各地の池や沼にいることが確認されているが　なかでも　奥羽山中にある魚取沼(宮城県)は　その自然群棲地として　天然記念物に指定されている

しかし　テツギョの生態や発生などにおける研究分析がいがいにすくなく　いずれも核心をついた本格的なものとはいいがたい点からしても　今後研究の余地がおおいにあるようだ　つまり　各地のテツギョの生息する池や沼には　キンギョが放流された事実がはっきりしているところもいくつかはあるしフナとリュウキンの交配によって　テツギョをつくることに成功した実験から　交雑説が有力となってはいるものの　もともと　キンギョそのものが　フナを元祖として人間がつくりだしたものであることを念頭において推論をすすめれば　幽沼のごときに関してはフナが変化したものとかんがえることもあながち無暴な論とはいえないと　ぼく(矢口)は思う‥‥

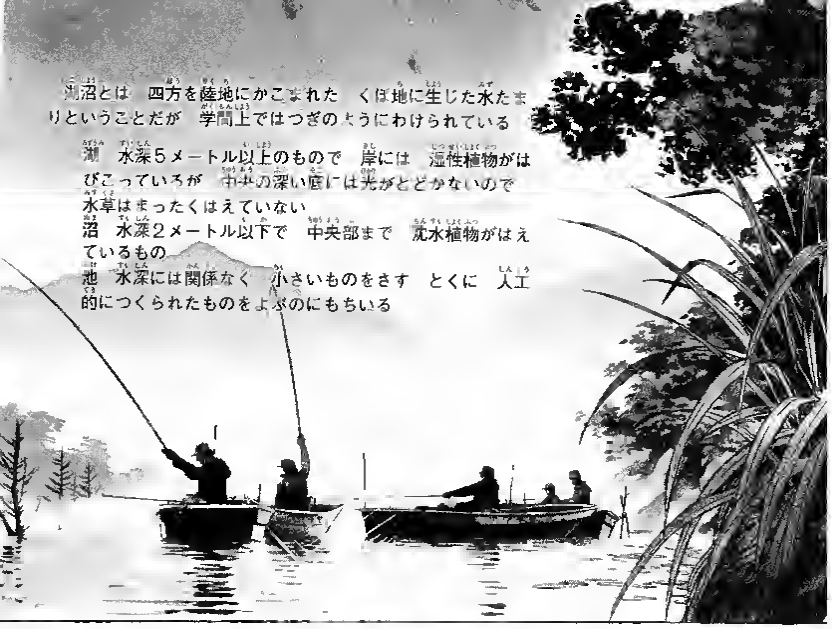
幽沼の羽衣鮒の巻　おわり

湖沼とは　四方を陸地にかこまれた　くぼ地に生じた水たまりということだが　学問上ではつぎのようにわけられている

湖　水深5メートル以上のもので　岸には　湿性植物がはびこっていろが　中央の深い底には光がとどかないので水草はまったくはえていない

沼　水深2メートル以下で　中央部まで　沈水植物がはえているもの

池　水深には関係なく　小さいものをさす　とくに　人工的につくられたものをよぶのにもちいる







おっぽり沼の緋鮒の巻

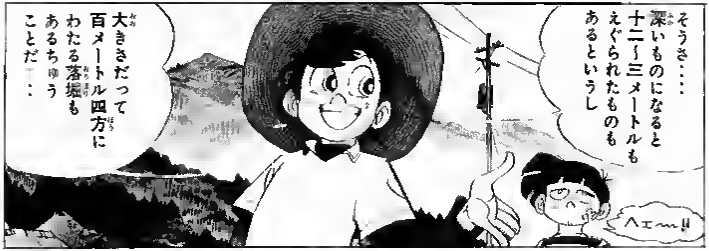



つまり
落堀ちゅう
やつは
ひと口に
いって…
大洪水で
堤防がきれ
きれた部分が
はげしい水流に
えぐりとられて
できた〝水たまり〟
ということさ
…


大洪水で
堤防が
きれ…


きれた部分に
はげしい水流が
あたり


えぐり
とられて
できた
水たまり
…!!


そうさ…
深いものになると
十二～三メートルも
えぐられたものも
あるというし
ヘェ～!!
大きさだって
百メートル四方に
わたる落堀も
あるちゅう
ことだ…


さあ!!
いよいよ
きょうの
目的地
ヘラブナの
メッカ
おっぽり沼が
見えて
きたぜ!!

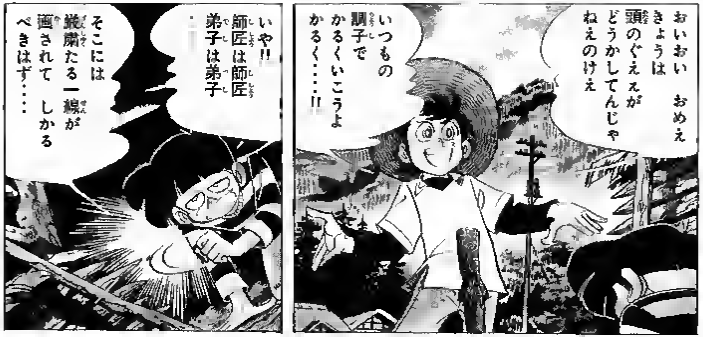

つまり あの
おっぽり沼も
ふだんはなにげなく
そうよんで
いるが…
おらたちが
生まれる ず――っと
むかしの 大洪水の
ときに できあがった
ため おっぽり沼と
よばれるように
なったちゅう
ことらしいだ…


ヘエ～～ッ
三平さんって
ホント
すんごい
なや…
ますます
尊敬しちゃうよ
そんただことまで
勉強してる
なんて…


なにを 大げさな
ことをいってるだ
正治…
以前 じいちゃんから
きいた話を
したまでのこと
なんだぜ

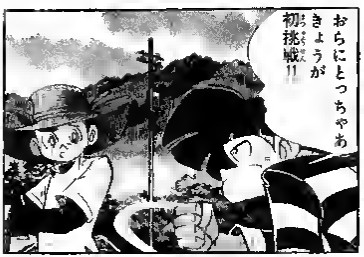

うんにゃ!!
かりに人から
きいたことでも
それをわすれない
記憶力たるや
…
さすが
おらが師匠と
あおぐだけの
ことはある!!
三平さん
おらあ
このとおり
きょうから
三平さんのことを
〝師匠〟と
よばせて
いただきます
おいおい 正治
そりゃなんの
まねだ……
いくらなんでも
おらあ まだ
師匠なんて
よばれる年じゃあ
ねえぜ!!


うんにゃ
おらに
とっちゃあ
三平さんは
……
たんなる
釣りの師匠と
いうよりも
……
人生の
師匠だ!!


おいおい おめえ
きょうは
頭のぐえぇが
どうかしてんじゃ
ねえのけぇ
いつもの
調子で
かるくいこうよ
かるく……!!
いや!!
師匠は師匠
弟子は弟子
そこには
厳然たる一線が
画されて しかる
べきはず……


カ〜〜〜
朝っぱらから
つかれるなや
正治!!
いってえ
おめえはなにが
いいてえんだ
スカッといってみろ
スカッと

つまり そのおっぽり沼はかくなる現象で生まれ
いまじゃあヘラブナのメッカとして 多くの釣りキチどもをたのしませているということだが


おらにとっちゃあきょうが初挑戦!!


そういえばそうだったなおらは もうなんどもきてるけど
そんで……それがどうした……!?

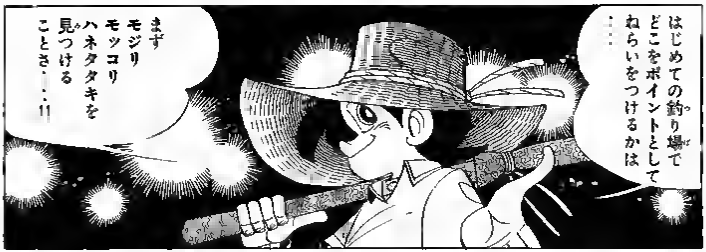

つまり なれてる釣り場ならともかくも
はじめての釣り場ではどうやってポイントのねらいをつけるのかおうかがいもうしあげます!!
あ〜〜〜ん


ま正治……
おめえ……
そんただことをきくために土下座なんかしとるのけえ!!


ハア…
なにとぞ一手ご教授のほどを…

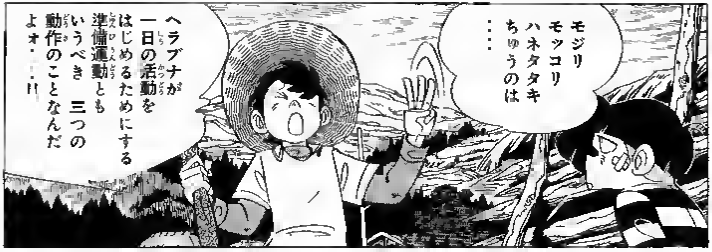

ガハハハハな――にが一手ご教授だい
ふざけたまねはやめろって正治!!

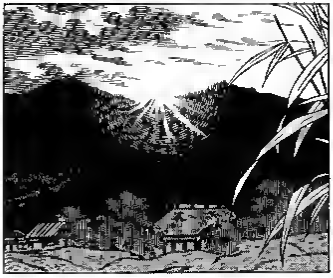

このおらが土下座してたのまなきゃあおしえねえなんて…
コキ
ケチな野郎に見えるかい!!


はじめての釣り場でどこをポイントとしてねらいをつけるかは…
まずモジリモツコリハネタタキを見つけることさ…!!

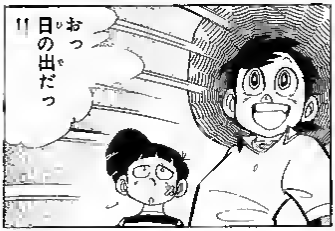

モジリモツコリハネタタキ…!?
な なにけえそりゃあ――ひょっとして昆虫の一種けえ…!?

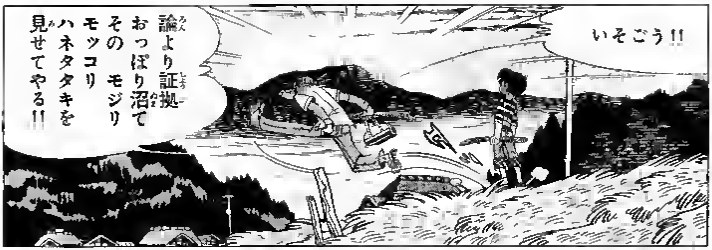

クッ!!


モジリ
モッコリ
ハネタタキ
ちゅうのは
……
ヘラブナが
一日の活動を
はじめるための
準備運動とも
いうべき 三つの
動作のことなんだ
よォ……!!

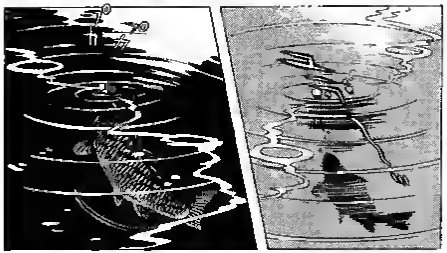



つまり
夜のあいだは
水底で やすんで
いた ヘラブナ
たちが
日の出を
むかえると
やおら
うごきだし・
スゝゝゝッと
水面さ
顔を出したり
とびあがって
しっぽで
はげしく水面を
たたいたり
するんだ

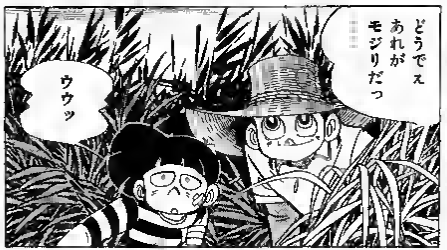

おっ
日の出だっ
!!


いそごう!!
論より証拠
おっぽり沼で
その モジリ
モッコリ
ハネタタキを
見せてやる!!



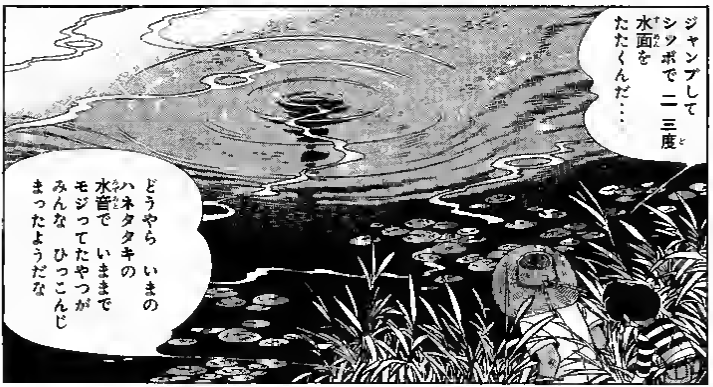

カ

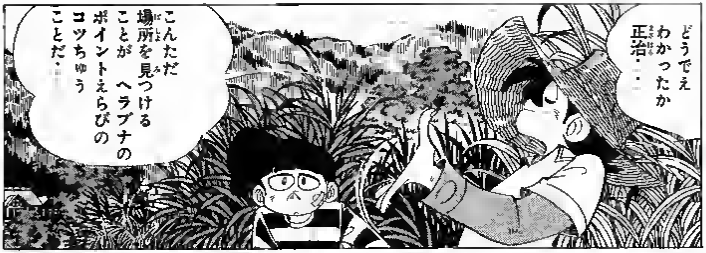

ゴゴゴ


どうでぇ
あれが
モジリだっ
ウウッ


ああして
からだを
モジモジさせながら
水面に口を出し
・・・
空気中の
酸素をすって
いるんだよ・・・
あわっ!!


おーい
とつぜん
でっけえ声を
出すんじゃ
ねえやい!!
あれが
ハネタタキ
だ・・・!!


ジャンプして
シッポで二三度
水面を
たたくんだ・・・
どうやら いまの
ハネタタキの
水音で いままで
モジってたやつが
みんな ひっこんじ
まったようだな


どうでえ
わかったか
正治…
こんただ
場所を見つける
ことが ヘラブナの
ポイントえらびの
コツちゅう
ことだ…

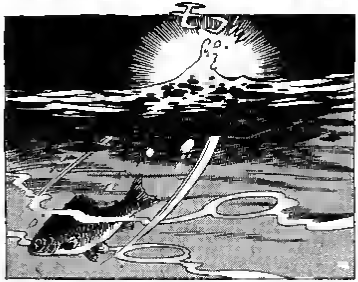

んだども
師匠!!
ヘラブナって
やつは
回遊魚だから
いちがいに ここが
ポイントだとは
きめられねえべ


おいおい
その師匠は
やめてけれ…
たしかに
おめえの
いうとおり
ヘラブナは
回遊魚だが
…


早朝の この時間には
まだ そんなには
おおばな回遊は
はじまって
いないから…
その近辺を
ポイントと見て
まちがいはねえ


ン!?



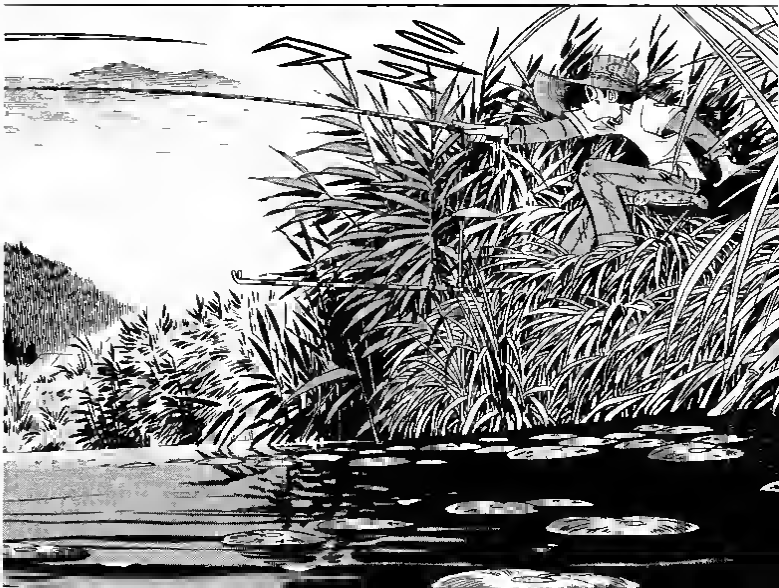


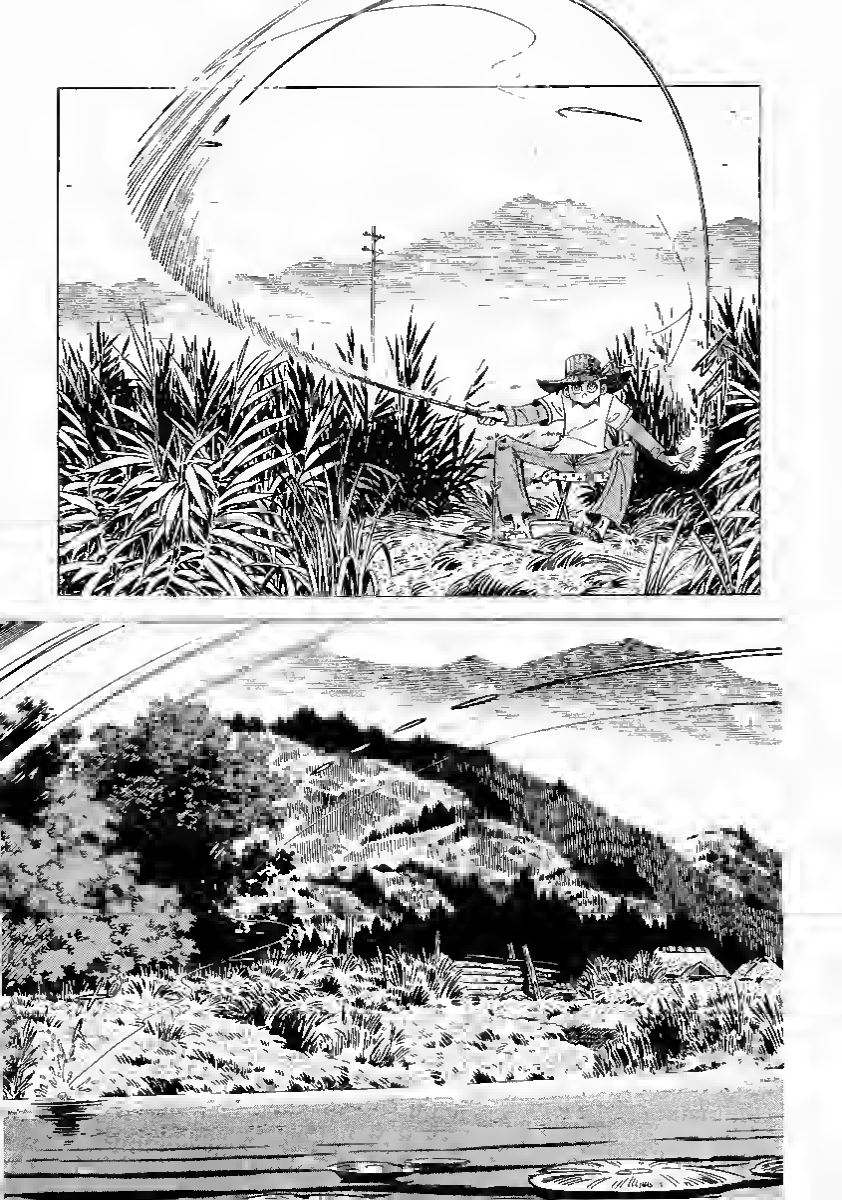

おお!!
あれが モッコリだ…
水面スレスレまで ういてきて 水面を モッコリと もりあげた かと思うと からだを ひるがえし 水中さ 消える…ってやつ…
いいけえ 正治 ヘラブナの ポイントを えらぶコツは…
この モジリ モッコリ ハネタタキの 三つのサインを いちはやく 見つけることだ
モジリ モッコリ ハネタタキの…
三つのサイン…!!
カ〜〜〜ッ たまげたなや ズバリ名解答を するところなんざあ!
さ——すが おらの師匠だ!!
おい 正治 おめえ なんどいえば わかるだ
その師匠って よびかたを やめろって!!
そんただことを いったって おらあもう だんぜん尊敬 しちゃってんだからア!!
ケッへへへ


おーい正治(しょうじ)
どこさ
いくだ
…!!
ケッヘッヘ
ちょっくら
ションベンを
…
クｰｰｰｯ!!
ションベン
なんか
してるひまは
ねえだ…!!
見ろ!!
太陽(たいよう)が　のぼり
はじめてるから
はやいとこ
釣(つ)り座(ざ)さついて
魚をよせねえと
どんどん
移動(いどう)して
しまうぞ
ｰｰｰっ!!




よ――し
ほんじゃあ
いくぞっ!!
ヒョオッ!!






カ～～ッ
あいかわらず
あざやかだ
なや……
師匠の
〝たすき振り〟
は……!!
おらは まだ
その振り方は
できねえ
から……
もっとも
基本的な
〝送り込み〟で
……
ヒョオッ!!


ヲ
腕をあげたなや正治・・・
とうぜん!!
なーにしろ師匠がいいときてるからなあ!!
ク〜〜〜ッ とうとう おらを師匠にしちもうたか・・・
ケッヘヘヘ


あわっ!!
ピク
ニギッ!!
オッ!!
ウヒャ〜〜〜ッ!!
きたっ!
きた〜〜っ!!


し 師匠――っ
やっぱし ヘラブナの
ポイントえらびの
コツは・・・
モジリ
モッコリ
ハネタタキの
三つのサインを
見つけることだ
ちゅうのは
ほんとうだ
なや
見ろ
一発で
このとおり
だ～～～っ


フフフ やっと
なっとくって
わけかい
まあ
なんにしても
けっこうな
こった


わ わかって
るって!!

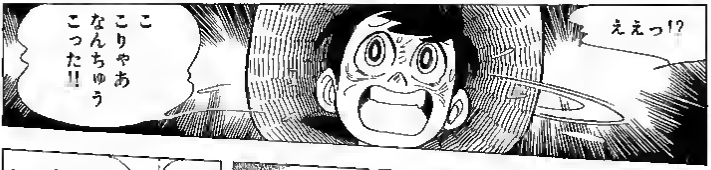

それにしても
正治・・・
こいつぁ
かなりの型
だぜ
ていねいに
いくんだ
ていねいに
・・・!!


ンンンンッ!!
やったwwwっ!!


やるじゃねえか 正治……!!
しょっぱなから 尺上クラスとは……!!
ガハハハ 最高だぜ このおっぽり沼ってとこは……
よ――し もういっちょう!!
ケッヘヘ やけにはりきりだしたな 正治……
ほんじゃあおれも ボチボチ腕まえのほどを見せるとするか!!
ヒョッ!!


ええっ
うちこんだウキがなじむかなじまねえうちにこれだ〜〜〜っ!!
フエ〜〜〜ッまただ――っ
クく〜〜ッ
どうやらいれ食いの状態らしいなや・・・
ホイッ!!
まいったな正治・・・
ひょっとしたらきょうのおめえはおらより釣るんじゃねえのけえ!!
ま――さか・・・!!
そんただこと万が一にもありうるはずがねえ!
まだ たったの二まいきりだから師匠に追いこされるのも時間の問題だべ


いやあ
そうとは
かぎらん
……
初心者が
ベテランを
おさえるって
ことも
よくある
ことさ
……
ヒョオッ
まただっ!!


ええっ!?
こ
こりゃあ
なんちゅう
こった!!


あっちには
バカスカ
こっちには
まるっきり
なんて……


よっ！ 師匠も
いよいよじゃ
ないスか!!


クーーーッ
エサがとけて
おちたんで
あたらしいのと
つけかえてる
ところだ!!

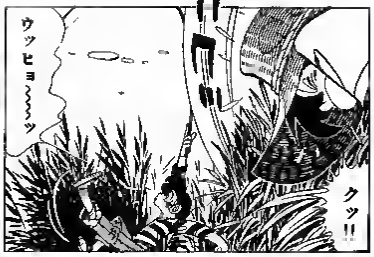

それにしても
きょうは
おかしい日だ
なや
おらみてえな
もんにばっかし
あたって
師匠には
まだ
一ぴきもこねえ
なんて……

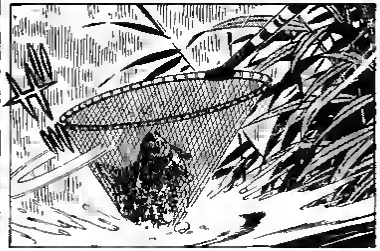

フフフ……
ヘラをやってると
こういうことは
ままあること
さ……


一メートルとはなれてねえポイントにならんで釣っているちゅうに
かたいっぽうばかしにあたってもういっぽうにはまるっきり釣れねえってことだってあるんだぜ!!
しかしそんなときにあぜるのがトウシロというやつ……
心得のあるやつならとなりのあたりは大歓迎!!
なぜなら……
となりの魚をてめえのポイントさよびこむって方法もあるんだ……

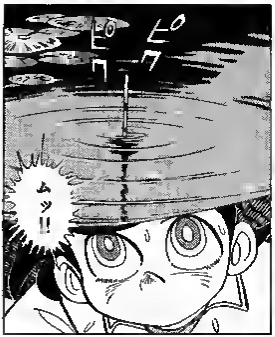

そ そんなま まさか師匠はおらのポイントから
てめえのポイントさ根こそぎ魚をつれていく気じゃあねえだろうなや!!
ガハハハわらわせるな正治……
おめえごとき相手に そんただ手をつかうひつようがどこにあるだ
ケッへへへ安心 安心……
ヒョッまたきたっ!!

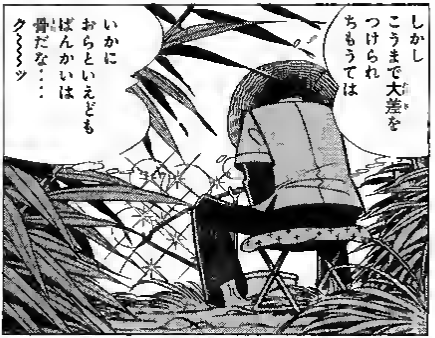



ガクン
ウッヒョ〜〜〜ッ
クッ!!




こりゃあ
いかん!!
なんぼなんでも
師匠とよばれる
いじょう
それなりのものを
見せなく
ちゃあ サマに
ならん!!

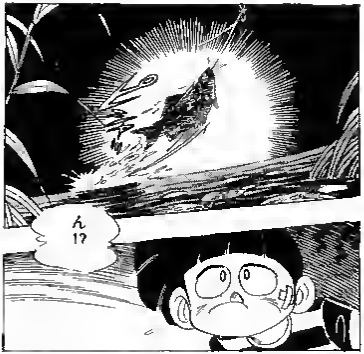

ムッ!!


しかし
こうまで大差を
つけられ
ちもうては
いかに
おらといえども
ばんかいは
骨だな・・・
ク〜〜〜ッ


そら
きたっ!!
わっ
さ――すが
師匠(ししょう)!!
とうとう
やったか!!


師匠(ししょう)のこった
から きっと
巨ベラだべ!!
ちょっと
本気(まじ)を出すと
す――ぐ これ
なんだから
正治(まさはる)・
あんまし
ギャーギャー
わめくんじゃ
ねえ!!
どう
したん
師匠(ししょう)


な なにも
おらが 釣った
からといって
きょ
巨ベラとは
かぎるめえ
あ～～～ん


ん!?

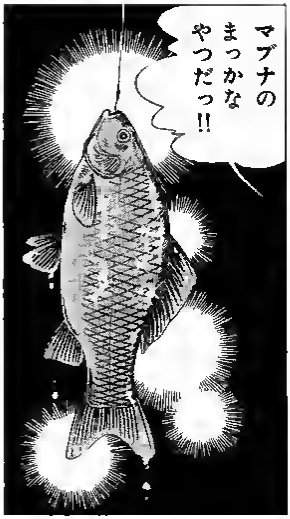

ンギ〜〜ッ
きょうは
なんちゅう
日だ……
初アタリが
こーんただ
小物とは


オッ!!


な なんでえ
こいつは
……!?
まっ
まっか
だァ!!


な　なんだべ
ま　まさか
キンギョじゃ
あるめえなや

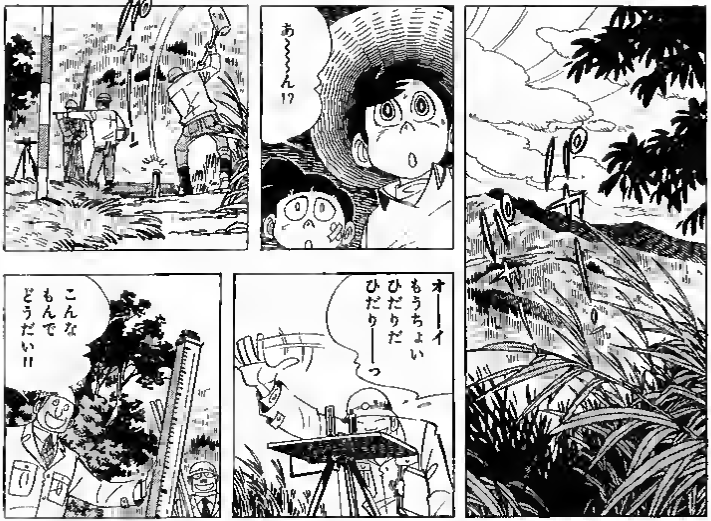

ま　正治
目ン玉を
ひんむいて
よーく
見ろ!!
こ　こいつあ
キンギョでも
コイでも
ヘラブナでも
なく…

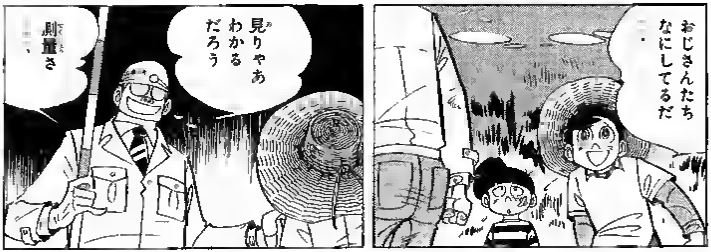

マブナの
まっかな
やつだっ!!


そ　そんなバカな
このおらだって
いままで　なんども
マブナ釣りした
ことはあるけど
こんだけ赤い
マブナだなんて
見たことも
きいたことも
ねえぜ!!


いや　体色の
まっかなことを
のぞけば
魚体
そのものは
まぎれもねえ
マブナだ
ちゅうことだ


とにかく
生かして
もちかえって
じいちゃんさ
見せるべ


あ〜〜〜ん!?
オーイ
もうちょい
ひだりだ
ひだり——っ
こんな
もんで
どうだい!!


おじさんたち
なにしてるだ
見りゃあ
わかる
だろう
測量さ


測量って
なんの……
……?
知らんのか
きみたちは
……
まもなく
この沼は
うめたて
られるんだ
測量は
そのための
ものさ……


ええっ!?
なんだってェ!!
こ このおっぱり沼を……
うう うめたてるってェ……!?
じいちゃん じいちゃん
じいちゃ〜〜ん!!


どうしただ三平……
えらいあわてて……


どうしたもこうしたもねえだじいちゃん!!
おっおっぽり沼がうめたてられちまうんだ!!


いまさかんと則量がやられとる……!!

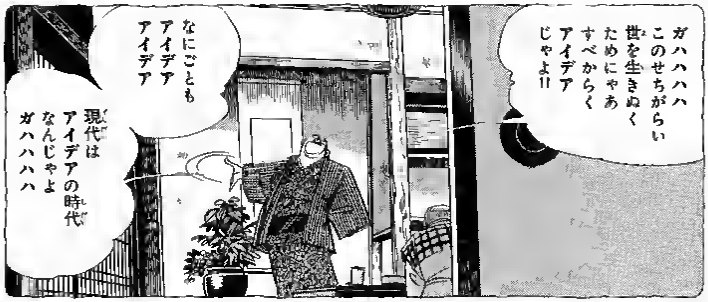

ウーームもうそんただ段階まですすんでたのか……


きょうも地主さんにかけあいにいってきたところじゃ……


ということはじいちゃん知ってたのけえ!?
ああだいぶまえから話があってのう……


ガハハハハ
くどいなあ
おめえさんの
いいてえことは
よーくわかる
……
しかし
あの沼の土地は
もともと わしの
所有地じゃ……


それが 過年の
大洪水のおり
堤防が決壊して
濁流がながれこみ
田畑が えぐり
とられてできた
水たまり……
その水たまりを
うめたてて
利用しようって
いうのを
おめえさん
たちに ケチを
つけられる
すじあいは
あるめえ!!
わしゃあな
あの沼を
うめたてて
一大養鶏場を
つくろうと
かんがえとるん
じゃよ!!


ガハハハハ
このせちがらい
世を生きぬく
ためにゃあ
すべからく
アイデア
じゃよ!!
なにごとも
アイデア
アイデア
現代は
アイデアの時代
なんじゃよ
ガハハハハ


あ あの おっぽり沼を つぶして 養鶏場を…
わしも だいぶ くいさがって みたんじゃよ
多くの 釣り人たちが たのしみ たいせつにしてる 沼だってことを な…
しかし かんじんの沼が 地主さんの 所有地と あっては
いかんとも しがたいん じゃよ…
それにしても 人間ちゅう動物は いってえ どれほど…
じいちゃんが ガキのころには
ちょっとした 田んぼなかの 小川でも 魚は ワンサカすんて いた…
魚や動物を 追いやれば 気がすむというだ
しかし このごろじゃあ 耕地整理とやらで 小川は直線化され コンクリートで かためられ ちもうている…
そんただ小川に 魚がすめるわけは あるめえ…

じゃが…
なにも　わしは
てめえが
釣りずきだから
そんただことを
いってるんじゃ
ねえ…

ただ
魚も鳥も
昆虫もカエルも
すまなくなったような
ところに　はたして
人間がすんで
いけるかちゅう
ことなんじゃよ
…

じ　じいちゃん

ン!?

お　おいさ　三平
こ　こりゃあ
どうしただ
……!?

こ　このポリ桶の魚は
…!!

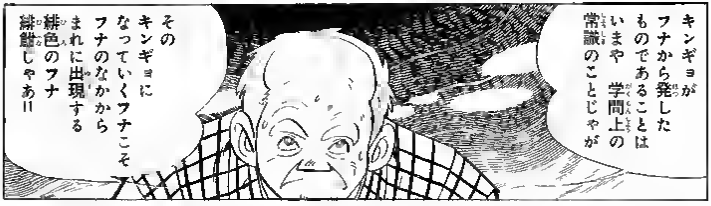
あぁっ
そ　そうだ

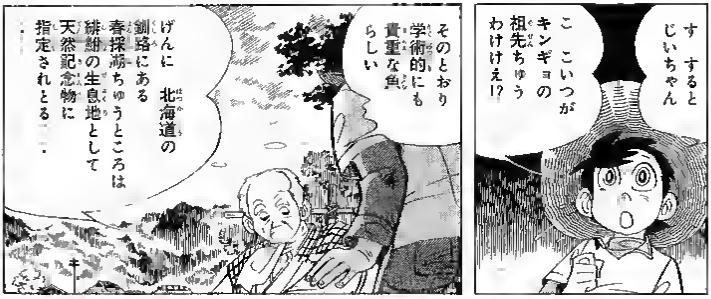
お　おらあうめたてのことで
びっくらこいて
すっかりわすれて
いただども

さ　さっき
おっぽり沼で
釣れたもんだ

色は　まっかだが
キンギョとは
ちがうようだから
とりあえず
じいちゃんに
見てもらおうと思って
もってきただ!!

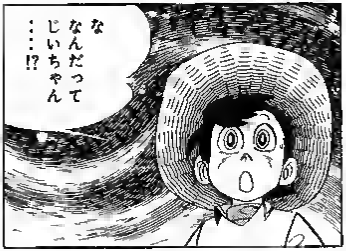

ひ 緋鮒じゃ……!!
ヒブナ……!?
そ そうじゃ……
どこから見ても寸分のくるいもねえマブナだが
体色のみが緋のごとくまっかなフナ……!!

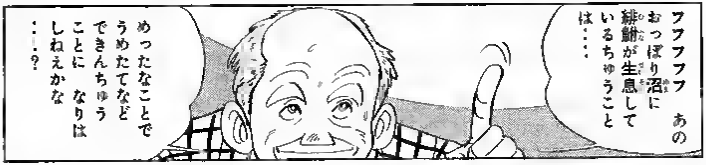

キンギョがフナから発したものであることはいまや学問上の常識のことじゃが
そのキンギョになっていくフナこそフナのなかから まれに出現する緋色のフナ緋鮒じゃあ!!


す するとじいちゃん
こ こいつがキンギョの祖先ちゅうわけけえ!?
そのとおり学術的にも貴重な魚らしい
げんに 北海道の釧路にある春採湖ちゅうところは緋鮒の生息地として天然記念物に指定されとる……

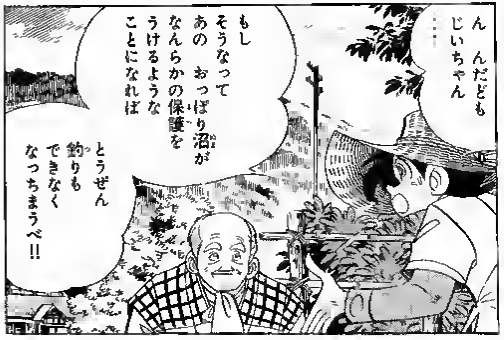

て 天然記念物……!?


フフフ 三平 それよりも ひょっとしたら……
こいつが おっぽり沼を すくってくれるかも しれんぞ……


な なんだって じいちゃん……!?


フフフフ あのおっぽり沼に緋鯉が生息しているちゅうことは……
めったなことでうめたてなどできんちゅうことに なりはしねえかな……?

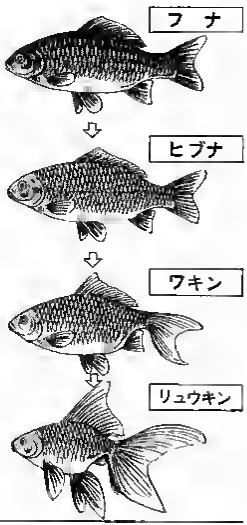

ああ…… そ そうか……!!


ん んんだども じいちゃん……
もし そうなって あの おっぽり沼が なんらかの保護を うけるような ことになれば
とうぜん 釣りも できなく なっちまうべ!!



緋鮒は 体色が赤色である以外の形態は フナと まったくかわりなく 体色が突然変異によって赤色に なったフナというのが定説である もちろんフナであるから 尾ビレは一まいで いわゆる「フナ尾」であるが この フナ尾がふたつにわかれた「ひらき尾」のものが キンギョのなかのワキンであり ワキンのからだがみじかく まるく それぞれのヒレがながくなったものが リュウキンといわれている つまり キンギョの品種の大部分は この緋鮒をもとにし 突然変異や交雑によって出現したかわりものを 人為的に淘汰選択してつくりだされたものといわれているので キンギョの祖先は緋鮒であり フナということになる しかし 祖先とはいっても キンギョがはじめて出現したころのフナと 現在のフナとは厳密にはおなじでないらしく 現在のフナがキンギョに変化することは不可能であるともいわれている このことは 人間の先祖が猿であるが 現在の猿から人間に変化することが 不可能ということとおなじことであろう なお 作中でもふれたが 北海道釧路市にある春採湖は緋鮒の生息地として国の天然記念物に指定されている

(矢口)



おっぽり沼の緋鮒の巻 おわり



■ふるさと

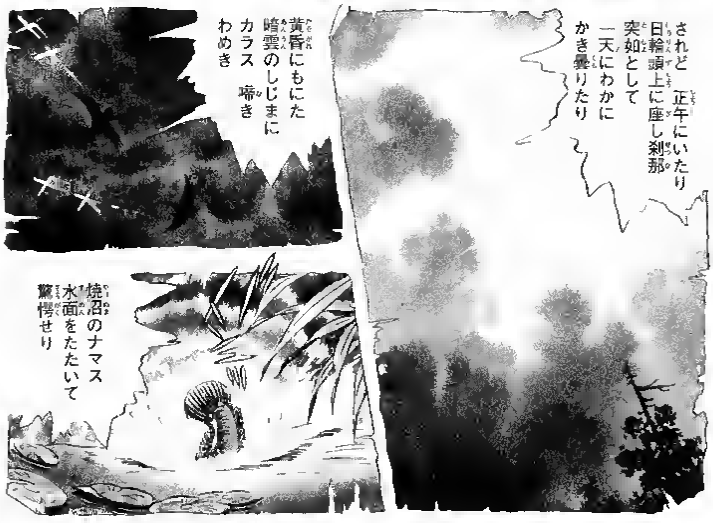
久しぶりに里帰りすると、子どものころ遊んだ池が埋めたてられていたり、曲りくねって流れていた小川がコンクリートでまっすぐに固められていたり、よく釣れた渕が護岸工事ですっかり変わっていたりすることがある。ボクの生まれた村は、子どものころはほとんどがワラぶき屋根の家だった。それも、このごろでは青や赤のカラートタンに変わり、窓もアルミサッシに、台所もステンレスの流し台の家が多くなった。

「ふるさとは、あまり変わってほしくないね。」と誰かが言った。気持ちはわかるが、ボクの考えはちがう。なぜふるさとが変わっていけないのだ。ふるさとを守り、ふるさとに住む人間にだって、アルミサッシやステンレスを求める権利があるはずだ。ふるさと故に、過去のまんまいなければならない理由はない。しかし、そういうボクの胸のどこかで、やはり少年のころの思い出が、一つ一つ消えていくのを見るのは、つらく、さびしい。

そんな気持ちで描いたのが、「おっぽり沼の緋鮒」でした。

焼沼の宇宙ブナの巻


この日の
空模様は
夜明けより
雲ひとつなき
日本晴れなり
……


されど 正午にいたり
日輪頭上に座し刹那
突如として
一天にわかに
かき曇りたり
黄昏にもにた
暗雲のしじまに
カラス 啼き
わめき
焼沼のナマス
水面をたたいて
驚愕せり


と！　いずこよりわきいでせしか暗雲の彼方よりひとすじの閃光が走りたり
閃光はしばし天空にとどまりとどまりたると思いきや　稲妻のごときになりてふたたび暗雲の彼方に消えたり
呆然たるひとときが流れようやくに　気をとりもどせしカラスの一声が　わたりし刹那!!
目もくらまんばかりの火の玉が焼沼の上を襲えり!!


火の王と
おぼしめし物体は
古老の昔話にも
聞かざりし
巨大なる円形の
物体にて
地鳴りとも
風鳴りともつかざる
唸りを発しつ
焼沼の上空に
とどまりたり
と!! その
円形なる物体の
下方より
五ひき 十ぴき
また 五ひき
……



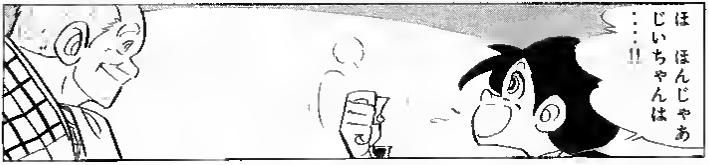
焼沼の宇宙フナの巻


宇宙ブナ……
ウムー
どうやら
ちかごろ
はやりの
UFOとやらに
のって…
宇宙のはての
かなたから
やってきた
フナという
意味で…
宇宙ブナと
名づけられた
ちゅうことと
らしい…
しかし
それにしても
じいちゃん!!
おらも
たしかに
UFOの存在を
信じてる人間の
ひとりだども…
なんぼなんでも
そのUFOさきのって
宇宙からフナが
やってきたという
話になると
むやみに
信じるわけにゃあ
いかねえなや…
だいたい
その
宇宙ブナって
いうやつは
どんなフナ
なんだい!!
いや
わしもまだ
見たことは
ねえから
なんとも
いえねえ
が…


この手紙をくれた男は沓沢熊吉ちゅうてわしのふるくからの釣り友だちじゃが
小学校の教頭先生であり地方の歴史研究家としても かなり名の知れた方じゃから

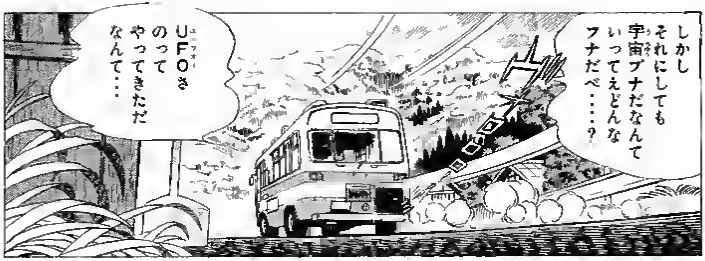

まんざらでたらめのつくりごととも思えねえ


とにかく あの沓沢先生がこうしてわざわざ手紙まで くれたことだし
ここでどうのこうのいってたところでラチがあくめえ


ほ ほんじゃあじいちゃんは……!!


フフフきまってるべ!!なにはともあれ焼沼ちゅうとこさいって……
じっさいに宇宙ブナちゅうやつを 釣ってみねえことには話になるめえ!!


カ～～～ッ
そうこなくっちゃあおもしろくねえぜじいちゃん!!


しかし
それにしても
宇宙ブナだなんて
いってえどんな
フナだべ……？
UFOさ
のって
やってきただ
なんて…


じいちゃん
どこさいくだ
……!?
ここは
お寺じゃ
ねえけえ!!

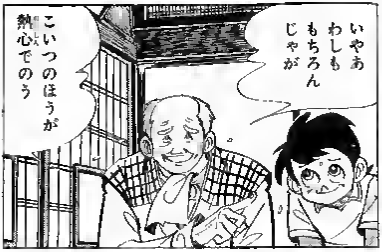



フフフ
沓沢先生は
小学校の教頭
でもあるが
このお寺の
住職でも
あるんじゃよ


ヘエ～～～ッ

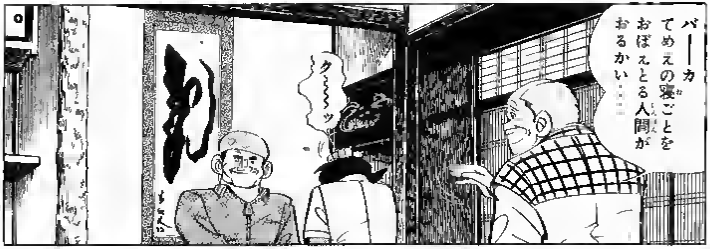

やあやあ
しばらく
しばらく
……
とにかく
あがって
あがって


一平じいさんの
ことだから あの
手紙を見たら
とんでくるだろうと
思うとったが
……
あんのじょう
じゃな
ガハハハ


いやぁ
わしも
もちろん
じゃが
こいつのほうが
熱心でのう


ゆんべなんか
夢んなかで
宇宙ブナ
釣ったらしく
三度も
大声で 寝ごとを
いいおっただ!!
ギョエ


じいちゃん
でたらめいうで
ねえ
おらあ
寝ごとなんか
いったおぼえは
ねえぞ!!


バーカ
でめえの寝ごとを
おぼえとる人間が
おるかい……
クゥ〜〜ッ


ハハハハ
それにしても
あの三平くんが
こんなに大きく
なったなんて
まさに
光陰矢の如し
とは
このこと
じゃな…


あのう
おらを知って
いるのけえっ？
へ？


知ってるかって
キミはおぼえて
ないのかい
わしといっしょに
フロにはいった
ことを…


おぼえて
おらんじゃろ
うな…
三平くんが
まだこーんなに
小さいじぶん
じゃったから


ケツの
まわりが
ことのほか
青い子ども
てのう
ーグ


そ　そんだ
ことより
沓沢先生!!
例の
宇宙プナの
話は
どうなってる
だ…


ハハハハ
人間の性質は
隔世遺伝すると
いわれとるが
こりゃあまさに
一平じいさんの
釣りキチの血を
そのまま　うけ
ついでいるな

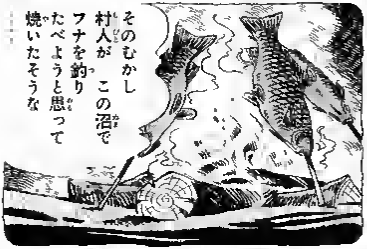

ク～～～ン
かわった人だ
なや…
お坊さんの
くせして
ベレー帽なんか
かぶったりして


それにしても
びっくりした
ろう……
まるで
SF小説もどきの
手紙だったから
いやあ
おめえさんの
こったから
まんざら
てたらめの
つくり話じゃ
なかろうと
思ったが……
いってえ
なにけえ
その　宇宙フナ
というやつは


この焼沼から
ときどき
奇妙なフナが
釣れるん
じゃよ……


ウム　じつは
手紙にも書いた
とおり　この村の
裏手に……
たいして
大きくはないが
焼沼ちゅうて
フナのよく釣れる
沼があるんじゃ
が……


ところが
この沼には
おもしろい
伝説が
あってのう


そのむかし
村人が　この沼で
フナを釣り
たべようと思って
焼いたそうな……

ところがそこへ
とある高名な
旅の僧が
とおりかかり
……

これ　村の衆
そのほうたちの
焼きおりし
フナの数は
昼めしの
おかずにしては
多すぎる……

フナといえども
御仏の前には
平等なる生命
……

食す以上に
とるごとき
ムダな殺生は
つつしまれよ
……

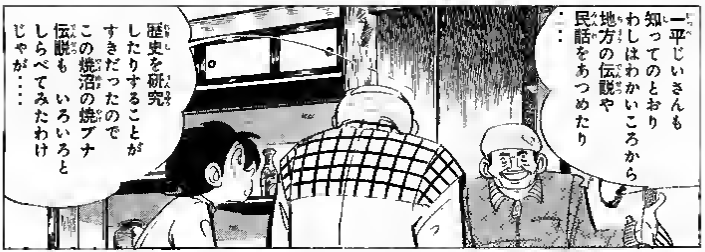
……といって
焼いたフナを
沼にもどし
……

なにやら
経文を　となえ
たところ

たちまち
そのフナは
生きかえり
沼の奥へと
きえていった
そうな……


ヘエ～～～ッ
おんもしれえ伝説だなあ
焼いたフナが生きかえっただなんて・・・
ウ～～～ン
名僧 高僧にまつわる伝説にこの手のものがじつに多いが
焼沼で 奇妙なフナが釣れだしたのは それからまもなくのことだったらしく
当時の村人はそのフナのことを焼沼の焼ブナとよんだそうじゃ
焼沼の焼ブナ・・・・


ウム・
科学文明のすすんだ今日の人々にとってこんな伝説などとるにたりない迷信ということになろうが・・・
事実 当時焼ブナとよばれた 奇妙なフナは いまなお普通のフナ十ぴきに対して 一ぴき
すなわち十パーセントの割あいで生息してるんじゃよ!!
ええっ!?
十パーセントも・・・


一平じいさんも
知ってのとおり
わしはわかいころから
地方の伝説や
民話をあつめたり
・・・
歴史を研究
したりすることが
すきだったので
この焼沼の焼ブナ
伝説も いろいろと
しらべてみたわけ
じゃが・・・

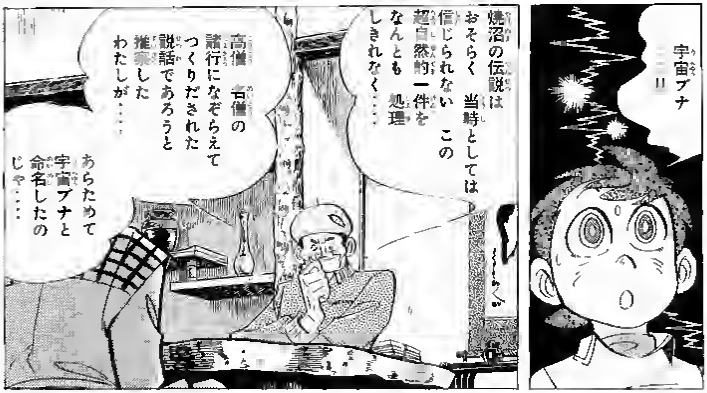

ある日
寺の書庫から
こんなもんが
あらわれて
きたんじゃ
なんだ
こりゃあ
!?


見てのとおりの
古文書じゃが
おそらく
この寺のなん代目かの
住職が おりにふれて
しるした 日記ふうの
エッセイ集とでも
いうべきもんじゃろ
問題は そのサシをはさんだところだ
ひらいて
みてくれ ・・・


沓沢先生ー
こいつぁ
あんまし達筆で
わしにゃあ
とんと読めん
サラサラ
カリカリ
つまり
先日手紙に
書いて
おくったのが
そのくだりを
要約した
ものじゃ!!


呆然たるひとときが流れようやくに気をとりもどせしカラスの一声がわたりし刹那
目もくらまんばかりの火の玉が焼沼の上を襲えり！
火の玉とおぼしめし物体は古老の昔話にも聞かざりし巨大なる円形の物体にて……
地鳴りとも風鳴りともつかざる唸りを発しつつ焼沼の上空にとどまりたり……
と!! その円形の物体の下方より五ひき 十ひき……また五ひきと……
あきらかにフナとおぼしき魚体が舞いおり沼のなかへときえにけり
われ おどろきのあまり 腰たたずしばし草むらに座して ときをすごせし後
いそぎ 村にかえりて 子細を話せど 信ずる者唯一人としてなし……!!


つまり これは
あきらかに
筆者の実体験で
あり…!!
円型の物体とは
今日でいう
UFOの飛来を
意味せずして
なんと説明が
つけられよう!!
これこそ
UFOの飛来
であり
焼沼に 舞い
おりたものは
宇宙のかなたから
やってきたフナ
…
すなわち
宇宙フナ
…

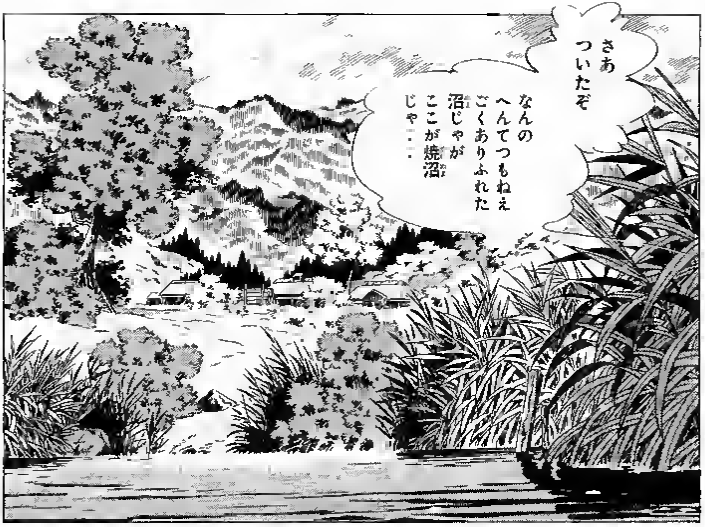

宇宙フナ
……!!
焼沼の伝説は
おそらく 当時としては
信じられない この
超自然的一件を
なんとも 処理
しきれなく…
高僧 名僧の
諸行になぞらえて
つくりだされた
説話であろうと
推察した
わたしが…
あらためて
宇宙フナと
命名したの
じゃ…

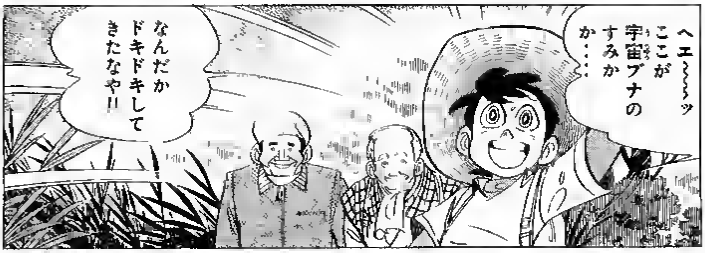

なるほど　さすが
地方の歴史を
熱心に研究しとる
おめえさんだけに
じつに興味ある
推理じゃな……
しかし　その
かんじんの　宇宙ブナ
とは　いってえどんな
フナなんでえ……

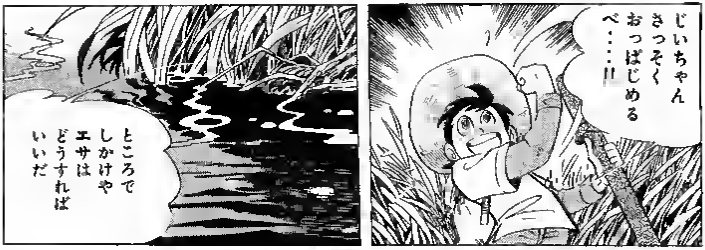

ギョヒヒ
そいつあ　わしの
口から　どうの
こうのと　説明
するよりも
てめえの手で
釣ってたしかめるほうが
スリルがあって
いいんじゃねえの
かい!?


ほんじゃあ
これから
釣りに!!


きまってるじゃ
ねえか
そのつもりで
きたんじゃろ!!
ウッヒョ〜〜ッ!!


さあ
ついたぞ
なんの
へんてつもねえ
ごくありふれた
沼じゃが
ここが焼沼
じゃ……


ヘエ～～～ッ
ここが
宇宙プナの
すみか
か……
なんだか
ドキドキして
きたなや!!


じいちゃん
きっそく
おっぱじめる
べ……!!
ところで
しかけや
エサは
どうすれば
いいだ


ハハハハ
宇宙フナと
いえども
習性はほとんど
普通のフナとは
かわらないから
普通の
フナ釣りの
しかけとユサで
いいさ…
ほんじゃあ
おらは 赤ムシの
フサがけで
いくから
じいちゃんは
ネリエサで
やってみたら…
フフフ
よかろう
よかろう
よ——し
まずは
赤ムシを
五 六ひき
フサがけに
してと…
ほんじゃあ
おさきに!!
ヒョオッ!!


ポト…
ヘエ～～～ッ
はやいのう
もう はじめ
おったか…
ケッヘヘ
竿をだすのと
メシを食うの
だけは めっぽう
はやいやつでして
…


じいちゃん
それを
いうなら
魚を
釣りあげる
のも はやいと
いってもらい
てえな!!
ピク
ヘル
ホラ きた
どうでえ!!
ガッハ――ッ!!
ン!?
あっというまに
腹の赤い
宇宙ブナを
釣っちまう
なんて
ハハハハ
すんごいで
ねえけえ
三平!
あやっ!!


クッソオ!!
ヒョッ!!
ヒュ
ああっ もしや 宇宙(そら)ブナでは……!?
クゥ〜〜ッ!!
ハハハハ こりゃあやっぱし 釣るのもはやいと 訂正(ていせい)せにゃあいかんな


ンムッ!!
ウ〜〜〜ンざんねん
どうやら宇宙(うちゅう)フナじゃねえようじゃな
ハハハハ
そんなに簡単(かんたん)に釣(つ)れるわけあるめえ
ああホントだ
普通(ふつう)のフナだ……
よ——し
こうなったらじいちゃんよりはやく宇宙(うちゅう)フナを釣(つ)りあげてハナをあかしてやる!!

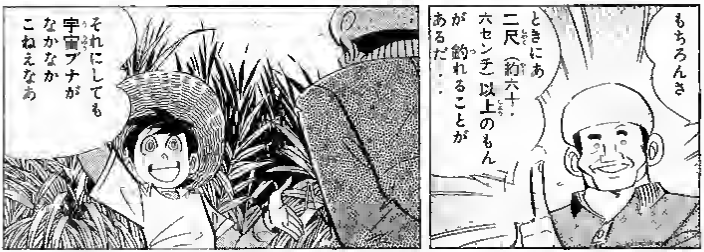

ウ〜〜ン
ゴクリ
それにしても
宇宙プナって
どんただ
やつだべ・・・
そりゃ
きたっ!!
ン!?


おっ
いいひき
してるな!!
ウム!!
クッ!!
も もしや
宇宙(うちゅう)ブナ
では・・・
あぁ・・・!!


こりゃまた
ざんねんだな
三平……
一荷で
きたけど
普通のフナ
とは……
ク～～～ッ
それにしても
魚影のこい
沼だな　この
焼沼は……
おおっ
一平じいさん
きてる!!
オット
うっかり!!
ウオッ!?
これ
は……
!?


ああっ!!
すんごいひき!!
な なんだこりゃあ……!?
あうっ!!
ああっ!!
じいちゃんど どうしただ……


ハハハハ
尺ゴイが
かかったん
じゃよ！
そのしかけに
尺ゴイが
きたひにゃあ
たまった
もんじゃあ
あるまい!!
へエ～～～ッ
すると この沼には
コイも いるん
ですか……


もちろんさ
ときにあ
二尺（約六十・六センチ）以上のもん
が 釣れることが
あるだ……
それにしても
宇宙ブナが
なかなか
こねえなあ


きまってるべ
フナ十ぴきに
一ぴきのわりしか
いねえという
から……
そんたら
簡単に
釣れるもんじゃあ
あるめえ
じゃが
運のよい
ときにゃあ
十ぴきのうちに
三びきも 宇宙ブナが
まじる日もあるだ
……


まあ しかし
いずれにせよ
生息数が
ひくいから
あたる
あたらぬは
運賦天賦か
……
ウ～～～ン
運賦天賦か

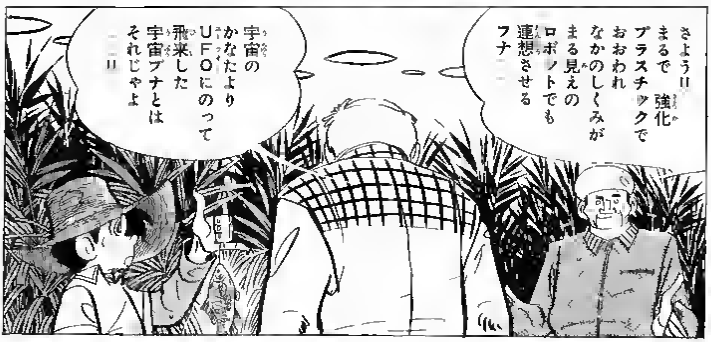

ああっ!!
きてるっ!!
ヒョッ!!
ハハハ
置き竿に
あたったの
か!!

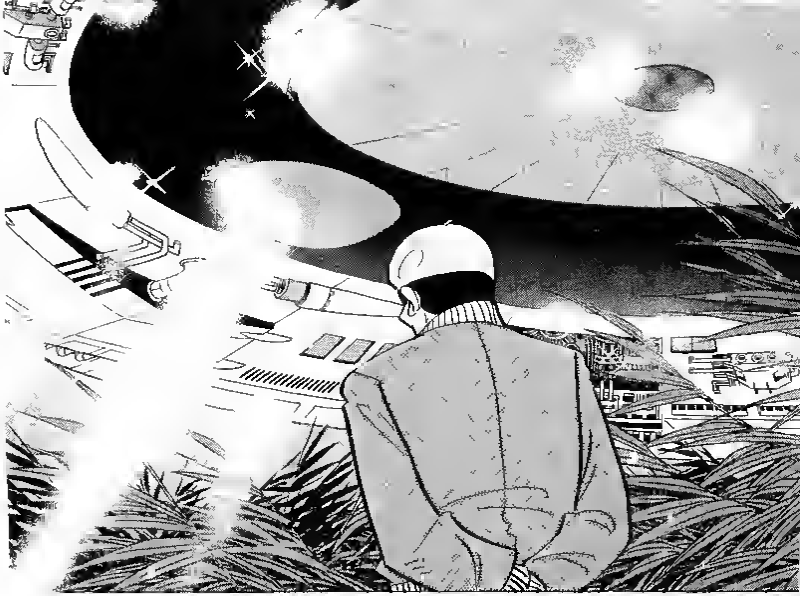

ハハハハ
三平！
でっけえ声をだしたわりにはたいしたあたりではなさそうだな…
ケッヘヘまいったまいった
これじゃあ大声をだしただけそんしただ…
ムッ!!
あれおかしいなや…
オモリがあんだとこまであがってるちゅうに魚はいってえどこさいるだ…!?


宇宙ブナだっ!!
そ そいつが宇宙ブナなんだよ三平くん!!
ええっ!?
!!
ど どこさいるだ宇宙ブナは……
きみの竿にかかってるやつじゃないかっ!!
思いきってゴボウヌキにしてみろ!!
ハハイ


ン――ッ!!


な なんだ
こりゃあ……!?
ああっ!!
おお
三平
そ それは
な なんちゅう
こった
ウロコが
透明のため
内臓が
すけて見える


さよう!!
まるで 強化
プラスチックで
おおわれ
なかのしくみが
まる見えの
ロボットでも
連想させる
フナ
宇宙の
かなたより
UFOにのって
飛来した
宇宙フナとは
それじゃよ
——!!




ああっ
じいちゃん!!
じいちゃんの
竿も!!
ウオッ
ヒョッ


う　宇宙ブナ!!


うわあ
じいちゃん
じいちゃんのも
宇宙ブナだ!!



ぼく(矢口)は　かつて宇宙フナを釣ったことがある　いや　宇宙フナというのは　いうまでもなくぼくの創作したよび名にほかならないのだが　ある日の釣りで　エラブタやウロコか透明のため　からだか内部まですけて見えるほどのフナを釣ってえらくあわてたのである「こいつは　突然変異による奇形フナだな!?」と　とっさに直感したわけだが　内部のメカニックがすけて見えるプラスチック製のロボットが連想され　ひょっとしたらこのフナは　UFOかなんかにのって　宇宙のかなたからやってきたもののように思えてきたのだった　内臓まではすけて見えないまでも　透明なウロコをもつ金魚や錦鯉はよく見かけるし　それらのほとんどは　突然変異によってあらわれたものを交配させて　人工的につくりあげたものであるわけて　この透明ウロコのフナも　きっとそのてのものにちがいないと思っていたところ　ある日　金魚の研究家故松井佳一博士の著書にふれたその著書には「こうしたフナは　エラブタやウロコに　グアニンの虹胞層をかくために生する一種の突然変異であるとかんがえられる」とあり　現在でも　富山県のある区域では　採集されたフナのなかに　10パーセントちかいものが透明ウロコのフナだったという報告もある。



焼沼の宇宙フナの巻　おわり

■伝説



伝説や昔ばなしなどのなかには、それが語り伝えられた背景や、時には科学的な裏付けが理解できるものがしばしばある。たとえば「夕鶴」のタイトルで有名な鶴の恩返しは、助けられた鶴が美しい女性になって、助けた男のお嫁さんになるというお話である。しかし、いくら昔のこととはいえ、鶴が人間になるなどということは絶対ありえない。だが、貧しかった当時の農家の次男坊や三男坊の暮らしを考えると理解できる。当時、次男坊や三男坊は田ンボもわけてもらえず、お嫁さんさえもらえなかった。そんな男たちが、美しい姿で大空を飛んでいく鶴を見て――「あの鶴が美しい娘さんになって、自分のお嫁さんになってくれたらいいなア」と考えた――としたら、「夕鶴」はそんな男たちの夢物語ということができるだろう。

羽衣鯛も宇宙鯛も実在する魚ですが、ドラマの味付けとして民話や伝説ふうなフィクションを加えてみました。いかがでしたでしょう。

あとがき

矢口高雄

ボクが漫画界にデビューしたのは昭和四十五年の六月だから、早いもので漫画家生活もことしで十五年ということになる。じつは、漫画家になるまえボクは、郷里の秋田で十二年二か月ものあいだ銀行員（羽後銀行）をしていた。

昭和四十年の夏のことだった。仕事も終わり帰宅途中に、一人の見なれない釣り人に会った。釣り人は、その身なりや、肩にかけたりっぱな竿ケースなどから、かなりの釣り師であることがうかがえたし、少なくとも土地の釣り師でないことは一見してわかった。

釣りキチのボクはたちまち話しかけた。相手はニッコリ笑って、すかさずポケットから一枚の名刺をだした。

北関東ヘラ研究会長、加藤魚紳……名刺にはそう印刷されていた。加藤氏の目的は、「貝沼に青ブナなるものがすんでいるとの噂をきき、釣ってみようとやってきた」だった。貝沼は、当時ボクのすんでいた湯沢市からバスでおよそ一時間ほどのところにある小型のカルデラ湖であるが、ボクはそれま





てついぞ青ブナなるものの名まえも噂もきいたことがなかった。

とにかく加藤氏を地元の釣友会のメンバーに紹介がてら、青ブナの情報を集めるために走りまわった。しかし、貝沼は付近の人々がそう呼んでいるという程度のことしかわからなかった。

「論より証拠。釣ってみるべエ。」との相談がまとまり、加藤氏のほか釣友会のメンバー三、四名が勇躍貝沼にのりこんだのは翌日のことだった。ボクは残念ながら銀行勤めのために参加できず、くやし泣きにくれながら後日その結果を聞くにとどまった。

それによると、青ブナなるものの正体は、背の色が青味をおびたヘラブナで、水中ではその青味がいっそうあざやかな色あいをしめしたという。加藤氏は、その青ブナを五十センチ級をふくめて四枚釣りあげた……と、証拠のカラー写真をみせながら、釣友会のメンバーの一人が興奮しながら報告してくれた。

ボクはその話をききながら、いつしか貝沼の青ブナをひとつのロマンとしてみつめていた。いずこかの湖沼で生まれた

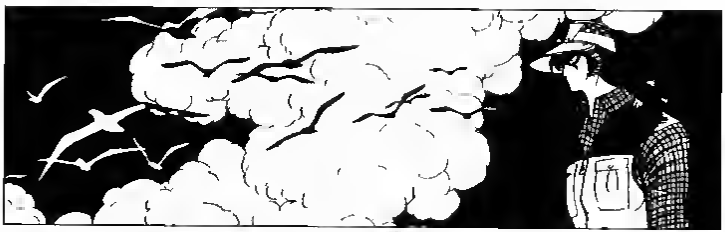


ヘラブナが、水鳥の足について大空からはこばれてきたのではないだろうか……。そして、その卵からかえったヘラの稚魚が、貝沼の外輪のあくまでも深い緑と、青い澄みきった水につつまれて暮らしているうちに、身も心も青味をおびていったのではなかろうか。

この青ブナと呼ばれる巨ベラの話もさることながら、釣友会のメンバーたちは加藤魚紳氏の釣技にはことのほか感服したらしく、しばらくはその話題でもちきりだった。話題のすみでボクは、歯ぎしりしてくやしがった。もし再び会う機会を得たら、ぜひ加藤魚紳氏と竿をまじえたいものだとギンギンに思った。

そんな想い出をもりこんで描いたのが、「カルデラの青鮒」であるが、同時に、それっきりで今まで一度も竿をまじえることができなかった加藤魚紳氏のイメージがボクの脳裏に焼きついて、やがて鮎川魚紳なるキャラクターに発展していったのである。

人と人とのめぐり会いとは、なんと不思議なものであろう。



鮎川魚紳。「釣りキチ三平」の重要なキャラクターだ。▲

あなたは、この本を読んで、どんな感想をおもちになりましたか。

編集部では、この本についての読者のみなさまのご意見をおまちしています。

このつきには、どんな作家のどんな漫画を読みたいと、お考えですか。「KCスペシャル」にしてほしいと思う作品がありましたら、「読後の感想」とあわせて、左記あてに、どしどしお知らせください。

東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号
〈郵便番号一一二―〇〇一〉
「講談社コミソクス」編集部
KCスペシャル係

KCスペシャル―158

釣りキチ三平―第二集

一九八五年八月六日第一刷発行
一九九七年五月十日第二十六刷発行
定価はカバーに表示してあります。

著者 矢口高雄
発行者 五十嵐隆夫
発行所 株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
郵便番号一一二―〇〇一
電話 編集部(〇三)五三九五―三四五九
販売部(〇三)五三九五―三六〇八
印刷所 廣済堂印刷株式会社
製本所 誠和製本株式会社

©矢口高雄 一九八五年

落丁本・乱丁本は、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。
電話(〇三)五三九五―三六〇三
なお、この本についてのお問い合わせは、週刊少年マガジン編集部宛にお願いいたします。
本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN4-06-101158-8 (マ) Printed in Japan